青森県埋蔵文化財調査報告書　第532集

# 駒木沢(2)遺跡

－ 県営一般農道整備事業(過疎基幹)に伴う遺跡発掘調査報告 －

２０１３年３月

青森県教育委員会

遺跡遠景（北東から阿闍羅山側を望む）

調査区遠景（上が北）

基本層序②（南から）

第１号竪穴住居跡
完掘（南西から）

第７号竪穴住居跡
床面出土遺物

# 序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成22年度から23年度にかけて県営一般農道整備事業予定地内に所在する駒木沢(2)遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、遺構では縄文時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑などが確認されました。遺物では多量の土器・石器のほか、人面が表現されたスタンプ形土製品が出土しました。これにより、該期の集落の構造や土地利用等に加え、縄文時代の精神文化を知るうえでも貴重な成果を得ることができました。

本報告書はこれらの調査成果をまとめたものです。この成果が、埋蔵文化財の保護等に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを心から期待いたします。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたり、ご指導・ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成25年３月

青森県埋蔵文化財調査センター

所 長 柿 崎 隆 司

# 例　言

1　本書は、青森県農林水産部農村整備課による県営一般農道整備事業（過疎基幹）に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成22年度及び平成23年度に発掘調査を実施した大鰐町駒木沢(2)遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は、1,400㎡である。

2　駒木沢(2)遺跡の所在地は、青森県南津軽郡大鰐町大字長峰字駒木沢地内で、青森県遺跡番号は362045である。

3　発掘調査及び整理・報告書作成の経費は発掘調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。

4　発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

| | |
|---|---|
| 発掘調査期間 | 平成22年10月４日～同年10月29日 |
| | 平成23年８月９日～同年10月７日 |
| 整理・報告書作成期間 | 平成23年４月１日～平成24年３月31日（平成22年度調査分） |
| | 平成24年４月１日～平成25年３月31日（平成23年度調査分） |

5　本書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆及び編集は、中嶋友文副参事、大平哲世文化財保護主査、荒谷伸郎文化財保護主事、成田滋彦文化財保護主幹が担当した。執筆分担は、第１章第１節を中嶋、第１章第２・３節と第２章を大平・成田、第３・５章を荒谷が担当し、編集は荒谷がおこなった。なお、依頼原稿については、文頭に執筆者名を記した。

6　発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

| | |
|---|---|
| 幅杭設置及び水準測量 | 株式会社常磐測量設計 |
| 空中写真撮影 | 株式会社シン技術コンサル |
| モザイク写真作成 | 株式会社シン技術コンサル |
| 縄文土器の実測 | 株式会社アルカ |
| 剥片石器の実測 | 株式会社アルカ |
| 遺物の写真撮影 | シルバーフォト、フォトショップいなみ |
| 樹種同定 | 株式会社パレオ・ラボ |

7　石質鑑定は調査員の山口義伸氏に依頼しておこなった。

8　本書は、発掘調査成果の正式報告として刊行するものである。発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。

9　発掘調査成果の一部は、現地見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。

10　本書に掲載した遺跡位置図等は、国土地理院発行の１/25,000地形図と１/50,000地形図を複写して使用した。

11　測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅹ系による。

12　挿図中の方位は、世界測地系の座標北を示している。

13　遺構図面の縮尺は原則１/60とし、炉の拡大図を1/30とした。

14　遺構図面の各図には４ｍグリッド交点杭と杭名を記載したが、図上に４ｍグリッド交点杭が掲載されない場合には近隣の４ｍグリッド交点杭から任意に計測した点を掲載した。（図例：『H-22から 北に２ｍ東に１ｍ』→H-22グリッド交点杭から、北に２ｍ、東に１ｍの点であることを示す）

15　遺構図面の土層断面図等には、水準点を基にした海抜標高を付した。

16　遺跡の基本土層の層順にはローマ数字、遺構の層順には算用数字を使用した。

17　土層の色調表記等には、『新版標準土色帖　2004･2005年度版』（小山正忠・竹原秀雄編 農林水産省農林水産技術会議事務室監修）を使用した。

18　遺構については、種別を示す略号を用い、検出順にそれぞれ通し番号を付した。略号は以下のとおりである。

ＳＩ－竪穴住居跡、ＳＢ－掘立柱建物跡、ＳＫ－土坑、ＳＮ－焼土遺構、ＳＶ－溝状土坑

19　遺構図面に使用した網掛けの指示は以下のとおりである。これ以外は個別に説明を付した。

焼土

20　遺物実測図に使用した網掛けの指示は以下のとおりである。

磨り範囲

21　整理時に遺構名を変更したもの及び欠番としたものは、観察表の項で示した。

22　遺物に使用した略号には、「Ｐ－土器」、「Ｓ－石器・自然礫」がある。

23　遺物実測図の縮尺は、原則として土器・礫石器は１/３、小形の土器・剥片石器は１/２としたが、大形の土器や石器については１/４もしくは１/５とし、各図にはスケールと縮尺率を置いた。

24　遺物写真は縮尺不同で、個々の番号は遺物実測図の番号と一致する。

25　遺物観察表には、出土地点・法量・諸特徴等を記載した。計測値の内、残存値については（　）、推定値については〈　〉表記とした。

26　引用文献は巻末に収めたが、依頼原稿については文末に付した。

27　発掘調査および整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た。

大鰐町教育委員会、丸山 浩治（順不同･敬称略）

# 目　次

序
例言
目次

第１章　調査の概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の方法 …… 1
　　１　発掘作業の方法 …… 1
　　２　整理作業の方法 …… 2
　第３節　調査の経過 …… 3
　　１　発掘作業の経過 …… 3
　　２　整理作業の経過 …… 4

第２章　遺跡の環境 …… 6
　第１節　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 6
　第２節　遺跡周辺の地形及び地質について …… 8
　第３節　基本層序 …… 11

第３章　検出遺構と出土遺物 …… 12
　第１節　概要 …… 12
　第２節　遺構 …… 12
　　１　盛土遺構 …… 12
　　２　竪穴住居跡 …… 14
　　３　掘立柱建物跡 …… 22
　　４　土坑 …… 23
　　５　焼土遺構 …… 24
　　６　溝状土坑 …… 24
　　７　ピット …… 25
　第３節　遺構外出土遺物 …… 25
　　１　土器 …… 25
　　２　土製品 …… 27
　　３　石器 …… 27
　　４　石製品 …… 29

第４章　自然科学分析 …… 66
　第１節　樹種同定 …… 66

第５章　まとめ …… 69

引用・参考文献 …… 70
遺構計測表 …… 71
遺物観察表 …… 73
写真図版 …… 81
報告書抄録

# 挿図目次


図１　遺跡周辺の地形 …… 6
図２　遺跡の位置と周辺の縄文時代遺跡 … 7
図３　遺跡周辺の地質図 …… 10
図４　基本層序 …… 11
図５　遺構配置図 …… 13
図６　竪穴住居跡（１）…… 30
図７　竪穴住居跡（２）…… 31
図８　竪穴住居跡（３）…… 32
図９　竪穴住居跡（４）…… 33
図10　竪穴住居跡（５）…… 34
図11　竪穴住居跡（６）…… 35
図12　竪穴住居跡（７）…… 36
図13　竪穴住居跡（８）…… 37
図14　掘立柱建物跡 …… 38
図15　土坑（１）…… 39
図16　土坑（２）…… 40
図17　焼土遺構/溝状土坑/ピット …… 41
図18　土器・土製品（１）…… 42
図19　土器・土製品（２）…… 43
図20　土器・土製品（３）…… 44
図21　土器・土製品（４）…… 45
図22　土器・土製品（５）…… 46
図23　土器・土製品（６）…… 47
図24　土器・土製品（７）…… 48
図25　土器・土製品（８）…… 49
図26　土器・土製品（９）…… 50
図27　土器・土製品（10）…… 51
図28　土器・土製品（11）…… 52
図29　土器・土製品（12）…… 53
図30　土器・土製品（13）…… 54
図31　土器・土製品（14）…… 55
図32　土器・土製品（15）…… 56
図33　土器・土製品（16）…… 57
図34　土器・土製品（17）…… 58
図35　石器・石製品（１）…… 59
図36　石器・石製品（２）…… 60
図37　石器・石製品（３）…… 61
図38　石器・石製品（４）…… 62
図39　石器・石製品（５）…… 63
図40　石器・石製品（６）…… 64
図41　石器・石製品（７）…… 65


# 写真図版目次


写真１　第１号竪穴住居跡 …… 81
写真２　第２号竪穴住居跡 …… 82
写真３　第３・９号竪穴住居跡
　　/第23号土坑 …… 83
写真４　第４号竪穴住居跡 …… 84
写真５　第５・８号竪穴住居跡…… 85
写真６　第６号竪穴住居跡（１）…… 86
写真７　第６号竪穴住居跡（２）…… 87
写真８　第７号竪穴住居跡 …… 88
写真９　第１号掘立柱建物跡/第３号土坑
　　/第２号焼土遺構 …… 89
写真10　土坑（１）…… 90
写真11　土坑（２）…… 91
写真12　土坑（３）…… 92
写真13　土坑（４）…… 93
写真14　第１号焼土遺構/第１号溝状土坑
　　/盛土範囲 …… 94
写真15　土器・土製品（１）…… 95
写真16　土器・土製品（２）…… 96
写真17　土器・土製品（３）…… 97
写真18　土器・土製品（４）…… 98
写真19　土器・土製品（５）…… 99
写真20　土器・土製品（６）…… 100
写真21　土器・土製品（７）…… 101
写真22　土器・土製品（８）…… 102
写真23　土器・土製品（９）…… 103
写真24　土器・土製品（10）
　　/石器・石製品（１）…… 104
写真25　石器・石製品（２）…… 105
写真26　石器・石製品（３）…… 106

# 第１章　調査の概要

## 第１節　調査に至る経緯

県営一般農道整備事業（駒木沢地区）に係る周知の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、農村整備課から青森県教育庁文化財保護課（以下「文化財保護課」）に平成19年度に照会があった。これを受け、同課が中南地域県民局とともに現地踏査をおこなった結果、駒木(1)遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地内の工事であるため試掘調査が必要とされた。また、駒木沢地区については、畑地で縄文土器片を確認したことから、杉浦地区を含め地形的に遺跡が連続する可能性のある区域の試掘調査が必要であると判断された。

平成21年８月に文化財保護課が試掘調査を実施した結果、駒木(1)遺跡と杉浦地区の発掘調査は不要となり、駒木沢(2)遺跡の発掘調査が必要とされた。

事業者側から土木工事等のための発掘に関する通知は、平成22年３月に提出され、当該区域の発掘調査が実施されることとなった。

## 第２節　調査の方法

### １　発掘作業の方法

試掘調査で縄文時代の遺構・遺物が確認されていたことから、本調査では集落構造等の把握を目的に、遺構調査に重点をおいて調査にあたった。

〔測量基準点・水準点の設置とグリッドの設定〕　測量基準点と水準点については、業務委託により設置した基準杭を基に、調査区周辺に任意杭を増設して使用した。グリッドは公共座標値Ｘ＝58080.000、Ｙ＝-17660.000を基準点（Ａ－０）とし１辺４ｍで設定した。各グリッドは南から北にアルファベット、西から東に算用数字を付し、その組み合わせによる南西隅の杭名を用いて「Ｈ－14」や「Ｋ－28」のように表記した。

〔基本層序〕　基本層序は、任意の地点を深く掘り下げて確認し、上位から層順ごとにローマ数字を付けて呼称した。

〔表土等の調査〕　表土除去作業は、人力の他に重機を併用した。掘削土中から出土した遺物は、グリッド単位で取り上げた。

〔遺構の調査〕　検出遺構は、原則として確認順に種類別の番号を付けて精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態と大きさに応じて、基本的には４分割または２分割で設定したが、重複や付属施設等がある場合は適宜追加した。遺構内の堆積土層は算用数字を付して調査をおこなった。各遺構の堆積土層断面図は、主に簡易遣り方測量等で縮尺１/20・１/10の実測図を作成した。また、各遺構の平面図、遺構配置図・地形測量図は、(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構内の出土遺物は基本的に遺構単位で層位ごと、または堆積土一括として取り上げたが、必要に応じて簡易遣り方等で出土遺物の形状実測図等やドット

マップ図を縮尺1/20・1/10で作成した。

〔遺物包含層の調査〕　上層から層位ごとに人力での掘削を基本としたが、遺物及び遺構に影響しない部分については表土除去作業から連続して重機を用いた。出土遺物は原則として、グリッド単位で層位ごとに取り上げたが、特異な遺物や復元可能土器については、簡易遣り方や「遺構実測支援システム」を適宜使用して図化した。

〔写真撮影〕　写真撮影には、原則として35㎜モノクローム、35㎜カラーリバーサルの各フィルムおよびデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の精査状況・完掘後の全景について記録した。

## 2　整理作業の方法

２カ年の調査により、縄文時代の竪穴住居跡９棟、掘立柱建物跡１棟、土坑22基、焼土遺構２基、溝状土坑１基、ピット６基を検出した。遺物は段ボール箱で24箱分出土した。整理・報告書作成にあたっては、縄文時代集落の時期・構造等を解明するため、竪穴住居跡をはじめとする各遺構の構築時期と集落の変遷、遺物包含層の形成過程等の検討に重点をおいて作業を進めた。

〔図面類の整理〕　図面整理では、簡易遣り方測量や(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」で作成した各遺構の平面図と堆積土層断面図、形状実測図等の調整をおこなった。また遺構一覧表を作成して、発掘調査時の所見等を整理したほか、(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」を使用した図面の測量点等については、遺構ごとにエクセルファイル(.xlsx形式及び.csv形式)でHDD及びDVD-Rに保存した。

〔写真類の整理〕　35㎜モノクロームフィルムは撮影順にネガアルバムに整理収納し、35㎜カラーリバーサルフィルムは発掘作業状況や遺構ごとに整理して、スライドファイルに収納した。デジタルカメラのデータも、遺構ごとのフォルダに整理してタイトルを付け、HDD及びDVD-Rに保存した。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕　遺構内出土遺物を優先して洗浄し、次いで遺構外出土遺物を洗浄した。遺物の注記は、遺物取り上げ時の遺物カードをもとに、調査年度、遺跡名、出土区、遺構名、層位、取り上げ番号を略記したが、土器細片や剥片石器等直接注記できない遺物は、収納袋に注記した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層名等の整理を怠らないようにした。

〔報告書掲載遺物の選別〕　遺構に伴って使用または廃棄された資料、遺構の構築および廃絶の時期を示す資料、遺存状態が良く時期・型式・器種が分かる代表的な資料のほか、希少な資料や特異で不明点のある資料を選別した。

〔遺物の観察・図化〕　図化にあたっては、個々の遺物を目視およびルーペで観察し、特徴を適切に分かりやすく表現するように努めた。掲載用に選別した遺物については、観察表を作成した。

〔遺物の写真撮影〕　実測図では表現しがたい、質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意して、土器はシルバーフォト、石器はフォトショップいなみに委託して撮影した。

〔自然科学分析〕　炭化材の樹種同定を(株)パレオ・ラボに委託しておこなった。また、石器の石質鑑定は、調査員の山口義伸氏に依頼しておこなった。

〔遺構と遺物のトレース・版下作成〕　実測図のトレースは、(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」と同「トレースくん」を用いてデジタルトレースを行い、版下は、Adobe社製 CreativeSuite2,3,4

を用いて作成した。写真図版についても、デジタルデータを主として用いて作成した。

〔遺構の検討・分類・整理〕　遺構ごとに種類と構造的特徴に分け、出土遺物の種類と数量、重複関係等に関するデータと調査時の所見を整理して、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

〔遺物の検討・分類・整理〕　土器類・石器類・土製品・石製品に分け、これらを時期・種類ごとに整理して、出土遺物全体の分類と器種構成や個体数等について検討した。

〔調査成果の検討〕　遺構と遺物の検討結果を踏まえて、遺跡の時期・種別・構造・変遷・特徴等について検討整理した。

## 第３節　調査の経過

### １　発掘作業の経過

平成22年度の調査は期間が短かったこともあり、遺構確認と一部遺構の精査に留めた。竪穴住居跡の調査を含む本格的な遺構精査は、翌平成23年度におこなった。

発掘調査体制は、以下のとおりである。

（平成22年度）

調査主体　青森県埋蔵文化財調査センター

| | |
|---|---|
| 所　長 | 新岡　嗣浩（平成24年３月退職） |
| 次　長 | 畠山　　昇（平成23年３月退職、現文化財保護主幹） |
| 総務ＧＭ | 木村　繁博（平成24年３月退職） |
| 調査第一ＧＭ | 成田　滋彦（平成24年３月退職、現文化財保護主幹） |
| 文化財保護主査 | 鈴木　和子（発掘調査担当者、現文化財保護主幹） |
| 文化財保護主査 | 佐藤　智生（発掘調査担当者、現青森県環境生活部県民生活文化課） |
| 調査補助員 | 阿保　るみ（平成22年12月退職） |
| | 金子　正伸（平成23年３月退職） |
| | 岡本　裕平 |

（平成23年度）

調査主体　青森県埋蔵文化財調査センター

| | |
|---|---|
| 所　長 | 松田　守正（平成24年３月退職） |
| 次　長 | 成田　滋彦（平成24年３月退職、現文化財保護主幹） |
| 総務ＧＭ | 木村　繁博（平成24年３月退職） |
| 調査第二ＧＭ | 川口　潤 |
| 文化財保護主査 | 神　昌樹（発掘調査担当者、現教育庁文化財保護課） |
| 文化財保護主事 | 荒谷　伸郎（発掘調査担当者） |
| 調査補助員 | 最上　泰代（平成24年３月退職） |
| | 對馬　綾子　　箕輪　匠太 |
| | 三上祐賀子（平成24年３月退職） |

専門的事項に関する指導・助言（平成22・23年度）

| | | |
|---|---|---|
| 調査指導員 | 村越　潔 | 国立大学法人弘前大学名誉教授・故人（考古学） |
| 調査員 | 関根　達人 | 国立大学法人弘前大学人文学部教授（考古学） |
| | 山口　義伸 | 青森県立浪岡高等学校教諭（地質学）（現第四紀学会会員） |

発掘作業の経過は、以下のとおりである。

（平成22年度）

10月５日　発掘器材等を調査事務所、器材庫に搬入し、調査を開始した。

10月上旬　表土除去を開始した。

10月下旬　縄文時代の遺構を検出し、一部を精査した。

10月23日　調査器材・出土遺物・調査記録類を搬出して調査を終了した。

（平成23年度）

８月９日　発掘器材等を調査事務所、器材庫に搬入し、調査を開始した。

８月上旬　表土除去を開始した。

８月中旬　縄文時代の遺構を検出し、これと平行して一部の精査を開始する。

８月下旬　作業の主体を遺構精査に移す。

９月１日　一度目の空中写真撮影を委託し、実施した。

９月26日　大鰐町立蔵館小学校５・６年生（児童22名、教員４名）が調査を見学する。

10月１日　現地見学会をおこなう（参加者80名）。

10月４日　山口調査員が来跡し、指導・助言をおこなう。

10月５日　関根調査員が来跡し、指導・助言をおこなう。

10月６日　二度目の空中写真撮影を委託し、実施した。

10月７日　調査器材・出土遺物・調査記録類を搬出して調査を終了した。

## ２　整理作業の経過

平成23年度は主に図面整理、写真整理等をおこなった。平成24年度は、図面整理、写真整理、遺物実測等を経て、報告書の編集作業をおこなった。

整理体制は、以下のとおりである。

（平成23年度）

整理主体　青森県埋蔵文化財調査センター

| | |
|---|---|
| 調査第一ＧＭ | 中嶋　友文 |
| 文化財保護主査 | 鈴木　和子（報告書作成担当者、現文化財保護主幹） |
| 文化財保護主査 | 佐藤　智生（報告書作成担当者、現青森県環境生活部県民生活文化課） |
| 文化財保護主査 | 水谷　真由美（報告書作成担当者、平成24年３月退職） |
| 調査補助員 | 今村　圭佑　　工藤　将陽 |

（平成24年度）

整理主体　青森県埋蔵文化財調査センター

| | |
|---|---|
| 所　長 | 柿崎　隆司 |
| 次　長兼総務ＧＭ | 高橋　雅人 |
| 調査第二ＧＭ | 川口　潤 |
| 文化財保護主査 | 大平　哲世（報告書作成担当者） |
| 文化財保護主事 | 荒谷　伸郎（報告書作成担当者） |
| 文化財保護主幹 | 成田　滋彦（報告書作成担当者） |
| 調査補助員 | 對馬　綾子　　箕輪　匠太 |
| 整理作業員等 | 福澤　理恵　　山口　真由美 |

整理作業の経過は、以下のとおりである。

（平成23年度）

４月～　図面整理、写真整理等をおこなう。

３月下旬　記録類・出土品を整理して平成23年度の整理作業を終了した。

（平成24年度）

４月～　図面整理、写真整理、遺物実測等をおこなう。

６月下旬　縄文土器の実測を委託した。

６月下旬　剥片石器の実測を委託した。

６月下旬　樹種同定を委託した。

７月上旬　モザイク写真作成を委託した。

11月下旬　報告書掲載遺物の写真撮影を委託した。

12月上旬　報告書掲載遺物のトレースをおこなう。

１月上旬　遺構・遺物の図版を作成し、原稿を執筆した。

１月下旬　原稿・版下が揃ったので、報告書の割付・編集をおこない、印刷業者に入稿した。

３月27日　３回の校正を経て報告書を刊行し、記録類・出土品を整理して収納した。

# 第２章　遺跡の環境

## 第１節　遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡は大鰐町の中心部から東に約５㎞、平川市との市町境界にある阿蘇ヶ岳（標高494m）の南斜面、標高180～190mの丘陵端部に位置する。遺跡の南側には駒木沢が西に向かって流れており、遺跡との比高差は約20～30mである(図１)。周辺一帯は現在、主に畑として利用されており、遺跡の周囲はリンゴ畑に囲まれている。

駒木沢沿いの縄文時代遺跡には、駒木沢遺跡、駒木平遺跡（前期）、駒木(1)遺跡（後期）がある。また、駒木沢の対岸、前田ノ沢地区には前田ノ沢(1)・(2)・(3)・(4)遺跡（後期）、前田ノ沢(5)遺跡（後・晩期）がある。

周辺での縄文時代集落の調査例は、数は限られているものの、前期初頭の竪穴住居跡２軒を確認した砂沢平遺跡があり、前期の岩偶が７点出土したことで知られる大平遺跡でも、大形住居跡を伴う集落が調査されている。

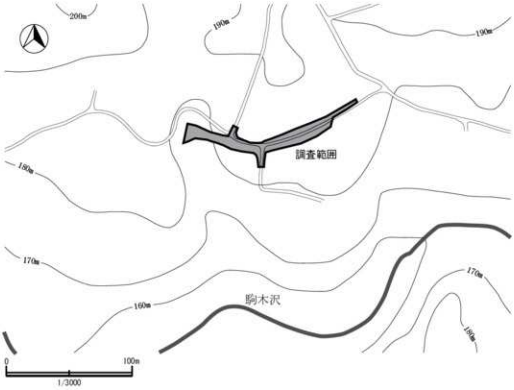
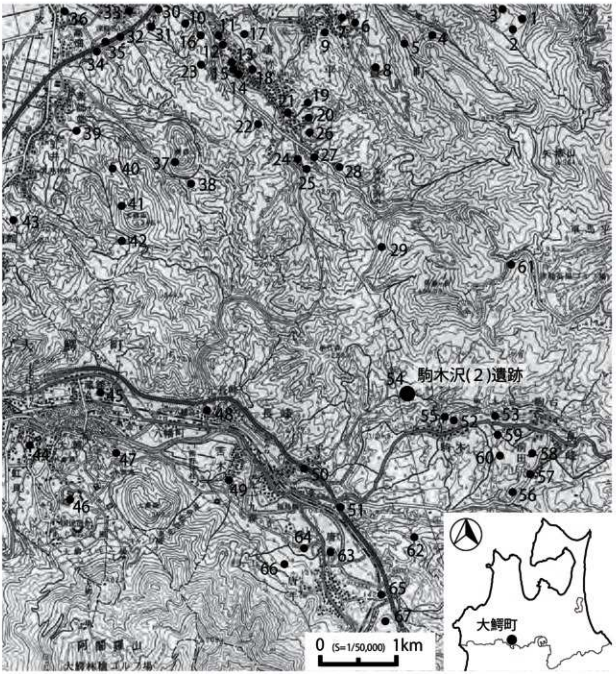



**図１　遺跡周辺の地形**




| 番号 | 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 番号 | 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 | 番号 | 遺跡番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 210002 | 福島平山遺跡 | 縄文(中) | 散布地 | 24 | 210033 | 井沢(1)遺跡 | 縄文(前・中・後・晩),弥生,平安 | 散布地 | 47 | 202043 | 鰐ヶ崎遺跡 | 縄文 | 散布地 |
| 2 | 210004 | 福島平山遺跡 | 縄文,平安 | 散布地 | 25 | 210145 | 井沢(3)遺跡 | 縄文(前・後・晩) | 散布地 | 48 | 202046 | ヶ長橋遺跡 | 縄文(中・後),平安,中世 | 散布地 |
| 3 | 210006 | 福島平山遺跡 | 縄文(中) | 集落遺跡 | 26 | 210030 | 薄野平神社遺跡 | 縄文(後),平安 | 散布地 | 49 | 202049 | 野川遺跡 | 縄文,平安 | 散布地 |
| 4 | 210190 | 蓬橋(2)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 | 27 | 210002 | 小金森遺跡 | 縄文(後) | 散布地 | 50 | 202058 | 大平遺跡 | 縄文(前・中),平安 | 集落遺跡 |
| 5 | 210191 | 蓬橋(3)遺跡 | 縄文,平安,中世 | 散布地 | 28 | 210004 | 薬師沢(2)遺跡 | 縄文(後) | 集落遺跡 | 51 | 202059 | 砂沢平遺跡 | 縄文,平安,中世 | 集落遺跡,城館跡 |
| 6 | 210040 | 広船(1)遺跡 | 縄文(中・後) | 集落遺跡 | 29 | 210002 | 神柴(1)遺跡 | 縄文(後),平安 | 集落遺跡 | 52 | 202060 | 張木(1)遺跡 | 縄文(後),平安 | 散布地 |
| 7 | 210049 | 広船(2)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 | 30 | 210113 | 四宮遺跡 | 縄文(後),平安 | 散布地,集落跡 | 53 | 202042 | 張木沢遺跡 | 縄文 | 散布地 |
| 8 | 210050 | 広船(3)遺跡 | 縄文(中・後) | 散布地 | 31 | 210112 | 神殿神社遺跡 | 縄文(中・後) | 散布地 | 54 | 202044 | 張木沢(2)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 |
| 9 | 210200 | 広船(5)遺跡 | 縄文(前・中・後) | 散布地 | 32 | 210111 | 海海山遺跡 | 縄文(早・中・後),弥生,平安 | 城館跡,集落跡 | 55 | 202044 | 張木沢遺跡 | 縄文(前) | 散布地 |
| 10 | 210052 | 蓬竹遺跡 | 縄文(後・晩) | 散布地 | 33 | 210107 | 神殿城跡 | 縄文(後),平安 | 城館跡 | 56 | 202037 | 鍛冶(2)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 |
| 11 | 210053 | 蓬竹(1)遺跡 | 縄文(後・中・後・晩),平安 | 散布地 | 34 | 210108 | 神殿(1)遺跡 | 縄文(後) | 集落跡 | 57 | 202038 | 鍛冶(3)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 |
| 12 | 210054 | 蓬竹(2)遺跡 | 縄文(後・中・後・晩),平安 | 散布地 | 35 | 210109 | 神殿(2)遺跡 | 縄文(後・晩) | 散布地,集落跡 | 58 | 202039 | 鍛冶(5)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 |
| 13 | 210055 | 蓬竹(3)遺跡 | 縄文(後),平安 | 集落跡 | 36 | 210172 | 黒塚(1)遺跡 | 縄文(後),平安,中世,近世 | 城館跡 | 59 | 202040 | 鍛冶(7)(8)遺跡 | 縄文 | 散布地 |
| 14 | 210056 | 蓬竹(4)遺跡 | 縄文(後・中・後・晩),平安 | 散布地 | 37 | 202041 | 鰐森遺跡 | 縄文 | 散布地 | 60 | 202041 | 鍛冶(9)遺跡 | 縄文(後・晩) | 散布地 |
| 15 | 210143 | 蓬竹(5)遺跡 | 縄文(後・中・後・晩),平安 | 散布地 | 38 | 202309 | 南無沢遺跡 | 縄文 | 散布地 | 61 | 202036 | 河野遺跡 | 縄文(前・後) | 散布地 |
| 16 | 210061 | 蓬竹(6)遺跡 | 縄文(前・中) | 散布地 | 39 | 202310 | 笠松遺跡 | 縄文,平安 | 散布地 | 62 | 202032 | 笠森遺跡 | 縄文(後),平安 | 散布地 |
| 17 | 210184 | 飯石遺跡 | 縄文(中・後・晩),弥生,古墳,平安 | 集落遺跡 | 40 | 202035 | 大池遺跡 | 縄文(後) | 散布地 | 63 | 202025 | 薄平遺跡(1)遺跡 | 縄文(後),平安 | 散布地 |
| 18 | 210017 | 荒原遺跡 | 縄文(後・晩),平安 | 散布地 | 41 | 202025 | 入野(1)遺跡 | 縄文(後),平安 | 散布地,城館跡 | 64 | 202026 | 薄平遺跡(2)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 |
| 19 | 210020 | 水上(1)遺跡 | 縄文(後・晩) | 散布地 | 42 | 202031 | 黒川沢遺跡 | 縄文 | 散布地 | 65 | 202028 | 薄平遺跡(4)遺跡 | 縄文(後),平安 | 散布地 |
| 20 | 210020 | 水上(2)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 | 43 | 202001 | 八幡前(2)遺跡 | 縄文(後) | 散布地 | 66 | 202029 | 竹原野遺跡 | 縄文(後),弥生,平安 | 散布地 |
| 21 | 210171 | 水上(3)遺跡 | 縄文(後・晩) | 散布地 | 44 | 202011 | 田頭遺跡 | 縄文(前・後) | 散布地,城館跡 | 67 | 210399 | 荷森遺跡 | 縄文(後・晩) | 散布地 |
| 22 | 210067 | 高岡(1)遺跡 | 縄文(早・中・後・晩),弥生,平安 | 集落遺跡 | 45 | 202014 | 青柳遺跡 | 縄文(前・後),平安,中世 | 散布地 | | | | | |
| 23 | 210175 | 高岡(4)遺跡 | 縄文(後・晩),平安,中世 | 集落遺跡 | 46 | 202034 | 上牡丹森遺跡 | 縄文(中・後・晩),平安 | 集落跡 | | | | | |

図２　遺跡の位置と周辺の縄文時代遺跡

## 第２節　遺跡周辺の地形及び地質について

調査員　　山口　義伸

駒木沢(2)遺跡は南津軽郡大鰐町大字長峰字駒木沢にあって、大鰐町中心街より東方約５kmの、西流する駒木沢流域沿いに立地している。

本遺跡の所在する大鰐町は奥羽脊梁山脈西縁の大鰐山地にあって、北には緩やかな平賀丘陵が隣接し、さらに北方には広大な津軽平野が展開している。奥羽山脈には田代平カルデラや十和田カルデラを含め、いくつかのカルデラが存在することは知られており、この大鰐山地内にもLandsat画像の判読から地形的なカルデラ壁が認められ、盆状地形を成している。大鰐町から平川市碇ヶ関にかけて分布する、この盆状地形を碇ヶ関カルデラと呼称され（村岡・長谷，1990）、その大きさは東西約12km、南北約８kmの楕円形をなしている。カルデラ中央部には後カルデラ丘である阿闍羅山(標高709m)が存在し、北側には溶岩ドームである大高森(369m)が隣接している。カルデラ内を流れる主要河川として平川及び虹貝川があげられるが、阿闍羅山火山体を取り囲むように発達している。なお、碇ヶ関カルデラの北東方には沖浦カルデラが存在し、カルデラ壁の内側を浅瀬石川が流れている。

村岡・長谷（1990）によると、大鰐地域には下位から順に、新第三紀中新世の板留層、温湯層、鮮新世の尾開山凝灰岩、三ツ森安山岩、碇ヶ関カルデラ期の虹貝凝灰岩・碇ヶ関層と阿闍羅山安山岩、そして第四紀更新世の沖浦カルデラ期の青荷凝灰岩、八甲田第２期火砕流堆積物(デイサイト質軽石凝灰岩)、十和田大不動火砕流堆積物・十和田八戸火砕流堆積物(デイサイト質軽石凝灰岩)などが堆積している（図３）。

本地域の基盤岩は新第三紀中新世の板留層及び温湯層であって、板留層は硬質頁岩、デイサイト質軽石凝灰岩が主体であり、上位の温湯層は頁岩・シルト岩などが主体となっている。鮮新世になって、約350万年前には尾開山を形成する火山活動が発生し、尾開山凝灰岩として成層した流紋岩質凝灰岩や陸成の溶結凝灰岩が堆積している。また、約300万年前には普通輝石安山岩を噴出する火山活動が活発化し、三ツ森安山岩として碇ヶ関カルデラ周縁の阿蘇ヶ岳(494m)、矢捨山(564m)などの独立峰を形成している。

約200～150万年前には碇ヶ関カルデラを形成する火砕流堆積物が放出され、虹貝凝灰岩として確認されている。その後、カルデラ湖にはシルト岩、砂岩などを主体とする碇ヶ関層が堆積する。層厚は約120mもあり、層理面には炭化木や樹木の葉片が挟まれること多く、また植物化石としてCarpinus sp. , Metasequia sp. などが報告されている。そして碇ヶ関層の堆積中に、後カルデラ丘としての阿闍羅山安山岩が貫入及び流出し、側火山である大高森も形成される。

第四紀更新世に入り、碇ヶ関カルデラ北東方において沖浦カルデラが形成され、その発生時期は約160～90万年前と推定される。このとき放出された青荷凝灰岩は、沖浦カルデラ内では塊状のデイサイト質軽石凝灰岩であって水底火砕流堆積相を示すが、カルデラ外に流出した青荷凝灰岩に関しては砂質凝灰岩中に軽石凝灰岩の団塊が多量に混入し、乱流堆積相を示している。その後、田代平カルデラに由来する八甲田第２期火砕流堆積物（約40万前）、十和田カルデラに由来する十和田大不動火砕流堆積物（約3.2万年前）と十和田八戸火砕流堆積物（約1.2万年前）が碇ヶ関カルデラ内に流入してくる。

次に、遺跡周辺の地形・地質について述べることとする。

本遺跡の調査区域は平川との合流点から駒木沢上流の約2.5km地点の開析された火砕流堆積面上にあって、この谷地形に臨む標高180～190ｍの急傾斜面に立地している。流域に分布する地層として、カルデラ内に堆積した碇ヶ関層と、これを不整合に覆う沖浦カルデラ起源の青荷凝灰岩が認められ、この地域の基盤をなしている。さらに、約3.2万年前の十和田大不動火砕流堆積物が南東方から流下してカルデラ内を埋積している。その後、駒木沢及び枝流によって大きく浸食され、平頂な丘陵ではあるが、やや起伏に富む地形となっている。なお、北方約1.5kmには安山岩質溶岩からなる阿蘇ヶ岳(標高494m)が位置しており、本遺跡に向かって緩やかな裾野が展開するような地形となっている。

本調査区域内の東西両端には駒木沢の枝流が発達し、このため全体的に南側へのやや急傾斜地となっている。また調査区域内がりんご園地であって、基本層序からみて少なくとも２度にわたる削平工事が行われている。

ここで、調査区域内の基本層序について、図４に図示した基本層序①及びⅠ－19グリッドでの観察をもとに各層の層相を記述する。基本的には、傾斜地である園地を削平していることから基本層序が欠如することが多く、耕作土（Ⅰ層）直下にⅣ層が位置している。

Ⅰａ層　褐灰色土(10YR5/1)　耕作土で、園地造成による盛り土からなる。第Ⅳ層以下の各層がブロック状に混入している。このため固さはあるが、締まりに欠け全体的に脆い。

Ⅰｂ層　黒色土(10YR1.7/1)　Ⅰａ層(盛り土)形成前の耕作土である。固さはあるが締まりに欠ける。全体的に粘性・湿性が多少認められる。なお園地造成により、下位層とはシャープな面で接している。

間層　黒褐色土(10YR2/3)　粘性・湿性があり、Ⅰｂ層よりもソフトな感じがある。全体的に表層水の影響を受けてやや粘土質であったり砂礫質であったり、またローム粒や軽石粒を多少混入したりしている。なお、苫小牧火山灰B-Tmや十和田ａ降下火山灰To-ａが風倒木痕及び地形的な凹地内にレンズ状に挟在している。

Ⅱ層　黒褐色土(10YR2/2)　凹地内では粘性・湿性のある腐植質土である。軽石粒、焼土粒、炭化粒がかなり多く包含されている。凹地以外では下位層が粒子状やブロック状に多量に混入して、色調の明るい暗褐色を呈する。本層は縄文時代の遺物包含層である。

Ⅲ層　暗褐色土(10YR3/3)　漸移層である。粘性・湿性が多少あり、締まりに欠けややソフトな感じがする。本層はローム粒や軽石粒の混入状況により２層に細分される。上位のⅢａ層は粒子状の混入が目立ち、下位のⅢｂ層はブロック状の混入が目立ち色調の明るい暗黄褐色を呈している。本層は縄文時代の遺物包含層である。

Ⅳａ層　黄褐色土(10YR5/8)　緻密堅固な軽石質火山灰で、千曳浮石(東北地方第四紀研究グループ，1969)、碇ヶ関浮石(山口，1993)に相当する。工藤(2005)によれば、本軽石火山灰は十和田－八戸火砕流堆積物の係る降下相の八戸軽石に相当する。黄色軽石片(径５～30mm大)を多量に含み、また本質岩片(径２～５mm大)や異質礫(径５～20mm大)を少量含んでいる。

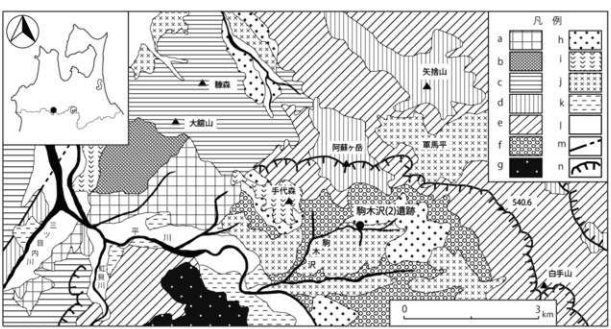
Ⅳｂ層　黄褐色土(10YR5/1)　Ⅳａ層と同質の、ラピリ質軽石である。なお本層下半部には、陸水の影響を受けた水成堆積物が認められる。厚さ20～40cmの黄褐色～黄灰色を呈するシルト質砂で、軽石粒の粘土化が進み、またくされ礫(径２～５cm大)も含まれている。

Ⅴ層　明黄褐色土(10YR6/8)　固く締まったローム質粘土で、下半部は酸化の染みにより黄橙色を

呈している。本層最上部は酸化帯となっており、上位の第Ⅴb層とはシャープな面で接している。なお本層下位には、第Ⅵ層としてにぶい黄褐色軽石質砂が堆積している。第6号竪穴住居跡で確認したところでは、白色軽石粒(径5～10mm大)や本質礫・異質礫(径10～30mm大)を多量に含み、また炭化粒も多く含まれている。これらの層相から、碇ヶ関カルデラ内を埋積した十和田－大不動火砕流堆積物と考えられる。

引用・参考文献

東北地方第四紀研究グループ(1969)東北地方における第四紀海水準変化，日本の第四系，地団研専報No. 15
青森県教育委員会(1988)鶴ヶ鼻遺跡，青森県埋蔵文化財調査報告書No. 122.
村岡洋文・長谷紘和(1990)地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)，黒石地域の地質，地質調査所
山口義伸(1993)平川流域の十和田火山起源の浮石流凝灰岩について，年報市史ひろさきNo. 2，弘前市.
大鰐町教育委員会(2003)砂沢平遺跡，大鰐町文化財調査報告書No. 4.
工藤　崇(2005)地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)，十和田地域の地質，独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター.




a 板留層　b 温湯層　c 尾開山凝灰岩　d 三ツ森山安山岩　e 虹貝凝灰岩
f 碇ヶ関層　g 阿闍羅山安山岩　h 青荷凝灰岩　i 八甲田第2期火砕流堆積物　j 十和田大不動軽石流堆積物
k 十和田八戸軽石流堆積物　l 沖積層　m 断層　n カルデラ縁

**図3　遺跡周辺の地質図（村岡・長谷、1990の簡略化）**

## 第３節　基本層序

基本層序については２カ所を図示し、位置は図５中に示した。各層の層相についての記載は前節に示した。ここでは調査における各層の位置付けと年代観について整理しておく。

基本層序はⅠ～Ⅴ層に区分した。堆積状況は調査範囲内で大きな違いは認められなかったが、畑地の造成等に伴い、表土であるⅠ層の直下がⅢ、Ⅳ層となる地点がある。

Ⅰ層は表土で、現代の耕作や造成により人為的な影響を受けた層である。内、Ⅰａ層は客土、Ⅰｂ層は自然堆積土と理解された。なお、調査ではa、b層の細分は考慮していない。また、場所が限られるが、Ⅰ層とⅡ層の間に間層が形成されているところがある。間層の一部では、苫小牧火山灰層B-Tmと十和田ａ降下火山灰To-ａの混入が認められ、堆積年代も火山灰降下以降でも比較的これに近いことが推定される。なお、降下火山灰は第３号竪穴住居跡を壊している風倒木(図８)、第７号竪穴住居跡の堆積土上位（図11）でも確認されている。

Ⅱ・Ⅲ層は縄文時代の遺物包含層である。Ⅱ層は黒褐色土、Ⅲ層はⅡ層とⅣ層との漸移層であり、分層は色調や混入物といった層相に基づいている。Ⅱ、Ⅲ層の細別時期であるが、出土遺物からはこれを明確にすることができなかった。そのため、遺構の構築もⅢ層上面からと考えられるもの（第４号竪穴住居ほか）とⅡ層中と考えられるもの（第９号竪穴住居ほか）があるが、両者に確認層位の違いから時期差を与えることができなかった。このような遺構構築層位の違いは、構築する場所のⅡ層の堆積状況に起因すると考えられる。つまり、斜面下で比較的傾斜の緩い第９号竪穴住居跡周辺には、遺構構築時にすでにⅡ層が厚く堆積していたために、遺構もⅡ層中に構築された。一方、斜面に構築された第４号竪穴住居跡周辺では、遺構構築時においてはⅡ層の堆積が弱く、結果、Ⅲ層上面から遺構が構築されたものと理解できる。

Ⅳ・Ⅴ層は地山である。黄褐色～明黄褐色のローム質土で、竪穴住居跡はここまで掘りこんで床面を構築するものが多い。

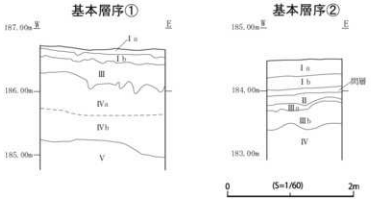



図４　基本層序

# 第３章　検出遺構と出土遺物

## 第１節　概要

遺物は段ボール箱で24箱出土した。時期は縄文時代のものに限られる。

土器は、前期・後期・晩期のものが出土している。このなかでも主体となって出土するのは、これまで主に十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群とされていたものの内、関根達人氏によって「十腰内Ⅳ群段階」と後続する「馬場瀬段階」（関根2005）と位置付けられたものである。また、「十腰内２式」（鈴木2001）とされるものも定量出土している。

土製品は、スタンプ形土製品１点、円盤状土製品１点の計２点が出土した。

石器は剥片類、石核を除くと146点出土した。剥片石器が114点、礫石器が32点である。なお、遺構内からは76点、遺構外からは70点の出土であった。

石製品は、石棒１点、石刀１点、板状を呈するもの１点の計３点が出土した。

遺物の報告番号は、「土器と土製品」及び「石器と石製品」でそれぞれ通し番号を付した。また、第２節における【出土遺物】の項において、本報告書の土器分類（「Ⅲ群ｃ類」など）を用いて記載した部分がある。この土器分類については、第３節に記載してある。

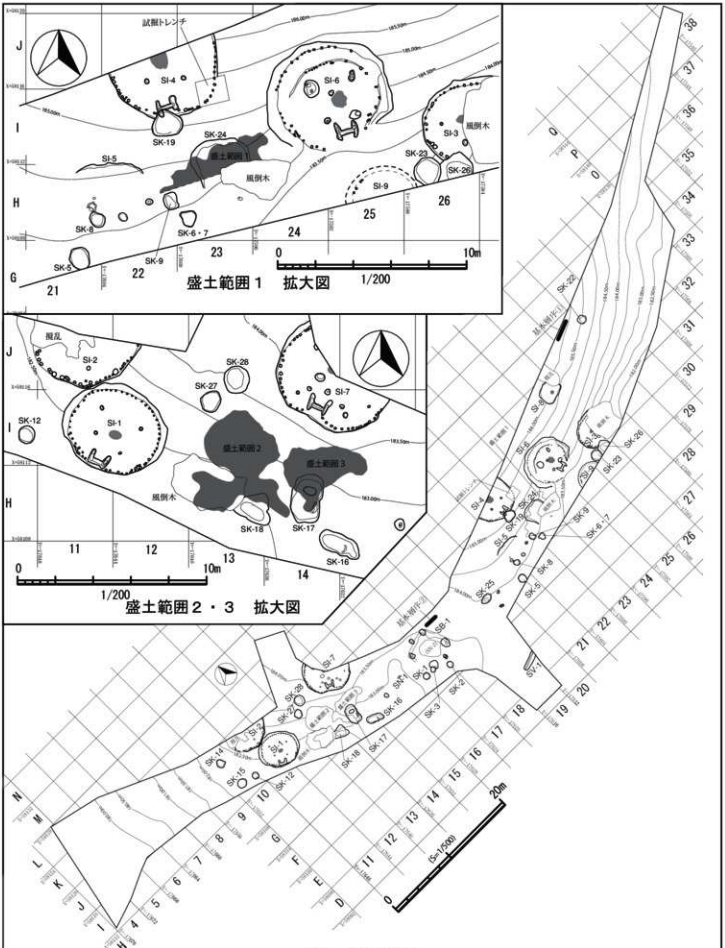
遺構は竪穴住居跡９棟、掘立柱建物跡１棟、土坑22基、焼土遺構２基、溝状土坑１基、ピット６基および人為的に盛土されたと考えられる範囲３カ所を確認した（図５）。時期を断定できるものは、いずれも主体となって土器が出土した「十腰内Ⅳ群段階」と「馬場瀬段階」のものである。遺構には整理作業時に検討した結果、欠番とした遺構及び種別を変更したものがある。これらは遺構計測表の項に表で示した。

## 第２節　遺構

### １　盛土範囲

人為的に盛土されたと考えられる範囲を３カ所で確認した。それぞれ「盛土範囲１～３」の名称で、遺構として報告する（図５・拡大図）。

いずれも、Ⅱ層中に盛土したものと考えられる。盛土には黒色土に加え、黄色のⅣ層地山土がブロック状に混入しているため包含層中でも識別することができた。確認した平面形は不整形で、規模は盛土範囲１で約6.2×1.4m、盛土範囲２で約6.0×5.4m、盛土範囲３で約4.2×3.2mである。なお、平面では捉えられなかったが、盛土範囲１の南側は調査区外にまで及んでいた可能性がある。盛土の厚さは一定しないが、厚いところでは約20cmに及んでいた。遺物は、明確に盛土中から出土したとできるものは出土していない。盛土と遺構の新旧関係については明らかにできない部分も多いが、盛土範囲２・３については、盛土下で確認した第17・18号土坑、ピット12より新しい可能性が高い。盛土範囲１については、第24号土坑を覆い隠していたほか、前述のように南側に広がっていたと仮定すれば、第９号竪穴住居跡はこれを切って構築された可能性を土層断面図（図８、A－A’）から指摘できる。


試掘トレンチ
SI-4
SI-6
SI-3
風倒木
SK-19
SK-24
盛土範囲1
SI-5
SK-23
SK-26
SI-9
SK-8
SK-6・7
SK-5
SK-9
0
10m
盛土範囲１　拡大図　1/200
SI-2
SK-28
SK-27
SI-7
SI-1
SK-12
盛土範囲2
盛土範囲3
SK-18
SK-17
SK-16
1/200
盛土範囲２・３　拡大図
SK-22
SK-20
SK-25
SK-4
SK-3
SK-2
SK-1
SB-1
SK-14
SK-15
SK-13
SK-12
SK-29
SK-30
SK-31
SK-32
SK-33
SK-34
SK-35
SK-36
SK-37
SK-38
SK-39
SK-40
SK-41
SK-42
SK-43
SK-44
SK-45
SK-46
SK-47
SK-48
SK-49
SK-50
SK-51
SK-52
SK-53
SK-54
SK-55
SK-56
SK-57
SK-58
SK-59
SK-60
SK-61
SK-62
SK-63
SK-64
SK-65
SK-66
SK-67
SK-68

## 2　竪穴住居跡

**第１号竪穴住居跡**（SI-1）　（図６・７・18・19・35）

【位置・確認】H－11・12、I－11・12、J－11・12グリッドに位置する。Ⅳ層上面で確認したが、Ⅲ層中から掘りこまれたものと考えられる。

【重複】重複として捉えられなかったが、北側に隣接して第２号竪穴住居跡が位置する。本来は新旧の重複関係にあったと考えられる。

【規模・形状】規模は、開口部で長軸5.56m、短軸4.74mを測り、平面形は楕円形である。

【堆積土】24層に分層した。堆積土は黒褐色～黄褐色土を主体とし、ロームブロックを混入する層も多い。各層の境は明瞭に捉えられるところが多く、混入物も比較的均質に混入している。このことから、各層単位では比較的短期間での堆積が想定され、人為堆積による可能性も高いと考えられる。

【壁・床】壁は、西壁では床面から40cmほどは垂直に立ち上がり、これより上部は角度を変え、やや開きながら開口部に至る部分がある。また土層断面図B－B’のように床面からハングしながら立ち上がる部分もある。一方、壁高の低い南東～南壁では、なだらかに立ち上がっている。床はⅣ層中にほぼ平坦に作られるが、南西側に向かってわずかに傾斜している。

【柱穴】主柱穴を４基（Pit1～4）、壁柱穴を61基確認した。主柱穴とした４基は深さが38.9～55.4cmで、台形状に配置されている。壁柱穴は深さが3.2～22.7cmで、出入口施設部分を除いて約10～30cm間隔で全周する。また、出入口施設を挟んで一部、２重に配置されている部分もある。

【炉】地床炉１基を確認した。掘方は伴わず、床面としたⅣ層をそのまま火床面としている。平面形は楕円形で、規模は長軸68cm、短軸46cmである。焼土は最も厚いところで約８cm形成されていた。また、炉の周囲では床面の硬化が顕著な範囲を確認できた。この範囲では、黒色土の混入がみられる（炉２層）。

【付帯施設】出入口施設を南西壁際で確認した。形態はH字状である。深さは、横棒部分に比べ、縦棒部分が段状に深く掘りこまれている。また、縦棒部分の底面は内側にやや傾いている。

【出土遺物】出土は床面からは少なく、３層及び５層のものが多いことから、堆積途中に意図的に廃棄された可能性がある。

土器は2564.1ｇ出土した。１・２は注口で、Ⅱ群ｃ類の「十腰内Ⅳ群段階」のものである。１は台が付くもので、胴部下半は地縄文上に格子目状に沈線が施される。２は器壁の一部と貼瘤２カ所が剥落している。３の刻目は細かく、刺突に近い。８は鉢である。沈線が施されるが、整形と合わせて粗雑な印象を受ける。12は壺もしくは注口と考えられる。無文だが、器形からⅡ群b類の可能性もある。また、器面にはわずかだが赤彩の痕跡が残る。13は晩期の土器で、埋没途中に混入したと考えられる。

石器・石製品は、石鏃２点、石錐１点、石匙１点、スクレイパー７点、二次加工剥片５点、微細剥離痕のある剥片１点、磨製石斧３点、石皿・台石類１点、石棒１点、剥片類310.4ｇが出土し、この内12点を図示した。１・２は石鏃で、無茎尖基鏃である。３は石錐である。全体が棒状で、つまみ部は作り出されない。４は石匙である。つまみ部に対して横長の身部をもつ。５～７はスクレイパーである。８～10は磨製石斧である。９は長さ32mmの小形のもので、石材には粘板岩を用いている。10は二次利用を意図してか、欠損部の縁辺に敲打痕が認められる。11は石皿・台石類である。４面で敲打に

よる凹みが形成されている。12は石棒である。棒状の粘板岩を敲打整形後、研磨したものと考えられる。頭部は明瞭に作り出され、ここに短軸と平行に約半周、幅１mmに満たない微細な線刻が施される。

【小結】「十腰内Ⅳ段階」とできる土器が堆積土中の下位から上位にかけて出土することから、同段階には埋没過程にあったといえる。よって、住居が構築、使用されたのも同じ「十腰内Ⅳ群段階」であった可能性が高い。

**第２号竪穴住居跡**（SI-2）　（図７・19・35・36）

【位置・確認】J－10～12グリッドに位置し、北半は調査区外に延びる。また、撹乱のため遺存状態も不良であった。Ⅳ層上面で確認したが、Ⅲ層中から掘りこまれたものと考えられる。

【重複】重複として捉えられなかったが、南側に隣接して第１号竪穴住居跡が位置する。本来は新旧の重複関係にあったと考えられる。

【規模・形状】残存部でおよそ5.7m×3.1mの範囲を調査した。平面形は不明である。

【堆積土】２層に分層した。堆積土は暗褐色土を主体とし、遺存状態が不良のため断定できないが、自然堆積によるものと考えられる。

【壁・床】壁は、残存部分では緩やかに立ち上がる。床は、Ⅳ層中にほぼ平坦に作られる。

【柱穴】主柱穴は明確に捉えられなかったが、深さ41.1cmのPit1が相当するものと考えられる。壁柱穴は32基確認した。深さは4.0～29.3cmで、一部は間隔を置かずに構築されている。

【炉】地床炉と考えられる焼土を確認したが、撹乱によりわずかな痕跡を捉えるに留まり、全容は不明である。残存部の長軸は64cm、短軸は31cmである。

【付帯施設】残存部分には存在しない。

【出土遺物】土器は87.5ｇ出土した。24は底径が3.6cmと小さく、ミニチュア土器の可能性がある。

　石器は、スクレイパー１点、磨製石斧３点、敲磨石類１点、石皿・台石類１点、剥片類6.4ｇが出土し、この内６点を図示した。出土状況では、床面に置かれた石皿・台石類（18）の上に敲磨石類（17）が置かれた状態で出土した点が特筆される。13はスクレイパーである。14～16は磨製石斧である。14は１層と覆土上層から出土したものが接合した。刃部形状が左右でやや異なる。16は二次利用を意図してか、欠損部の縁辺に敲打痕が認められる。17は敲磨石類である。楕円形の礫の広範囲に顕著な磨り面が形成される。18は石皿・台石類である。使用部分以外に広く自然面を残している。

【小結】時期を断定できる遺物に乏しく、「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」の住居としておく。

**第３号竪穴住居跡**（SI-3）　（図８・９・19・36）

【位置・確認】I－26、J－26・27グリッドに位置し、東半は風倒木により失われている。南側はⅣ層上面で確認したが、北側はⅢ層中から掘りこまれている。

【重複】南側で第26号土坑と重複し、本遺構が古い。

【規模・形状】残存部でおよそ4.7m×2.3mの範囲を調査した。全形を捉えることはできなかったが、平面形は楕円形となる可能性が高い。

【堆積土】11層に分層した。堆積土は黒褐色土を主体とするが、第９層のように壁崩落土と考えられる褐色ローム層を主体とする層もある。堆積は、自然堆積によるものと考えられる。

【壁・床】壁は、北壁では床面から70cmほどは垂直に立ち上がり、これより上部は角度を変え、やや開きながら開口部に至る。床は、Ⅳ層中にほぼ平坦に作られる。

【柱穴】主柱穴を２基（Pit1・2）、壁柱穴を21基確認した。主柱穴とした２基の深さはPit1が65.6cm、Pit2が36.6cmである。壁柱穴は深さが6.5～26.8cmで、約10～50cmの間隔で構築されている。

【炉】地床炉１基を確認したが、東半は風倒木により失われている。掘方は伴わず、床面としたⅣ層をそのまま火床面としている。残存部の長軸は44cm、短軸は37cmである。焼土は最も厚いところで約４cm形成されていた。

【付帯施設】残存部分には存在しない。

【出土遺物】土器は439.1ｇ出土した。26は器面が丁寧に磨かれており、黒色となる。

石器は、石錐１点、スクレイパー４点、剥片類4.7ｇが出土し、この内４点を図示した。19は石錐である。整形されたつまみ部を持つものである。20～22はスクレイパーである。22は今回出土した石器の中で唯一、石材に黒曜石を用いるものである。

【小結】第９号竪穴住居跡より古い第26号土坑に切られている。時期は第９号竪穴住居跡と同じ「十腰内Ⅳ群段階」と考えられる。

また、本遺構と重複している風倒木の第２層で白頭山苫小牧火山灰、第３層で十和田ａ火山灰を確認した。このことから、風倒木が両火山灰の降灰以前のものであることがわかる。

**第４号竪穴住居跡**（SI-4）　（図10・20・21・37）

【位置・確認】I－22・23、J－22・23グリッドに位置し、北半は調査区外に延びる。また、南東壁の一部が試掘トレンチにより失われている。Ⅳ層上面で確認したが、土層断面図A－A’では、東壁がⅢ層上面から掘りこまれていることがわかる。

【重複】南側で第19号土坑と重複し、本遺構が古い。

【規模・形状】残存部でおよそ5.9m×3.3mの範囲を調査した。平面形は不明である。

【堆積土】14層に分層した。堆積土は黒色土～暗褐色土を主体とするが、第６層のように壁崩落土と考えられる褐色ローム層を主体とする層もある。堆積は、自然堆積によるものと考えられる。

【壁・床】壁は、土層断面図A－A’の東壁では床面から70cmほどは垂直に立ち上がり、これより上部は角度を変え、やや開きながら開口部に至る。一方、壁高の低い南壁では、なだらかに立ち上がっている。床は、Ⅳ層中にほぼ平坦に作られる。

【柱穴】主柱穴を２基（Pit1～2）、壁柱穴を33基確認した。主柱穴とした２基の深さはPit1が49.6cm、Pit2が44.8cmである。壁柱穴は深さが4.3～18.6cmで、約10～40cmの間隔で構築されている。

【炉】地床炉１基を確認したが、北半は調査区外に延びる。掘方は伴わず、床面としたⅣ層をそのまま火床面としている。残存部の長軸は88cm、短軸は63cmである。焼土は最も厚いところで約14cm形成されていた。

【付帯施設】出入口施設を南壁際で確認した。形態はH字状である。深さは、縦棒部分に比べ、横棒部分が段状に深く掘りこまれている。

【出土遺物】土器は4061.5ｇ出土した。出土状況では、床面に置かれた状態で出土した３点の土器（30～32）が特筆される。31は略完形の台付鉢で、30と32は壺もしくは注口の頸部を故意に打ち割っ

たと考えられるものである。特に、30については割れ口を下にして床面に直立した状態で出土していることから、意図的に置かれた状態を保持したまま出土した可能性を指摘できる。30・32は壺もしくは注口の口縁部である。共に割れ口が水平である。31は台付鉢である。口縁端部が２カ所、打ち剥がされたように欠損するが、ここにも炭化物が付着している。33は壺もしくは注口と考えられる。沈線は太く、縄文は施されない。57は小片であるが、頂部を持つ断面形状から香炉形と考えた。62・63は底径が小さく、ミニチュア土器の底部の可能性がある。また、61は貼瘤が密に施され、いわゆる瘤付土器でも本遺跡から主体的に出土する「十腰内Ⅳ群段階」、「馬場瀬段階」より新しい段階のものである。本遺跡からの出土はこの１点のみであることから、埋没途中に混入したものと考えられる。

石器は、石鏃２点、石槍１点、石篦１点、スクレイパー４点、二次加工剥片１点、剥片類114.1ｇが出土し、この内５点を図示した。23・24は石鏃である。25は、基部が欠損するものの、全長が５㎝以上のため便宜的に石鏃から分離して石槍と考えた。26は柄状の基部を作り出した石篦で、いわゆる「大石平型石篦」とされるものである。27はスクレイパーである。

【小結】床面から良好な状態で土器が出土しているものの、いずれも細別時期までは判断できなかった。そのため、「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」の住居としておく。

**第５号竪穴住居跡**（SI-5）　（図９・21・37）

【位置・確認】H－21・22グリッドに位置する。Ⅲ層中で確認したが、壁は北側の一部でしか捉えることができなかった。

【重複】石囲炉が第８号土坑と重複し、本遺構が新しい。

【規模・形状】規模は、壁を一部でしか捉えることができなかったため明確にできないが、石囲炉を含む3.5m×3.1mの範囲を調査した。平面形は不明である。

【堆積土】黒褐色土による単層である。

【壁・床】壁は、残存する北半ではなだらかに立ち上がる。床はⅢ層中にほぼ平坦に作られるが、南側に向かってわずかに傾斜している。

【柱穴】深さ13.1㎝の柱穴を１基確認した。

【炉】石囲炉１基を確認した。形態から炉と考えたが、ほかの住居の炉に比べて焼土の形成は弱く、炉であれば火床面となる炉１層でもほとんど認識できなかった。長軸78㎝、短軸61㎝の掘方に据えられた礫は６点で、平面形は不整形である。なお、礫についても被熱痕跡は確認できなかった。

【付帯施設】残存部分には存在しない。

【出土遺物】土器は445.4ｇ出土した。64は第24号土坑の２層から出土した破片と接合したものである。深鉢で、残存率は高くないが、口縁部は大きく波状するものと考えられる。70は第６号竪穴住居跡の覆土から出土した破片と接合したものである。67はⅡ群ｃ・ｄ類とは異質で、晩期の可能性がある。

石器は、スクレイパー２点、剥片類47.8ｇが出土し、この内１点を図示した。28はスクレイパーである。急角度に調整された刃部を持つもので、いわゆる「掻器」とされるものである。

【小結】今回調査した竪穴住居跡の中では唯一石囲炉を有するものである。土器は「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」のものが出土しているが、ほかの竪穴住居に比べて掘りこみが浅く、遺物の帰属に

は不確定要素が大きい。そのため時期は不明としておく。

**第６号竪穴住居跡**（SI-6）　（図12・13・21・22・37）

【位置・確認】Ⅰ－24・25、J－24・25グリッドに位置する、いわゆる焼失住居である。Ⅲ層掘削中に黒色土の落ちこみとして確認した。しかし、覆土の上位はⅡ層とした黒色土に近似しており、確認当初は沢のような自然地形を想定して掘削を進めた。その後、炭化材を確認して遺構と認識を改めた。なお、南側では壁の立ち上がりを捉えることができなかった。掘りこみはⅢ層中からと考えられる。

【重複】調査の進展に伴い、拡張を伴う新旧２段階の住居と認識したが、床や炉、出入口施設など多くを共用しているため同一の遺構番号のまま、それぞれを「新段階」、「旧段階」として調査した。以下、調査順に新段階から記載する。

〈新段階〉

【規模・形状】規模は、開口部で長軸6.72m、短軸5.71mを測り、平面形は楕円形である。

【堆積土】35層に分層した。焼失に伴う炭化材は、第13層と第15層中から出土した。この２層に接する第12・17・18層でも、焼土と考えられる赤褐色土が多く含まれており、焼失に由来すると考えられる堆積土が床面を広く覆ったものと考えられる。

炭化材は、床面から５～20cmの高さで面的な広がりを捉えられた。また、一部の壁柱穴上で比較的大きな炭化物が出土するところがあり、一部は焼失時に壁柱穴内に材が残っていた可能性もうかがえた。炭化材の形状は径10cm前後の柱状のものが多く、これらは住居の中央部に向かって倒れ込むような状態で出土した。このように、ある程度の焼失の様相は捉えられたが、個々の炭化材の遺存状態は不良で、柱、梁、垂木などの部材名までは特定できなかった。なお、炭化材の樹種同定では、カエデ属・エノキ属・ニレ属が用いられていたとの結果が得られた（第４章）。

焼失後の堆積は、自然堆積による比較的ゆっくりしたものであったと考えられる。また、焼失に先立っては、壁の崩落（第16層）が認められる。

【壁・床】壁は、北壁では床面から約150cmを急角度のまま立ち上がる。一方西壁では、床面から50cmほどまでは急角度で立ち上がるが、ここから角度を緩めてなだらかに立ち上がっている。床はⅣ層中にほぼ平坦に作られるほか、東側では壁際がテラス状に一段高くなっているところがある。また、一部では貼床が施される。貼床はPit1と3の間から北側、およそ2.7m×1.8mの範囲に10cm弱の厚さで、旧段階に属すると考えられる壁柱穴を隠すようにして施されている。貼床に用いられたのは、黒褐色～黄褐色土で、床と同じⅣ層土を多く混入させたものと考えられる。

【柱穴】新段階に伴う可能性のある主柱穴として５基（Pit1・3・5～7）を確認した。Pit1・3・5・6が台形状に配置され、このほぼ中央部に9.7cmと浅いPit7がある。深さは北辺の２基（Pit1は66.7cm、Pit3は35.2cm）に比べ、南辺の２基（Pit5は19.6cm、Pit6は22.5cm）はやや浅い。壁柱穴は新旧の合計で51基確認した内、25基を新段階に伴う可能性のあるものとした。深さは0.6～12.6cmで、出入口施設部分以外でも、確認できなかったところがあり、全周しない。

【炉】地床炉１基を確認した。掘方は伴わず、床面としたⅣ層をそのまま火床面としている。平面形は不整形で、規模は長軸92cm、短軸80cmである。焼土は最も厚いところで約10cm形成されていた。

【付帯施設】出入口施設を床面の南西際で確認した。形態はH字状で、新旧２段階のものが重なって

いると考えられるが、それぞれを分離して認識することはできなかった。

【出土遺物】土器は2162.９g出土した。層位別で取り上げた土器では、半数以上の1367.９g が１層からの出土であった。71は第３号竪穴住居跡の覆土から出土した破片と接合したものである。壺もしくは注口と考えられる。75はミニチュア土器で、注口部の先端が欠損している。作りは粗雑な印象を受ける。また、78も底径が小さく、ミニチュア土器と考えられる。79は注口部分で器面の一部が剥落している。80～83は晩期の土器で、埋没途中に混入したと考えられる。80～82は同一個体の可能性が高い。台付鉢で、雲形文が施されている。

石器は、二次加工剥片１点、磨製石斧１点、敲磨石類１点が出土し、この内２点を図示した。29は磨製石斧である。側縁に整形時の敲打痕を残す。30は敲磨石類である。

【小結】床面から出土した遺物はなく、堆積土中から出土した土器についても時期の細別ができなかった。そのため「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」の住居としておく。

〈旧段階〉

【規模・形状】旧段階は、壁柱穴列とわずかに捉えられた壁の立ち上がりにより範囲を推定した。この推定範囲の規模は、長軸5.14m、短軸4.35mを測り、平面形は楕円形であったと考えられる。

【堆積土】旧段階に伴う堆積土は確認できなかった。

【壁・床】壁は、北側から東側にかけてわずかに床からの立ち上がり部分が残る。これにより、新段階で拡張した部分より一段低い床が認識できた。なお、新段階ではこの段差は東側ではテラス状として残ったまま、北側は貼床によって段差が解消された状態で使用されたと考えられる。

【柱穴】旧段階に伴う可能性のある主柱穴として５基（Pit2・4～7）を確認した。配置は新段階と同じ台形状で、南辺の２基（Pit5・6）は新段階と共用していたと考えられる。北辺の２基は新段階のものに隣接した、やや中央寄りに位置する。壁柱穴は30基を旧段階に伴う可能性のあるものとした。深さは0.6～24.3cmで、出入口施設部分と西側の一部では確認できなかった。

【炉】旧段階とできる炉は確認できなかった。そのため、拡張に際しても炉の位置は変えずに、そのまま使用を継続したものと考えられる。

【付帯施設】新旧２段階のものが重なっていると考えられるが、それぞれを分離して認識することはできなかった。

【出土遺物】旧段階に伴う遺物は出土していない。

【小結】旧段階の住居だが、拡張に際しても床や炉、出入口施設など多くを共用するなど、居住の連続性がうかがえる。時期も新段階と同じ「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」としておく。

**第７号竪穴住居跡**（SI-7）　（図11・23～25・37・38）

【位置・確認】I－14・15、J－14・15グリッドに位置し、北東半は調査区外に延びる。Ⅳ層上面で確認したが、Ⅲ層中から掘りこまれたものと考えられる。

【重複】なし。

【規模・形状】残存部でおよそ6.1m×4.6mの範囲を調査した。全形を捉えることはできなかったが、平面形は楕円形となる可能性が高い。

【堆積土】16層に分層した。堆積土は黒褐色～褐色土を主体とし、ロームを混入する層も多い。混入

物も比較的均質に混入しており、確証を欠くものの人為堆積の可能性が高いと考えた。

【壁・床】壁は、南東壁では床面から30cmほどは垂直に立ち上がり、これより上部は角度を変え、開きながら開口部に至る。一方、壁高の低い南西壁では、なだらかに立ち上がっている。床はⅣ層中にほぼ平坦に作られるが、南壁近くではわずかに窪んでいる。

【柱穴】主柱穴を８基（Pit1～8）、壁柱穴を38基確認した。主柱穴とした８基は深さが6.8～44.2cmである。配置はPit1～3に調査区外にある１基を加えた４基で、第１号竪穴住居跡と同じ台形状となる組み合わせが想定される。壁柱穴は深さが3.7～21.6cmで、出入口施設部分を除いて約10～40cm間隔で構築されている。また、出入口施設部分では、壁際を離れ施設の南端に向かって湾曲して配置されている。

【炉】地床炉１基を確認したが、東半は調査区外に延びる。掘方は伴わず、床面としたⅣ層をそのまま火床面としている。残存部の長軸は55cm、短軸は19cmである。焼土は最も厚いところで約５cm形成されていた。

【付帯施設】出入口施設を南西壁際で確認した。形態はH字状である。深さは、横棒部分に比べ、縦棒部分が段状に深く掘りこまれている。

【出土遺物】出土状況では、床面から出土した土器４点（89～92）と人面が表現されたスタンプ形土製品１点（88）が特筆される。いずれも床面レベルで出土したものであるが、89と90については出入口施設上にあり、同施設が埋められてから置かれたものと考えられる。なお、残存率の高い土器３点（89～91）は、いずれも横倒しになった状態での出土であった。88は人面が表現されるスタンプ形土製品で、つまみ部の欠損側を床面に接した状態で出土した。人面はつまみ部に表現されている。高さは62mmで、つまみ部の一部を欠損するほか、分銅状の版部も一部器面が剥落している。人面は表裏両面に施されており、両面とも同様の表現で描出されている。顔の輪郭は横に長く、顎の周囲には刺突が並んでいるほか、頭部中央部はドーム状に盛り上がっており、ここにも刺突が施されている。鼻は眉毛とつながる微隆帯で表現され、鼻孔は刺突で表現されている。目と口は楕円形の粘土紐を貼り付けた後に沈線が施され、口には刺突も加えられる。顔から下の版部は、沈線で刻目列を隆帯状に作り出し、これより下は異原体によって羽状縄文が施されている。底面部分では縄文は浅く、まばらである。なお、底面に研磨や磨りの痕跡は認められなかった。

土器は6791.3ｇ出土した。89は、焼成前に穿孔が施される単孔土器である。文様構成からⅡ群ｄ１類の「馬場瀬段階」と考えた。90は台付鉢で、31と同様に口縁端部が２カ所欠損し、炭化物の付着も認められる。91はⅡ群ｄ２類の「堂林式古段階」の深鉢である。薄手に作られた器壁には無節Lの地縄文が施され、その上には幅１mm前後と細密な沈線で、鋸歯状や曲線のモチーフが施文される。また、口縁部には４単位で突起が施されていたと考えられるが、残存する３つ全てで先端が削り取られるように欠損している。なお、「堂林式古段階」とできるものは破片も含め、この１点のみの出土である。96は台付深鉢である。口縁部は５単位の波状口縁であったと考えられる。122は鉢とした。底部は丸底で、異原羽状縄文が施される。123～133はⅡ群ｅ類である。羽状縄文は、異なる原体によるものと同一の原体を用いるものの双方がある。134は異質な印象を受け、分類は見送った。縄文は節が細かいLR単節の原体を縦方向に施文している。また、96は第24号土坑の２層とピット12の覆土から出土した破片と接合した。なお、120は「十腰内２式」で、110もその可能性がある。どちらも埋没途中に混

入したと考えられる。

石器は、石鏃１点、石錐１点、石匙３点、スクレイパー９点、二次加工剥片２点、微細剥離痕のある剥片１点、敲磨石類５点、剥片類412.３ｇが出土し、この内13点を図示した。31は上半を欠損するが、円基無茎鏃と考えた。32・33は石匙で、共につまみ部に対して縦長の身部をもつ。34～38はスクレイパーである。39～43は敲磨石類である。

【小結】「馬場瀬段階」とこれに併行する「堂林式古段階」の土器が床面から出土することから、同段階には埋没過程にあったといえる。よって、住居が構築、使用されたのも同じ「馬場瀬段階」であった可能性が高い。

**第８号竪穴住居跡**（SI-8）　（図11・22）

【位置・確認】K－26・27グリッドに位置する。また、北東壁の一部が撹乱により失われている。Ⅳ層上面で確認した。

【重複】なし。

【規模・形状】規模は、開口部で長軸2.93m、短軸2.39mを測り、平面形は隅丸方形に近い楕円形と考えられる。

【堆積土】４層に分層した。堆積土は黒褐色土を主体とし、自然堆積によるものと考えられる。

【壁・床】壁は、北壁では垂直に立ち上がっている。一方、壁高の低い南壁では、なだらかに立ち上がるものと考えられる。床はⅣ層中にほぼ平坦に作られるが、南半ではやや低くなっている。

【柱穴】柱穴は確認できなかった。

【炉】地床炉１基を確認した。掘方は伴わず、床面としたⅣ層をそのまま火床面とし、中央部はやや窪んでいる。平面形は円形で、規模は長軸49cm、短軸47cmである。焼土は最も厚いところで約４cm形成されていた。

【付帯施設】なし。

【出土遺物】土器は30.６ｇ出土した。84・85はⅡ群ｃ・ｄ類で、共に注口の可能性がある。

石器は出土していない。

【小結】時期を断定できる遺物に乏しく、「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」の住居としておく。

**第９号竪穴住居跡**（SI-9）　（図８・９・22）

【位置・確認】H－25・26グリッドに位置するが、その大半は調査区外にある。そのため、確認は調査区南壁でおこない、平面ではわずかに壁柱穴の一部を捉えられたに留まる。土層断面図A－A’では、西壁がⅡ層の上にある人為的な盛土層（盛土範囲１か）を切って掘りこまれていることがわかる。

【重複】東側で第23号土坑と重複し、本遺構が新しい。西壁で本遺構が切っている人為的な盛土層は、平面的には連続を捉えられなかったが、土質や混合物の特徴から、第24号土坑を覆っている盛土範囲１である可能性が高い。

【規模・形状】規模は、土層断面図A－A’の開口部間で3.86m、下端間で3.28mである。平面形は不明である。

【堆積土】６層に分層した。堆積土は黒褐色～暗褐色土を主体としている。

【壁・床】壁は、西壁では床面に近いところからから外湾しながら開口部に至る。床は、Ⅱ層中にほぼ平坦に作られる。

【柱穴】床面を捉えられなかったが、壁柱穴の一部と考えられるものを４基確認した。本来であれば、ほかの竪穴住居跡と同様に壁際を巡っていた可能性が高い。なお、確認した４基の最下点標高は182.96～183.07mで床面の高さを土層断面図A－A’から183.24mと仮定した場合、深さは17～28cmとなり、ほかの竪穴住居跡で確認した壁柱穴の値とも近い。

【炉】残存部分には存在しない。

【付帯施設】残存部分には存在しない。

【出土遺物】土器は966.4ｇ出土した。無文の深鉢である86とⅡ群ｃ類の注口である87は、床面から２個体が寄り添うようにして出土したものである。

石器は出土していない。

【小結】「十腰内Ⅳ群段階」の注口が床面から出土することから、同段階には埋没過程にあったといえる。よって、住居が構築、使用されたのも同じ「十腰内Ⅳ群段階」であった可能性が高い。

### ３　掘立柱建物跡

**第１号掘立柱建物跡**（SB-1）　（図14・26・27・38）

【位置・確認】G－17・18、H－17・18グリッドに位置し、掘立柱建物跡とこの上部で確認した配石遺構により構成される。当初、両者は別遺構の重複と認識していたが、配石遺構が掘立柱建物跡の柱穴配置に沿うように構築されていることから、同一遺構として報告することとした。また、本遺構に関連すると考えられる遺構に第２号焼土遺構があり、これもあわせて報告する。以下、「配石遺構」と「掘立柱建物跡」にわけて記載する。

〈配石遺構〉

【確認】Ⅲ層掘削中に、礫の露出で確認した。Ⅲ層中に構築されたものと考えられる。

【規模・形状】南西側の約半分を欠くものの、方形状に掘方を設けて礫を埋置したものと考えられる。礫を埋置する間隔は不規則で、規模は残存する北辺で4.17m、東辺で4.10mを測る。掘方の深さは一定しないが、概ね５～10cm前後であった。用いられる礫の形状に共通性は認められない。長径20～30cm前後のものが多く、最も大きいものでは50cmを超えるものがある。

【出土遺物】配石遺構に伴う遺物は出土していない。また、配石に用いられる礫にも、石器から転用されたものは皆無であった。

〈掘立柱建物跡〉

【確認】配石遺構の調査後、Ⅳ層上面で確認した。当初は存在を認識しておらず、検出順にそれぞれにピット番号を付して調査した。しかし、調査が進むにつれ、ピットが縄文時代後期にみられる亀甲形の配置であることがわかり、掘立柱建物跡として認識した。なお、報告にあたって、各柱穴の番号は調査時のままとし、ピット13・17・22・23・24・25・26の７基で構成される建物跡とした。また、この建物跡のほぼ中央部から第２号焼土遺構を確認した。遺構としたが、風倒木により原位置を維持していない。しかし、焼土遺構としての痕跡を留めており、建物跡との関連もうかがえる。そのため、

以下に【焼土遺構】の項を設け、あわせてここで報告する。

【重複】ピット22は第３号土坑と重複し、これより古い。

【規模・形状】ピットは亀甲形に７基配置されている。棟持柱は重複するピット13・17とピット24と考えた。なお、下端を２カ所で確認したピット24についても、本来２基のピットであった可能性が高く、棟持柱の移設を伴う建て替えが行われた可能性を指摘できる。規模は、各ピットの下端の中央部間で計測し、ピット22と25の間で3.61m、ピット25と26の間で3.47m、ピット17とピット24の北側の下端間で5.25mであった。

【柱穴】平面形は、不整形だが楕円基調である。深さは72.0～105.7cmである。壁は、底面からほぼ垂直に立ち上がるが、ピット22と25は共に北側へ浅い中端が張り出している。また、ピット22の確認時に粘土が張られていたと考えられる範囲（第１層が相当）を確認した。

【焼土遺構】建物中央部で第２号焼土遺構（SN-2）を確認した。当初から、焼土と建物跡との関連はうかがえたが、断ち割ってみたところ、縦に長い焼土（第６層）が確認された。しかし、これは確認面を火床面として形成したものとは考え難いものであった。周囲の堆積土とあわせて検討した結果、これは第６層と第２層の層境が本来の火床面で、これが風倒木によって地山ごとほぼ直角に横転したものと考えた。そのように考えた場合、第７～９層は横転した地山のⅣ層で、第２～４層は風倒木によって生じた窪地に堆積した黒褐色土と理解できる。また、第６層の下にある礫の存在からはこの炉が石囲炉であった可能性も指摘できる。

【出土遺物】土器はピット22から46.0g、ピット23から249.3g、ピット25から357.6g、ピット26から105.2g出土した。157はⅡ群ｃ類の「十腰内Ⅳ群段階」の注口である。また、156は、同一個体の口縁部と考えられる。

石器は、ピット22から磨製石斧が１点と剥片類60.8g、ピット23から剥片類6.9g出土し、この内１点を図示した。44は磨製石斧である。

なお、風倒木であるが、第２号焼土遺構として取り上げた遺物も参考までに掲載した。土器は2234.3g出土した。163は無節Lの原体を、165・166はLR単節の原体を用いている。石器は、敲磨石類１点、石皿・台石類１点、石核２点、剥片類4.1ｇが出土し、この内２点を図示した。45は敲磨石類である。46は石皿・台石類である。窪みに磨り痕が認められるが、その形成は非常に弱い。

【小結】掘立柱建物跡は６基の柱穴で構築される亀甲形の柱穴配置となるもので、配石遺構はこの内、ピット22・23・25・26上に方形に配置される。

時期は「十腰内Ⅳ段階」とできる土器がピット25から出土することから、同段階には埋没過程にあったといえる。よって、建物が構築、使用されたのも同じ「十腰内Ⅳ群段階」であった可能性が高い。

### ４　土坑

22基確認した（図８・９・14・15・16）。個別の記載は観察表に譲り、ここでは特記事項の記載に留める。

【平面形・規模】平面形には円形・楕円形・方形のほか不整形としたものがある。円形となるものが10基と多く、長軸は0.76～1.43mである。堆積はいずれも自然堆積と考えられるものであった。平面

形が楕円形となるものは４基で、この内第16～18号土坑の３基はH－14グリッドを中心とした範囲に近接して位置する。長軸は1.61～2.67mで、底面はいずれも平坦ではない。平面形が方形となる第24号土坑は、盛土範囲１の下で確認した。南東側を風倒木により欠くものの、残存部から推定する平面形と規模、平坦な底面などは第８号竪穴住居跡に近いといえる。

【出土遺物】掲載遺物（図26・38）について記載する。

土器は、第６号土坑からはⅡ群ｃ・ｄ類の深鉢（136）が出土している。第12号土坑からはⅡ群ｂ類の深鉢（138）が出土している。第18号土坑からはⅡ群ｂ類の深鉢（139）が出土している。第24号土坑からはⅡ群ｃ・ｄ類（141～144）が出土している。第27号土坑からは比較的多くの土器が出土した。146はⅡ群ｂ類の可能性がある。152はⅡ群b類の注口で、「宝ヶ峯型注口土器」（鈴木2006）とされるものである。器面の外面は研磨されて黒色となる。内外面にはわずかに赤彩の痕跡が残り、本来は広く赤色顔料が塗布されていたものと考えられる。150・151の注口部も黒色で、Ⅱ群b類と考えられる。148は沈線が施文されており、Ⅱ群ｂ類に伴う粗製土器の可能性がある。

石器は剥片類を除くと、第24号土坑からスクレイパー１点、二次加工剥片１点、石皿・台石類１点が第27号土坑から二次加工剥片１点が出土している。この内、２点を図示した。47はスクレイパーである。急角度に調整された刃部を持つもので、いわゆる「掻器」とされるものである。48は石皿・台石類である。石材に頁岩を用い、平坦な使用面は明確な縁を作り出している。また、表面は広範囲が被熱により黒く変色している。

【時期】遺物が出土せず、時期を明確にできないものが多い。しかし、その内の大半は竪穴住居跡が構築される「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」に帰属するものと考えられる。

なお、第12・18・27号土坑に関してはⅡ群ｂ類が出土し、特に第27号土坑に関しては、出土土器の大半を占めている。同類は周囲の包含層からも多く出土するため混入を否定できないが、第27号土坑は「十腰内２式」を主体とする後期中葉に帰属する可能性を指摘しておく。

## ５　焼土遺構

２基確認した。第２号焼土遺構については掘立柱建物跡の項で記載したので、ここでは記載しない。

**第１号焼土遺構**（SN-1）　（図17）

H－16グリッドに位置する。Ⅲ層中に形成されており、南半は平面で捉えることができなかった。残存長軸は0.65m、残存短軸は0.47m、焼土は最も厚いところで約18cm形成されていた。遺物は出土していない。

## ６　溝状遺構

**第１号溝状土坑**（SV-1）　（図17）

E－19・20グリッドに位置し、東半は調査区外に延びる。Ⅰ層直下のⅢ層中から掘りこまれている。平面形は長楕円形で、規模は開口部で残存長軸2.71m、短軸0.71m、深さは1.61mを測る。断面形状はY

字状で、堆積土は９層に分層した。遺物は出土していない。

### 7　ピット

Ⅲ層からⅣ層の上面にかけて６基（掘立柱建物跡として抽出した７基を除く）を確認した（図17）。遺物はピット12から土器14g、二次加工剥片１点が出土したのみで時期を明確にできないが、いずれも遺構が多く構築される「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」のものと考えられる。

## 第３節　遺構外出土遺物

### 1　土器　（図27～34）

土器は約40.8kg出土し、そのうち遺構外からの出土は約18.3kgである。ここでは、まず遺構内出土土器も含めた本報告書での分類を示した上で、遺構外出土土器の特記事項を分類ごとに記載する。

分類は時期ごとにⅠ～Ⅲ群に大別した。この内、出土量の多いⅡ群については器形、文様、胎土等からａ～ｄ類に細分し、型式あるいは先行研究との対比を試みた。ｅ類は、地文のみもしくは無文の土器で、いわゆる粗製土器を含むものである。

器形の復元ができないものについては、傾きや文様・調整等を勘案して可能性の高い器種を観察表に記載した。なお、「ミニチュア土器」（菅野2008）とされるものもここで報告する。

Ⅰ群･･･縄文時代前期の土器。

Ⅱ群･･･縄文時代後期の土器。

ａ類　前葉の土器で、沈線で文様を描出するもの。出土量が少ないものの、いずれも「十腰内Ⅰ式」（榎本2008）の範疇にあると考えられる。

ｂ類　中葉の土器で、平行沈線で区画される文様帯を持つものや曲線のモチーフを描くものなどがある。先行研究との対比では、「十腰内２式」（鈴木2001）を含む土器群である。

ｃ類　中葉～後葉の土器で、主に磨消縄文によって文様が描出される一群である。磨消縄文による文様には木葉文や襷掛状文がある。また、文様描出には刻目、貼瘤が用いられるものもある。先行研究との対比では「十腰内Ⅳ群段階」（関根2005）とできる土器群である。

ｄ１類　中葉～後葉の土器である。器種・器形・文様施文などにｃ類との共通項を多く認めながらも、モチーフの描出に代表される文様施文や器面調整がやや粗雑化あるいは弛緩すると捉えられるものである。先行研究との対比では「馬場瀬段階」とできる土器群で、時期はｃ類に後続するとされている（関根2005）。

ｄ２類　中葉～後葉の土器で、細密な沈線で鋸歯状や曲線のモチーフを施すものである。先行研究との対比では、北海道を中心に分布する「堂林式古段階」（阿部2003）とできる土器で、ｄ１類

とは併行関係にあるとされる（関根2005）。

e類　後期に帰属すると考えられる地文のみもしくは無文の土器である。いわゆる粗製土器のほか、残存範囲が小さいために本類とされたものを含む。粗製土器は、羽状縄文のみが施されるものが多く、縄文原体は0段多条に加えて単節を用いていると考えられるものがある。

Ⅲ群･･･縄文時代晩期の土器。

出土の主体となる中葉～後葉の土器は、これまで主に十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群とされていたもので、これについてはc類とd1類に細分した。文様描出には、磨消縄文が多用される。羽状縄文は異なる原体を用いるもの（これについては、本文及び観察表中で「異原羽状縄文」と表記した箇所がある。）で、原体は0段多条が大半を占める。なお、文様・器形などの構成要素に共通項が多いことから、破片については一括して「Ⅱ群c・d類」とした。

遺構外からの出土量は、遺構内同様、「十腰内Ⅳ群段階」と「馬場瀬段階」のものが主体となり、これに加え「十腰内2式」も定量出土している。これ以外のものは、いずれも少ない。遺構外から出土したものについては、その大半が19列（Y=17616）より西側からであり、出土の偏りが著しい。また「十腰内2式」については、H－13、I－13グリッドを中心とした範囲に出土の集中を見出せる。

以下、遺構外出土土器について、分類ごとに特記事項を記載する。

167～170はⅠ群である。167は器壁が厚く、前期初頭の可能性がある。169は結束羽状縄文が施され、円筒下層d式と考えられる。

171～174はⅡ群a類である。いずれも沈線で文様を描出している。

175～220はⅡ群b類である。175～185、187～199は平行沈線で区画される文様帯を持つと考えられるものである。器形を明らかにできるものは出土していないが、口縁部では平縁（175ほか）と波状口縁（189ほか）がある。200～204は曲線のモチーフを描くものである。201・204は、胴部が「く」の字状に強く屈曲する。203は底に内容物と考えられる黒色の付着物が残る。205～210は縄文を主体とするものである。205～207は口唇部に縄文を施文している。211・212は「華燭土器」（鈴木2004）とされるものである。212は口縁部に大形の突起が施される。213～215は、平行沈線間に縄文に加えて刺突が施されている。216～220は「宝ヶ峯型注口土器」とされるものである。器面の外面は研磨されて黒色となる。216の外面にはわずかに赤彩の痕跡が残り、本来は広く赤色顔料が塗布されていたものと考えられる。

221・222は同一個体で、後期と考えた。厚い器壁と縦走する沈線はⅡ群b類、0段多条による羽状縄文はⅡ群c・d類の要素といえる。

223～289はⅡ群c・d類である。223～259は深鉢と考えられるものである。223は、Ⅱ群c類と考えた。器面の内外面に炭化物が付着している。224は、Ⅱ群c・d類としたが、平行沈線で区画される文様帯はⅡ群b類に近いといえる。235はⅡ群c類としたものより、文様モチーフの粗雑化と貼瘤の多用が認められることからⅡ群d1類と考えた。251・252は器面がほかにみられない褐色で、異質な印象を受ける。257はⅡ群c・d類としたが、LR単節の使用などから時期が異なる可能性もある。

260～283は注口と考えられるもので、一部壺の可能性があるものを含む。267は刻目が狭い間隔で密に施されている。264・275は文様構成からⅡ群ｄ１類と考えた。また、279・281もⅡ群ｄ１類の可能性がある。276は、Ⅱ群ｃ類と考えた。283は、口縁部から頸部にかけて刻目と貼瘤を主体とした文様が施されている。284・285は鉢である。287・288は台が付くもので、ミニチュア土器の可能性がある。289は香炉形である。

290～292は後期と考えた。290・291は同一個体で、０段多条による縄文はⅡ群ｃ・ｄ類の要素といえる。292は、Ⅱ群ｃ・ｄ類の深鉢の可能性がある。

293～301はⅢ群である。293～295、297～299は平行沈線を用い、大洞A式と考えられる。

302～335はⅡ群ｅ類である。302・303は鉢である。304・305は原体に単軸絡条体５類を用い、Ⅱ群ａ類に伴う粗製土器の可能性がある。また、条痕文の施される306もⅡ群ａ類に伴う可能性がある。羽状縄文が施されるものは、使用する原体や胎土・調整などにⅡ群ｃ・ｄ類との共通性がうかがえることから、これに伴う粗製土器である可能性が高い。

### ２　土製品　（図34）

遺構外からは円盤状土製品１点が出土した。336はⅡ群ｃ・ｄ類の土器片の周囲を打ち欠いて円形に整形している。周縁に明確な研磨や磨りの痕跡は認められなかった。

### ３　石器　（図35～41）

遺構外からは剥片類、石核を除くと70点の石器が出土した。土器の様相と同じく遺構の構築される時期、「十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階」に帰属するものが多数を占めると考えられる。ここでは、遺構外出土石器について、剥片石器と礫石器に大別して記載する。

剥片石器は、遺構外から58点（剥片類、石核を除く）出土した。この内33点がⅠ－13グリッドを中心とした範囲（J－12～14、Ⅰ－12～14 、H－12～14の９グリッド）からの出土であり、集中が見出せる。なお、分類にあたっては『砂子瀬遺跡Ⅲ』（青森県教委2012）を参考とした。

#### 石鏃

遺構外からの出土は５点で、この内３点（49～51）を図示した。

49～51は凹基無茎石鏃である。

#### 石錐

遺構外からの出土は２点で、この内１点（52）を図示した。

52は棒状で、明瞭なつまみ部を持たないものである。

**石箆**

遺構外からの出土は２点で、全て（53・54）図示した。

53・54は平面形が撥形で、刃部は下端に直線的に作り出されている。

**スクレイパー**

上述の定形石器には属さないが、縁辺に連続する二次加工が施され、意図的な刃部が作り出された石器である。

遺構外からの出土は14点で、この内９点（55～63）を図示した。これを刃部の角度から細分すると、急角度に調整された刃部を持つもの（58）がいわゆる「掻器」、これ以外の８点がいわゆる「削器」（55～57・59～63）とできる。

**二次加工剥片**

剥片の一部に二次加工が施されるものである。器種を判断できない石器の破片や未成品と思われるものも含む。

遺構外からの出土は17点で、この内３点（64～66）を図示した。65と66は石鏃の未成品の可能性がある。64も両面の広い範囲に二次加工が及んでおり、何らかの石器の未成品である可能性が高い。

**微細剥離痕のある剥片**

剥片の一部に微細な剥離が認められるものである。

遺構外からの出土は18点で、この内１点（67）を図示した。67は、剥片の２辺に使用によると考えられる剥離が認められる。

**石核**

剥片を剥離した残核である。

遺構外からの出土は３点で、この内１点（68）を図示した。

**剥片類**

二次加工の施されない剥片である。遺構内から1011.6g、遺構外から1121.6g出土した。

礫石器は遺構外から12点出土した。出土数が少ないため、分類は大別に留め、細分は行わなかった。

**磨製石斧**

遺構外からの出土は２点で、全て（69・70）図示した。

69は石材に安山岩を用いるもので、整形時の敲打痕を残している。70は緑色片岩を用いるものである。やや小振りで、平面形は側縁が直線的である。

**敲磨石類**

「磨石」、「敲石」、「凹石」とされるものを一括した。

遺構外からは８点出土し、全て（71～78）図示した。敲打痕の累積による凹みが全てで認められ、この内５点（71～75）はあわせて磨り痕も認められた。いわゆる「磨石」とできるものには71があり、楕円形の礫の広範囲に顕著な磨り面が形成される。一方で、使用痕が凹みのみのもの（76～78）は、平面形が不整な礫を用いている。

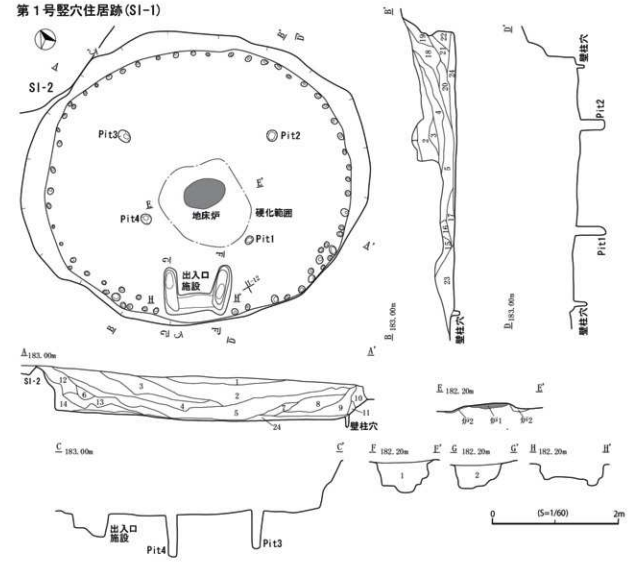
**石皿・台石類**

「石皿」、「台石」とされるものを一括した。

遺構外からは２点出土し、この内１点（79）を図示した。79は、いわゆる「石皿」とできるもので、使用部分以外に広く自然面を残している。

**４　石製品**　（図41）

遺構外からは石刀１点、板状を呈するもの１点の計２点が出土した。80は頭部を欠損するが、石刀と考えた。棒状の粘板岩を研磨して整形している。端部には間隔を置いて６条の線刻を巡らし、この間に斜方向の線刻を施すことで文様を描出している。81は、欠損により全形は不明であるが、細粒凝灰岩を研磨して作り出した厚さ８㎜の板状の石製品である。




**第１号竪穴住居跡(SI-1)(A-A'-B-B')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 軽石(φ10mm)2%. |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 10YR3/3暗褐色土3%, 軽石(φ5～50mm)5%. |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/3黒褐色土5%, 軽石(φ5～70mm)10%. |
| 第4層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR3/3暗褐色土10%, 炭化物(φ1mm)1%未満, 軽石(φ1～30mm)5%. |
| 第5層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR2/3黒褐色土5%, ローム ブロック(φ10～100mm)2%, 軽石(φ5～70mm)7%. |
| 第6層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 軽石(φ1～30mm)3%. |
| 第7層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 軽石(φ30mm)2%. |
| 第8層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR3/3暗褐色土3%, ローム ブロック(φ10～100mm)2%. |
| 第9層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR3/2黒褐色土5%, ローム粒(φ1～10mm)1%, 軽石(φ1～10mm)3%. |
| 第10層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 軽石(φ1～2mm)2%. |
| 第11層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%, 軽石(φ1mm)1%. |
| 第12層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ローム ブロック(φ100mm)2%, 軽石(φ1～10mm)1%. |
| 第13層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土5%, 軽石(φ1～10mm)1%. |
| 第14層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 10YR4/6褐色土5%, 10YR2/3黒褐色土3%, 軽石(φ1～30mm)2%. |
| 第15層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 炭化物(φ1mm)1%未満, 軽石(φ1～10mm)3%. |
| 第16層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 軽石(φ1～5mm)5%. |
| 第17層 | 10YR4/4 | 褐色土 | ローム粒(φ2mm)1%, 軽石(φ3mm)1%. |
| 第18層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土5%, 炭化物(φ1mm)又は1%未満, 軽石(φ1～10mm)3%. |
| 第19層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム ブロック(φ70mm)3%, 軽石(φ1～10mm)2%. |
| 第20層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 炭化物(φ1mm)1%未満, 軽石(φ1～20mm)3%. |
| 第21層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR4/4褐色土5%, 軽石(φ1～15mm)3%. |
| 第22層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR4/6褐色土30%, 10YR3/2黒褐色土3%, 軽石(φ1～70mm)3%. |
| 第23層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 10YR3/4暗褐色土10%, 炭化物(φ20mm)1%, 軽石(φ1～30mm)5%. |
| 第24層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR2/2黒褐色土5%, 炭化物(φ1mm)1%未満, 軽石(φ1～20mm)3%. |

**第１号竪穴住居跡(SI-1)炉(E-E')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 炉1層 | 7.5YR5/8 | 明褐色焼土 | 10YR5/6黄褐色土3%, 10YR3/4暗褐色土2%, 炭化物(φ～1mm)1%未満, 軽石(φ1～50mm)20%. |
| 炉2層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR3/4暗褐色土3%, 炭化物(φ1～5mm)1%, 軽石(φ1～5mm)5%. |

**第１号竪穴住居跡(SI-1)出入口施設(F-F')**

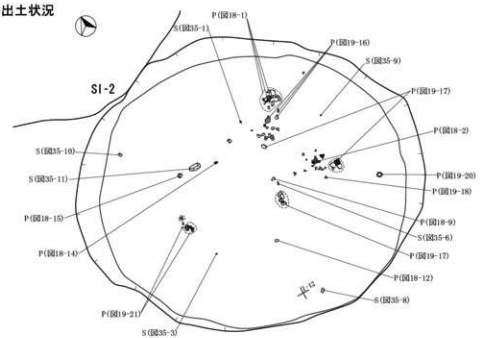
| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 軽石(φ1～50mm)1%. |

**第１号竪穴住居跡(SI-1)出入口施設(G-G')**

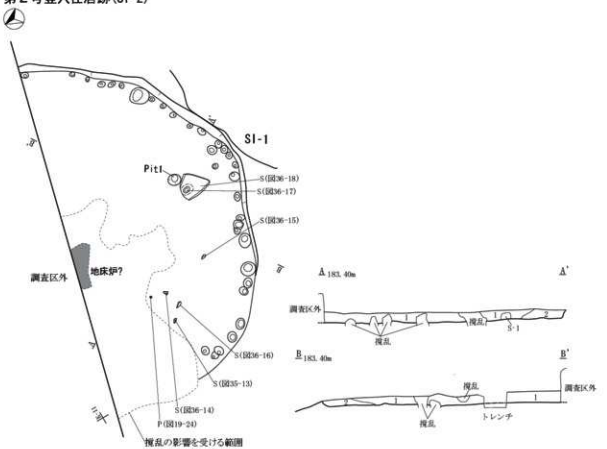
| | | | |
|---|---|---|---|
| 第2層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR5/6黄褐色土2%, 軽石(φ1～50mm)7%. |

図６　竪穴住居跡（１）

## SI-1遺物出土状況




## 第２号竪穴住居跡(SI-2)

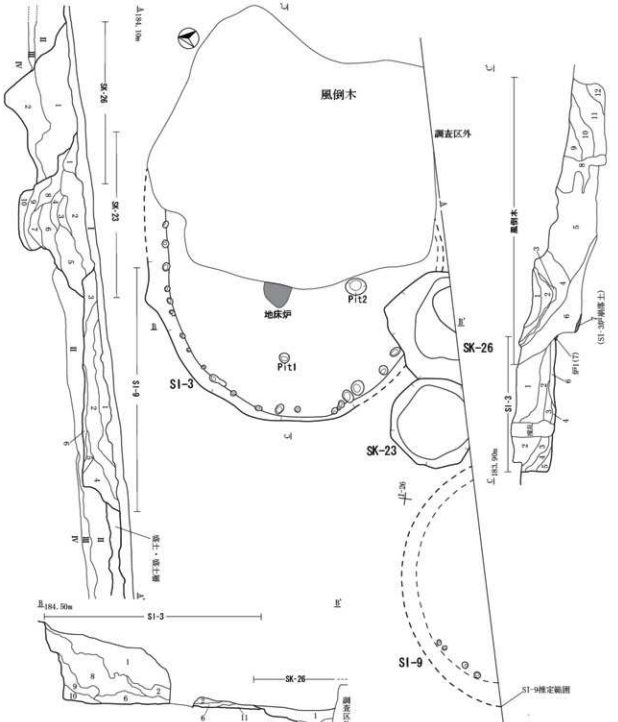



**第２号竪穴住居跡(SI-2)**
第1層　10YR3/4　暗褐色土　10YR5/8黄褐色土5%、10YR2/2黒褐色土3%、10YR4/6褐色土3%、5YR4/8赤褐色焼土(φ～1mm)1%未満、炭化物(φ1～5mm)2%、
　　軽石(φ1～50mm)40%。
第2層　10YR3/4　暗褐色土　10YR4/6褐色土20%、炭化物(φ1～5mm)1%、軽石(φ1～30mm)10%。

0　(S=1/60)　2m

図７　竪穴住居跡（２）

## 第３号竪穴住居跡(SI-3)・第９号竪穴住居跡(SI-9)/第23号土坑(SK-23)・第26号土坑(SK-26)




**第３層号竪穴住居跡(SI-3)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土30%、炭化物(φ1～3mm)1%、軽石(φ1～10mm)3%、 |
| 第2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)1%未満、炭化物(φ1～2mm)1%、礫(φ10～20mm)1%<br>軽石(φ1～20mm)10%、 |
| 第3層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 軽石(φ1～10mm)1%、炭化物(φ1～5mm)1%、 |
| 第4層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒褐色土2%、ロームブロック(φ10～50mm)30%、炭化物(φ～1mm)1%、軽石(φ1～20mm)3%、 |
| 第5層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 軽石(φ1～20mm)5%、 |
| 第6層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 炭化物(φ1～20mm)15%、軽石(φ1～2mm)5%、 |
| 第7層～9・11層 | | | |
| 第8層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土10%、10YR4/6褐色ローム5%、軽石(φ1～20mm)5%、 |
| 第9層 | 10YR4/6 | 褐色ローム | 10YR2/3黒褐色土20%、10YR3/3暗褐色土10%、軽石(φ1～20mm)5%、 |
| 第10層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色ローム10%、軽石(φ1～5mm)5%、 |
| 第11層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色ローム30%、10YR3/4暗褐色土10%、炭化物(φ1mm)1%、軽石(φ1～20mm)3%、 |
| 9・11層(第7層) | 5YR4/8 | 赤褐色焼土 | 10YR2/3黒褐色土3%、軽石(φ1～2mm)2%、 |

**盛土**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 盛土層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ロームブロック(φ10～120mm)30%、炭化物(φ1～10mm)2%、軽石(φ1～20mm)10%、 |

0 (S=1/60) 2m

図８　竪穴住居跡（３）

**第9号竪穴住居跡(SI-9)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 10YR2/2黒褐色土30%、炭化粒(φ1～3mm)2%、軽石(φ5～10mm)5%、 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色焼土粒(φ～1mm)1%未満、炭化粒(φ1～10mm)3%、軽石(φ1～30mm)8%、 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土10%、10YR4/6褐色ローム10%、軽石(φ1～30mm)5%、 |
| 第4層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/3黒褐色土20%、10YR4/6褐色ローム10%、炭化粒(φ1～5mm)5%、礫(φ10～30mm)1%、軽石(φ1～20mm)10%、 |
| 第5層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒(φ～1mm)2%、炭化粒(φ～1mm)1%、礫(φ20～40mm)1%、軽石(φ1～2mm)3%、 |
| 第6層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 炭化粒(φ1～20mm)1%、軽石(φ1～2mm)5%、 |

**第23号土坑(SK-23)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土20%、10YR5/6黄褐色ローム2%、炭化粒(φ1～2mm)1%、軽石(φ1～3mm)10%、 |
| 第2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土3%、10YR5/6黄褐色ローム20%、炭化粒(φ1～2mm)1%、軽石(φ1～10mm)20%、 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR1.7/1黒色土3%、ロームブロック(φ1～30mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%未満、炭化粒(φ～1mm)1%未満、軽石(φ1～5mm)30%、 |
| 第4層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1～20mm)3%、炭化粒(φ～1mm)1%、軽石(φ1～5mm)10%、 |
| 第5層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%未満、炭化粒(φ1～2mm)1%、軽石(φ1～20mm)5%、 |
| 第6層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/1黒色土5%、10YR5/6黄褐色ローム5%、炭化粒(φ～1mm)1%、軽石(φ1～20mm)20%、 |
| 第7層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土5%、10YR5/6黄褐色ローム5%、炭化粒(φ1～10mm)2%、軽石(φ1～10mm)1%、 |
| 第8層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/3暗褐色土3%、10YR5/4にぶい黄褐色粒土1%、炭化粒(φ1～10mm)1%、軽石(φ1～10mm)5%、 |
| 第9層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、10YR5/6黄褐色ローム1%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%未満、炭化粒(φ1～5mm)1%、礫(φ5～30mm)2%、軽石(φ1～10mm)10%、 |
| 第10層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土3%、10YR5/6黄褐色ローム5%、炭化粒(φ1～5mm)1%、軽石(φ1～20mm)20%、 |

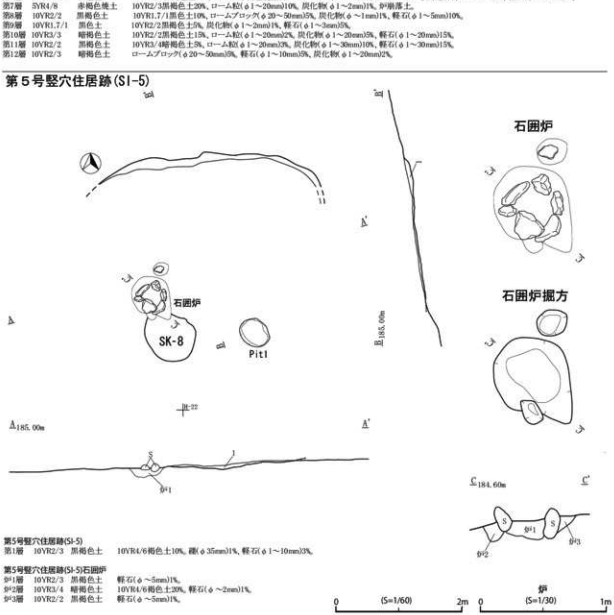
**第26号土坑(SK-26)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土30%、10YR2/1黒色土3%、炭化粒(φ1～5mm)1%、軽石(φ1～50mm)3%、 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土20%、10YR4/6褐色ローム5%、炭化粒(φ1mm)1%、軽石(φ1～10mm)5%、 |

**焼倒木**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化粒(φ1～3mm)2%、軽石(φ1～3mm)1%、 |
| 第2層 | 10YR6/4 | 浅黄橙色 | 火山灰(B-Tm)、10YR4/6褐色土10%、10YR2/3黒褐色土10%、10YR2/1黒色土3%、軽石(φ～1mm)1%、 |
| 第3層 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | 火山灰(To-a)、10YR2/3黒褐色土15%、10YR2/1黒色土1%、ローム粒(φ1～2mm)1%、 |
| 第4層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR2/1黒色土35%、炭化粒(φ1～2mm)1%、軽石(φ1～10mm)10%、 |
| 第5層 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | 10YR3/3暗褐色土5%、10YR2/3黒褐色土5%、軽石(φ1～30mm)20%、 |
| 第6層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 10YR2/3黒褐色土10%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1～20mm)2%、ローム粒(φ1～30mm)10%、炭化粒(φ1～10mm)2%、軽石(φ1～2mm)2%、 |
| 第7層 | 5YR4/8 | 赤褐色焼土 | 10YR2/3黒褐色土20%、ローム粒(φ1～20mm)10%、炭化粒(φ1～2mm)1%、砂礫層上。 |
| 第8層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR1.7/1黒色土10%、ロームブロック(φ20～50mm)5%、炭化粒(φ～1mm)1%、軽石(φ1～5mm)10%、 |
| 第9層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 10YR2/2黒褐色土5%、炭化粒(φ1～2mm)1%、軽石(φ1～3mm)5%、 |
| 第10層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土15%、ローム粒(φ1～20mm)2%、炭化粒(φ1～20mm)5%、軽石(φ1～20mm)15%、 |
| 第11層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、ローム粒(φ1～20mm)3%、炭化粒(φ1～30mm)10%、軽石(φ1～30mm)15%、 |
| 第12層 | 10YR2/3 | 暗褐色土 | ロームブロック(φ20～50mm)5%、軽石(φ1～10mm)3%、炭化粒(φ1～20mm)2%、 |

## 第５号竪穴住居跡(SI-5)




**第5号竪穴住居跡(SI-5)**

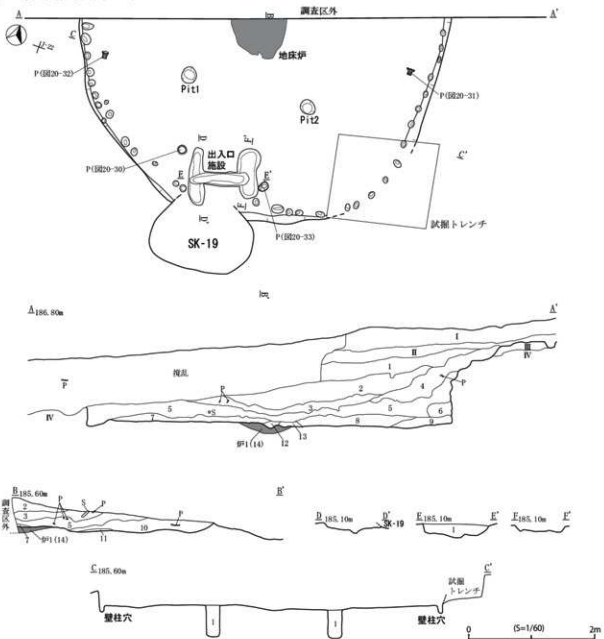
| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色土10%、礫(φ35mm)1%、軽石(φ1～10mm)3%、 |

**第5号竪穴住居跡(SI-5)石囲炉**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 炉1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 軽石(φ～5mm)1%、 |
| 炉2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/6褐色土20%、軽石(φ～2mm)1%、 |
| 炉3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 軽石(φ～5mm)1%、 |

図９　竪穴住居跡（４）

## 第４号竪穴住居跡(SI-4)




**第４号竪穴住居跡(SI-4)(A-A'-B-B')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR1.7/1黒色土5%、軽石(φ1～20mm)2%、 |
| 第2層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 10YR2/2黒褐色土40%、ローム粒(φ1～20mm)1%、礫(φ～30mm)1%、軽石(φ1～25mm)5%、 |
| 第3層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1～5mm)1%、礫(φ1～10mm)1%、軽石(φ1～30mm)5%、 |
| 第4層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、礫(φ1～10mm)1%、軽石(φ1～20mm)2%、 |
| 第5層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/3暗褐色土10%、ロームブロック(φ20～40mm)1%、礫(φ50mm)1%、軽石(φ1～25mm)8%、 |
| 第6層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 10YR3/4暗褐色土10%、軽石(φ1～15mm)1%、 |
| 第7層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ロームブロック(φ1～30mm)1%、軽石(φ1～20mm)3%、 |
| 第8層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 礫(φ20mm)1%、軽石(φ1～30mm)5%、 |
| 第9層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色土8%、ローム粒(φ1～20mm)3%、 |
| 第10層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/3黒褐色土10%、ロームブロック(φ1～50mm)2%、ローム粒(φ1～10mm)1%、礫(φ50mm)1%、軽石(φ1～15mm)5%、 |
| 第11層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、軽石(φ1～10mm)2%、 |
| 第12層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 軽石(φ1～5mm)10%、 |
| 第13層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 7.5YR4/4褐色土10%、ロームブロック(φ40mm)2%、2.5YR4/6赤褐色土粒(φ10mm)1%、軽石(φ1～3mm)1%、 |
| 第14層→炉1層 | | | |
| 炉1層(第14層) | 5YR5/8 | 明赤褐色土 | 7.5YR5/6明褐色土30%、礫(φ15～20mm)1%、軽石(φ1～20mm)2%、 |

**第４号竪穴住居跡(SI-4)Pit1(C-C')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR6/6明黄褐色土3%、10YR4/6褐色ローム5%、軽石(φ1～20mm)、 |

**第４号竪穴住居跡(SI-4)Pit2(C-C')**

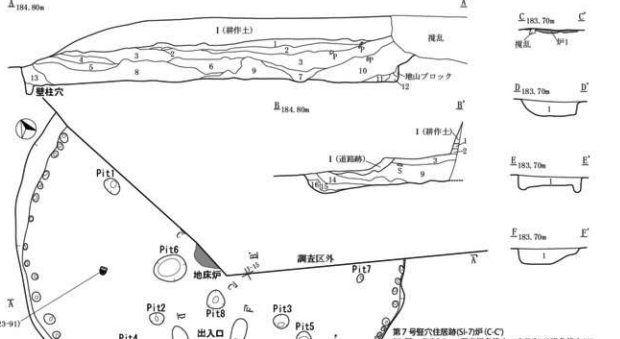
| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR6/6明黄褐色土3%、10YR4/6褐色ローム3%、軽石(φ1～10mm)、 |

**第４号竪穴住居跡(SI-4)出入口施設(E-E')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土5%、10YR6/6明黄褐色土、10YR7/8黄橙色土5%、10YR5/6黄褐色ローム10%、軽石(φ1～15mm)、 |

図10　竪穴住居跡（５）

## 第７号竪穴住居跡(SI-7)




**第７号竪穴住居跡(SI-7)(A-A'・B-B')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土10%、火山灰(B-Tm)3%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%未満、炭化物(φ1mm)1%、軽石(φ1～10mm)3%、 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、軽石(φ1～10mm)5%、B-Tm3%、炭化物(φ～1mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%未満、 |
| 第3層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土1%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ～1mm)2%、炭化物(φ1～10mm)5%、軽石(φ1～20mm)8%、 |
| 第4層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土3%、炭化物(φ～1mm)1%未満、軽石(φ1～15mm)20%、 |
| 第5層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR6/8黄褐色ローム5%、炭化物(φ1～2mm)1%、軽石(φ1～20mm)20%、 |
| 第6層 | 10YR5/8 | 黄褐色ローム | 10YR2/3黒褐色土5%、炭化物(φ1～5mm)2%、軽石(φ1～10mm)10%、 |
| 第7層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR5/6黄褐色ローム5%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%未満、炭化物(φ1～10mm)1%、軽石(φ1～5mm)8%、 |
| 第8層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR3/4暗褐色土1%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%、炭化物(φ1～3mm)1%、礫(φ1～5mm)1%、軽石(φ1～40mm)30%、 |
| 第9層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR4/4褐色土10%、10YR3/4暗褐色土5%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%、炭化物(φ1～5mm)3%、軽石(φ1～20mm)30%、 |
| 第10層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR3/4暗褐色土10%、炭化物(φ1～5mm)2%、礫(φ1～5mm)1%、軽石(φ1～30mm)30%、 |
| 第11層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 炭化物(φ1～8mm)1%、軽石(φ1～20mm)35%、 |
| 第12層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR2/3黒褐色土2%、10YR5/6黄褐色ローム10%、軽石(φ1～5mm)5%、 |
| 第13層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 炭化物(φ～1mm)1%、軽石(φ1～15mm)10%、 |
| 第14層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/3黒褐色土10%、5YR5/8明赤褐色焼土粒(φ～1mm)1%、炭化物(φ1～5mm)3%、軽石(φ1～10mm)15%、 |
| 第15層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 炭化物(φ1～2mm)2%、軽石(φ1～10mm)20%、 |
| 第16層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR5/6黄褐色ローム5%、炭化物(φ1～3mm)1%、軽石(φ1～10mm)10%、 |

## 第８号竪穴住居跡(SI-8)

図11　竪穴住居跡（６）

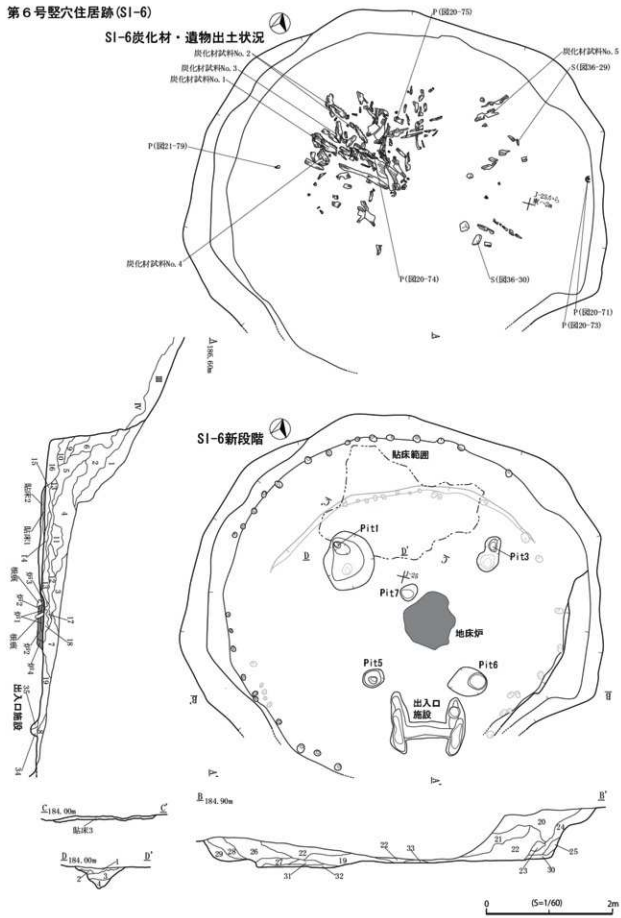
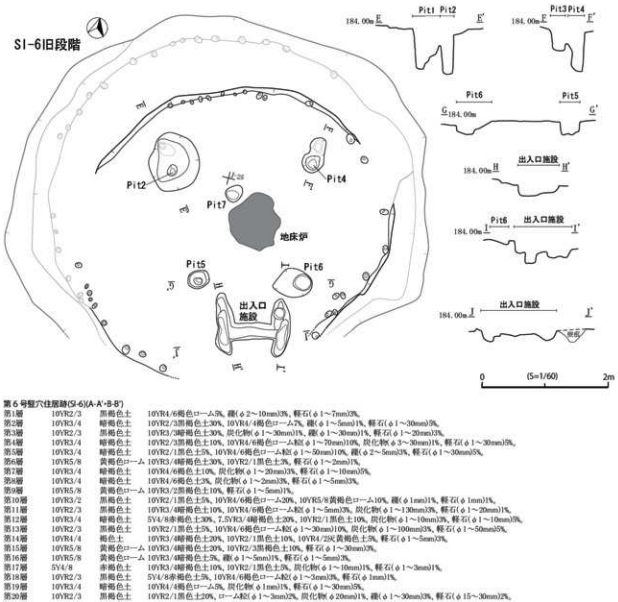

第６号竪穴住居跡(SI-6)
SI-6炭化材・遺物出土状況
炭化材試料No. 2
炭化材試料No. 3
炭化材試料No. 1
炭化材試料No. 4
炭化材試料No. 5
P(図20-75)
S(図36-29)
P(図21-79)
P(図20-74)
S(図36-30)
P(図20-71)
P(図20-73)
SI-6新段階
貼床範囲
Pit1
Pit3
Pit7
地床炉
Pit5
Pit6
出入口施設
出入口施設
貼床2
貼床1
貼床3
0
(S=1/60)
2m

図12　竪穴住居跡（７）




**第６号竪穴住居跡(SI-6)(A-A'-B-B')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色ローム5%、礫(φ2～10mm)3%、軽石(φ1～7mm)3%。 |
| 第2層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/3黒褐色土30%、10YR4/4褐色ローム7%、礫(φ1～5mm)1%、軽石(φ1～30mm)5%。 |
| 第3層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/3暗褐色土30%、炭化粒(φ1～30mm)1%、礫(φ1～30mm)1%、軽石(φ1～20mm)3%。 |
| 第4層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/3黒褐色土10%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1～70mm)10%、炭化粒(φ3～30mm)1%、軽石(φ1～30mm)5%。 |
| 第5層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1～50mm)10%、礫(φ2～5mm)3%、軽石(φ1～30mm)5%。 |
| 第6層 | 10YR5/8 | 黄褐色ローム | 10YR3/4暗褐色土30%、10YR2/1黒色土3%、軽石(φ1～2mm)1%。 |
| 第7層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/6褐色土10%、炭化粒(φ1～20mm)3%、軽石(φ1～10mm)5%。 |
| 第8層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/6褐色土3%、炭化粒(φ1～2mm)3%、軽石(φ1～5mm)3%。 |
| 第9層 | 10YR5/8 | 黄褐色ローム | 10YR3/2黒褐色土10%、軽石(φ1～5mm)1%。 |
| 第10層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色ローム20%、10YR5/8黄褐色ローム10%、礫(φ1mm)1%、軽石(φ1mm)1%。 |
| 第11層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土10%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1～5mm)3%、炭化粒(φ1～10mm)3%、軽石(φ1～20mm)1%。 |
| 第12層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 5YR4/8赤褐色土30%、7.5YR3/4暗褐色土20%、10YR2/1黒色土10%、炭化粒(φ1～10mm)3%、軽石(φ1～10mm)3%。 |
| 第13層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1～30mm)10%、炭化粒(φ1～100mm)3%、軽石(φ1～50mm)5%。 |
| 第14層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR3/4暗褐色土20%、10YR2/1黒色土10%、10YR4/3灰黄褐色土3%、軽石(φ1～5mm)3%。 |
| 第15層 | 10YR5/8 | 黄褐色ローム | 10YR3/4暗褐色土20%、10YR2/3黒褐色土10%、軽石(φ1～30mm)3%。 |
| 第16層 | 10YR5/8 | 黄褐色ローム | 10YR3/4暗褐色土5%、礫(φ1～5mm)1%、軽石(φ1～5mm)3%。 |
| 第17層 | 5YR/8 | 赤褐色土 | 10YR3/4暗褐色土10%、10YR2/1黒色土3%、炭化粒(φ1～10mm)1%、軽石(φ1～3mm)1%。 |
| 第18層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 5YR4/8赤褐色土3%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1～3mm)3%、軽石(φ1mm)1%。 |
| 第19層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/4褐色ローム5%、炭化粒(φ1mm)1%、軽石(φ1～30mm)5%。 |
| 第20層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土20%、ローム粒(φ1～3mm)2%、炭化粒(φ20mm)1%、礫(φ1～30mm)3%、軽石(φ15～30mm)2%。 |
| 第21層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1～3mm)1%、炭化粒(φ2～20mm)2%、礫(φ2～50mm)2%、軽石(φ2～10mm)3%。 |
| 第22層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1～10mm)2%、礫(φ2～20mm)1%、軽石(φ1～10mm)3%。 |
| 第23層 | 10YR2/3 | 黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土 | 炭化粒(φ20mm)2%、礫(φ35mm)、軽石(φ1～40mm)8%。 |
| 第24層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1～2mm)2%、炭化粒(φ1～2mm)1%、軽石(φ1～25mm)3%。 |
| 第25層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/2黒褐色土30%、ローム粒(φ1～10mm)2%。 |
| 第26層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1～2mm)2%、礫(φ1～10mm)2%、軽石(φ1～15mm)2%。 |
| 第27層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/3暗褐色土30%、ロームブロック(φ～60mm)1%、ローム粒(φ1～2mm)1%、軽石(φ10～20mm)2%。 |
| 第28層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒(φ1～2mm)2%、礫(φ2～8mm)3%。 |
| 第29層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/3暗褐色土10%、ロームブロック(φ20～30mm)8%、ローム粒(φ1～3mm)3%、礫(φ1～5mm)1%。 |
| 第30層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/3暗褐色土10%、ロームブロック(φ50mm)10%。 |
| 第31層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/3黒褐色土10%、ロームブロック(φ20～50mm)40%、軽石(φ20mm)1%。 |
| 第32層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 10YR3/4暗褐色土20%、軽石(φ1～30mm)1%。 |
| 第33層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR4/6褐色土10%、軽石(φ1～2mm)3%。 |
| 第34層 | 10YR4/4 | 褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土 | 軽石(φ1～2mm)2%。 |
| 第35層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 軽石(φ1～2mm)1%。 |

**第６号竪穴住居跡(SI-6)炉(A-A')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 炉1層 | 5YR5/8 | 明赤褐色粘土 | 5YR4/4にぶい赤褐色粘土5%、炭化粒(φ1～5mm)2%、軽石(φ1mm)1%未満。 |
| 炉2層 | 5YR4/8 | 赤褐色粘土 | 7.5YR4/6褐色土30%、炭化粒(φ20mm)3%、軽石(φ1mm)1%。 |
| 炉3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 炭化粒(φ1mm)1%、軽石(φ1～2mm)2%。 |
| 炉4層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 5YR4/4にぶい赤褐色粘土5%、炭化粒(φ1～5mm)2%、軽石(φ1mm)1%。 |

**第６号竪穴住居跡(SI-6)貼床(A-A'・C-C')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 貼床1 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 7.5YR5/4にぶい褐色土10%、軽石(φ1mm)3%。 |
| 貼床2 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色土10%、軽石(φ1mm)3%。 |
| 貼床3 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR2/3黒褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム10%、10YR4/6褐色ローム10%、軽石(φ1～10mm)1%。 |

**第６号竪穴住居跡(SI-6)Pit1(D-D')**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR1.7/1黒色土7%、10YR3/4暗褐色土3%、10YR5/8黄褐色ローム10%、炭化粒(φ1～50mm)1%、軽石(φ40mm)1%。 |
| 第2層 | 10YR4/6 | 褐色ローム | 10YR3/4暗褐色土3%、礫(φ1～3mm)1%。 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/6褐色ローム20%、10YR2/3黒褐色土10%、10YR1.7/1黒色土10%、炭化粒(φ1～30mm)3%。 |
| 第4層 | 10YR4/6 | 褐色ローム | 10YR1.7/1黒色土5%、10YR3/4暗褐色土10%、軽石(φ1～10mm)1%。 |

図13　竪穴住居跡（８）

## 第１号掘立柱建物跡(SB-1)/第３号土坑(SK-3)/第２号焼土遺構(SN-2)

### 配石遺構

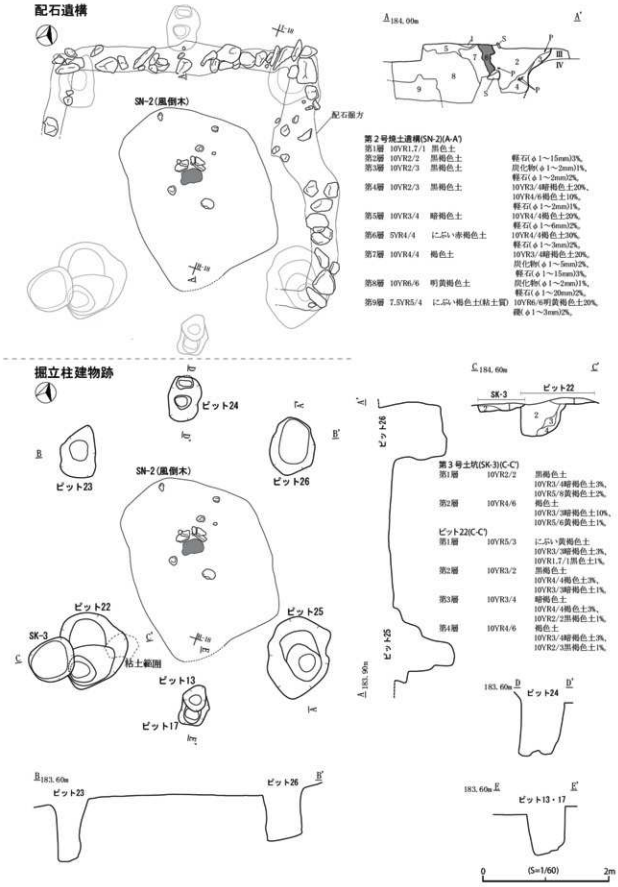
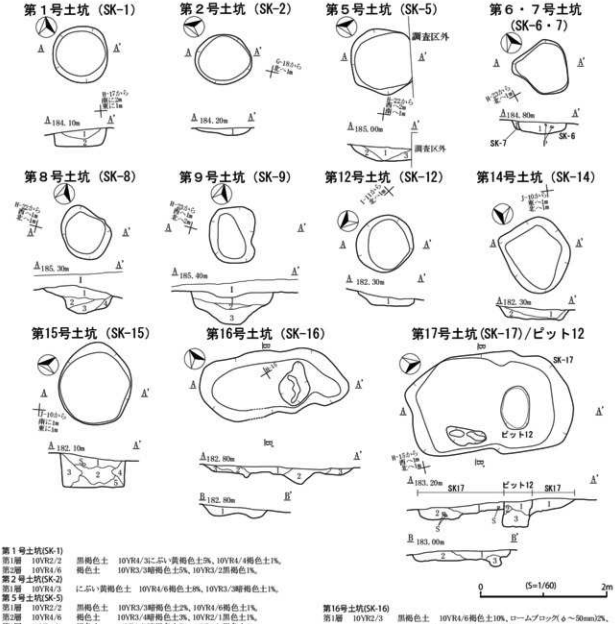



図14　掘立柱建物跡




**第１号土坑(SK-1)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR4/3にぶい黄褐色土5%、10YR4/4褐色土1%、 |
| 第2層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR3/3暗褐色土5%、10YR3/2黒褐色1%、 |

**第２号土坑(SK-2)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/6褐色土8%、10YR3/3暗褐色土1%、 |

**第５号土坑(SK-5)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/3暗褐色土2%、10YR4/6褐色土1%、 |
| 第2層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR3/4暗褐色土3%、10YR2/1黒色土1%、 |
| 第3層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR3/3暗褐色土5%、10YR2/1黒色土1%、 |

**第６号土坑(SK-6)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR6/8明黄褐色土3%、10YR6/4にぶい黄褐色1%、炭化物1%、 |

**第７号土坑(SK-7)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色土10%、10YR5/6黄褐色土1%、10YR2/1黒色土1%、 |

**第８号土坑(SK-8)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色土1%、炭化物1%、 |
| 第2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/6褐色土3%、10YR5/6黄褐色土1%、 |
| 第3層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR4/4褐色土3%、炭化物1%、 |
| 第4層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR3/4暗褐色土8%、10YR3/2黒褐色土1%、 |

**第９号土坑(SK-9)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 10YR3/2黒褐色土20%、10YR6/8黄橙色粒(1～2mm)2%、 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR2/1黒色土5%、10YR8/8黄橙色粒(1～2mm)1%、 |
| 第3層 | 10YR5/8 | 黄橙色土 | 10YR3/1黒褐色土3%、10YR8/8黄橙色粒(2～5mm)1%、 |

**第12号土坑(SK-12)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、ロームブロック(φ20～30mm)3%、炭化物(φ1～3mm)2%、軽石(φ1～5mm)10%、 |

**第14号土坑(SK-14)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 軽石(φ～20mm)10%、 |
| 第2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/6褐色土10%、ロームブロック(φ～30mm)1%、軽石(φ～10mm)1%、 |

**第15号土坑(SK-15)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/3黒褐色土2%、10YR4/6褐色ローム10%、炭化物(φ1～10mm)1%、礫(φ30mm)少量、軽石(φ1～20mm)3%、 |
| 第2層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色ローム5%、炭化物(φ1～3mm)1%、軽石(φ1～20mm)2%、 |
| 第3層 | 10YR4/6 | 褐色ローム | 10YR2/3黒褐色土10%、10YR3/4暗褐色土10%、礫(φ1～10mm)1%、軽石(φ1～30mm)1%、 |
| 第4層 | 10YR4/6 | 褐色ローム | 10YR3/4暗褐色土20%、10YR2/3黒褐色土5%、炭化物(φ1～5mm)1%、 |
| 第5層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/6褐色ローム20%、炭化物(φ1～5mm)1%、軽石(φ1～5mm)3%、 |

**第16号土坑(SK-16)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR4/6褐色土10%、ロームブロック(φ～50mm)2%、ローム粒(φ～10mm)1%、 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、ローム粒(φ～20mm)1%、 |
| 第3層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ロームブロック(φ～50mm)2%、軽石(φ～20mm)1%、 |

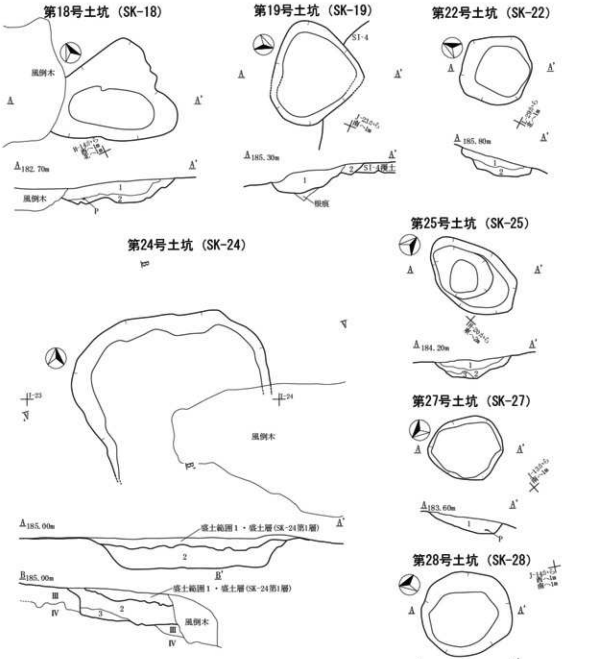
**第17号土坑(SK-17)**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土20%、10YR4/6褐色ローム10%、10YR2/1黒色土5%、炭化物(φ1mm)1%、軽石(φ2～15mm)5%、 |
| 第2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR2/2黒褐色土20%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1～50mm)5%、炭化物(φ1mm)1%和講、軽石(φ1～10mm)3%、 |
| 第3層 | 10YR4/6 | 褐色ローム | 10YR3/4暗褐色土20%、10YR2/1黒色土1%、軽石(φ1～30mm)3%、 |

**ピット12**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR3/4暗褐色土10%、軽石(φ1～30mm)3%、 |
| 第2層 | 10YR4/6 | 褐色ローム | 10YR2/3黒褐色土20%、軽石(φ1～10mm)1%、 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR4/6褐色ローム20%、10YR2/3黒褐色土10%、軽石(φ1～40mm)3%、 |

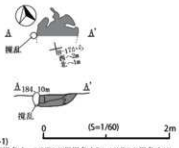
図15　土坑（１）




**第18号土坑(SK-18)**
第1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土10%、10YR2/1黒色土10%、軽石(φ1～50mm)5%
第2層　10YR3/4　暗褐色土　10YR4/6褐色ローム30%、10YR2/3黒褐色土10%、軽石(φ1～100mm)7%、
**第19号土坑(SK-19)**
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック(φ10～100mm)10%、軽石(φ1～10mm)2%、
第2層　10YR3/3　暗褐色土　10YR3/4暗褐色土20%、ロームブロック(φ50mm)3%、軽石(φ1～5mm)2%、
**第22号土坑(SK-22)**
第1層　10YR3/3　暗褐色土　10YR2/3黒褐色土3%、ローム粒(φ10～20mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%、軽石(φ1～10mm)5%、
第2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR3/3暗褐色土10%、ロームブロック(φ20～30mm)8%、炭化物(φ～1mm)1%、軽石(φ1～10mm)3%、
**第24号土坑(SK-24)**
第1層～盛土範囲1・盛土層
第2層　10YR1.7/1　黒色土　10YR2/3黒褐色土5%、炭化物(φ1～10mm)2%、軽石(φ1～5mm)2%、
第3層　10YR2/2　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土15%、10YR1.7/1黒色土10%、炭化物(φ～1mm)2%、軽石(φ1～5mm)2%、
**盛土層範囲1**
盛土層　10YR2/3　黒褐色土　ロームブロック(φ10～120mm)30%、炭化物(φ1～10mm)2%、軽石(φ1～20mm)10%、
**第25号土坑(SK-25)**
第1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土7%、10YR4/6褐色ローム3%、炭化物(φ1～10mm)3%、軽石(φ1～20mm)3%、
第2層　10YR3/4　暗褐色土　10YR4/6褐色ローム30%、10YR2/3黒褐色土10%、軽石(φ1～30mm)3%、
第3層　10YR5/8　黄褐色土　10YR2/3黒褐色土10%、礫(φ20mm)1%、軽石(φ1～10mm)3%、
**第27号土坑(SK-27)**
第1層　10YR2/1　黒色土　10YR3/2暗褐色土10%、ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ～1mm)1%、軽石(φ1～10mm)3%、
**第28号土坑(SK-28)**
第1層　10YR3/3　暗褐色土　10YR4/3にぶい黄褐色土3%、軽石(φ1～10mm)10%、
第3層　10YR3/4　暗褐色土　10YR2/3黒褐色土3%、ロームブロック(φ1～30mm)3%、軽石(φ1～50mm)10%、
第5層　10YR4/6　褐色土　ロームブロック(φ1～30mm)3%、軽石(φ1～100mm)10%、

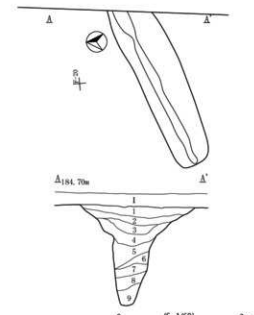
図16　土坑（2）

## 第１号焼土遺構（SN-1）




第１号焼土遺構(SN-1)
第1層　10YR3/4　暗褐色土　10YR2/3黒褐色土5%、10YR2/1黒色土1%、
第2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR3/2黒褐色土3%、10YR4/4褐色土1%、

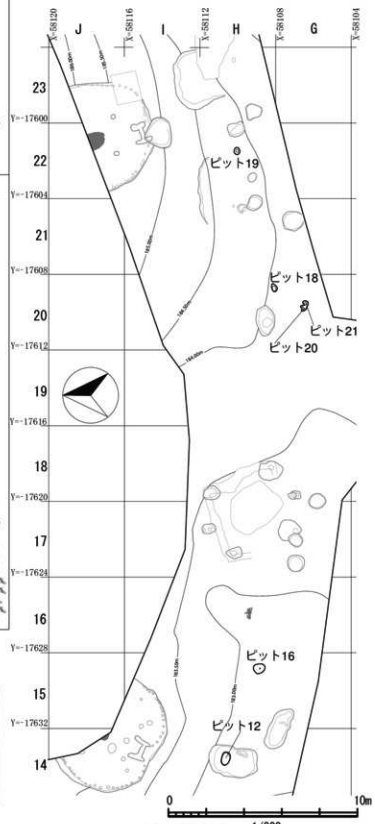
## 第１号溝状土坑（SV-1）




第１号溝状土坑(SV-1)
第1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土3%、10YR2/1黒色土1%、
第2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土3%、10YR4/6褐色土1%、
第3層　10YR2/3　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土3%、10YR4/6褐色土1%、
第4層　10YR3/4　暗褐色土　10YR4/6褐色土5%、10YR2/2黒褐色土3%、
第5層　10YR3/4　暗褐色土　10YR5/8黄褐色土3%、10YR2/3黒褐色土2%、
第6層　10YR5/6　黄褐色土　10YR3/3暗褐色土3%、10YR2/3黒褐色土3%、
第7層　10YR5/8　黄褐色土　10YR2/3黒褐色土10%、10YR4/4褐色土3%、
第8層　10YR5/8　黄褐色土　10YR3/4暗褐色土3%、10YR2/2黒褐色土1%、
第9層　10YR5/6　黄褐色土　10YR3/4暗褐色土3%、10YR4/6褐色土1%、

### ピット計測表

| 番号 | 最大径(cm) | 深さ(cm) | 最下点標高値(m) |
|---|---|---|---|
| 12 | 69.9 | 33.0 | 182.48 |
| 16 | 61.0 | 64.0 | 182.21 |
| 18 | 44.3 | 35.0 | 183.64 |
| 19 | 37.6 | 69.0 | 183.51 |
| 20 | 34.2 | 22.1 | 183.47 |
| 21 | 28.2 | 24.0 | 183.38 |




ピット位置図

図17　焼土遺構/溝状土坑/ピット

第１号竪穴住居跡（SI-1）

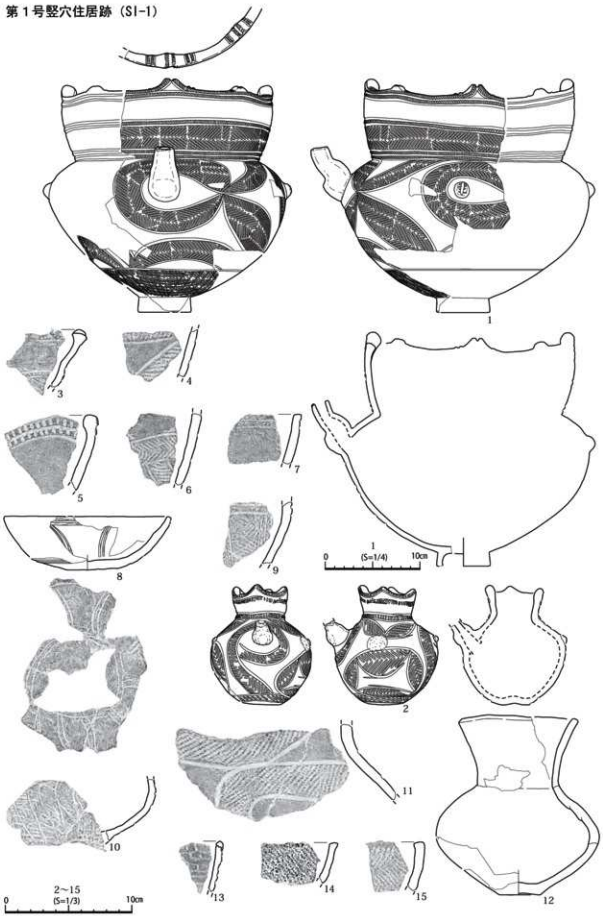



図18　土器・土製品（１）

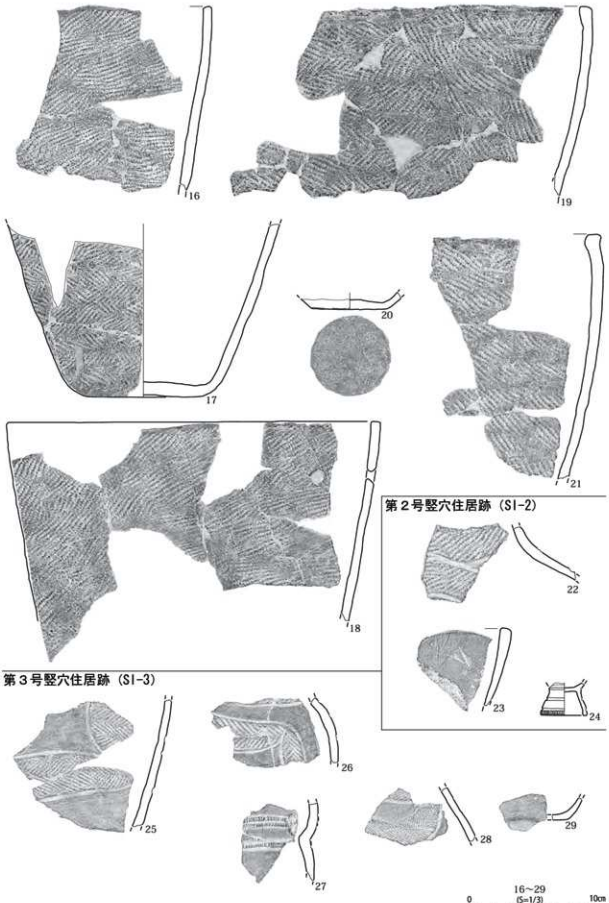

16
19
17
20
21
18
第２号竪穴住居跡（SI-2）
22
23
24
第３号竪穴住居跡（SI-3）
25
26
27
28
29
16~29
(S=1/3)
0
10cm

図19　土器・土製品（２）

第４号竪穴住居跡（SI-4）

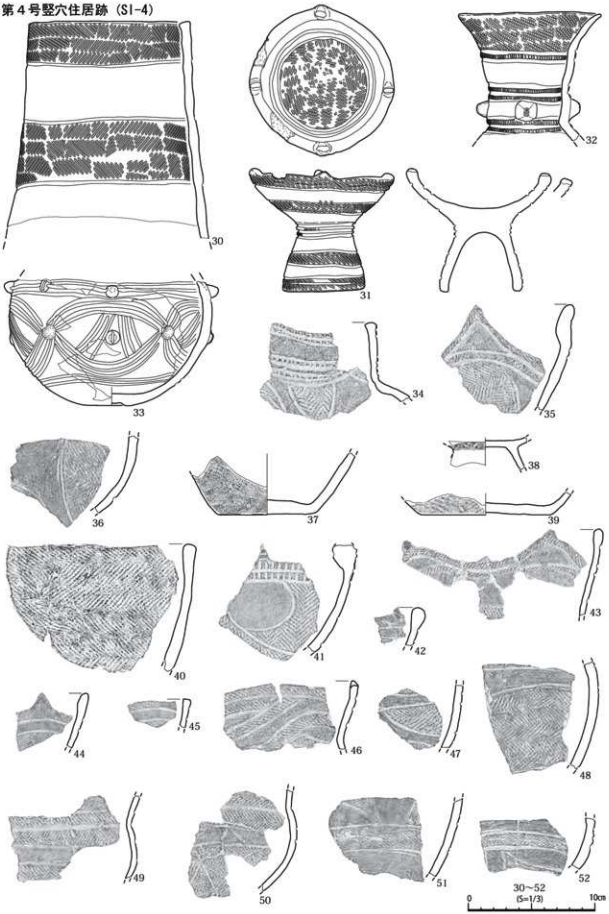



図20　土器・土製品（３）

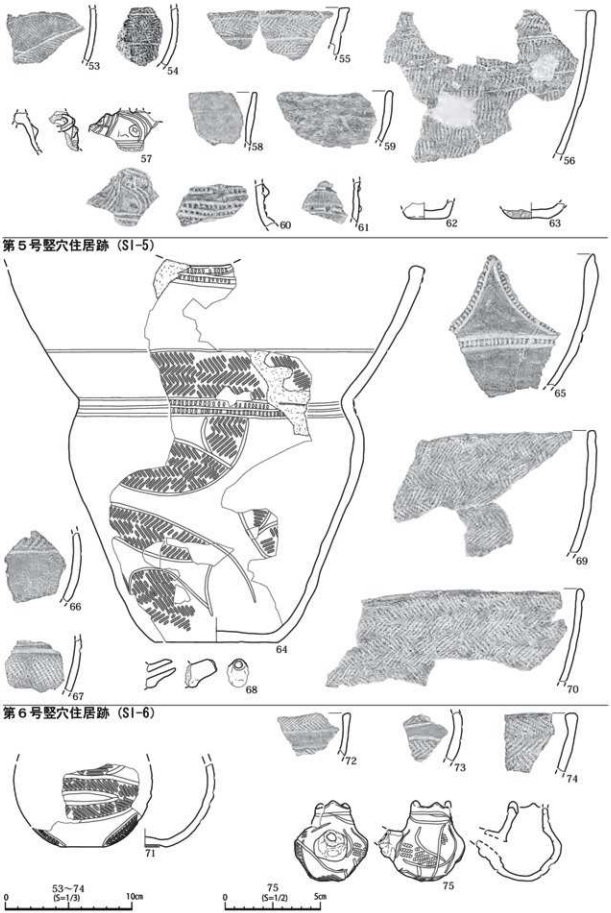

53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
第５号竪穴住居跡（SI-5）
64
65
66
67
68
69
70
第６号竪穴住居跡（SI-6）
71
72
73
74
75
0
53～74
(S=1/3)
10cm
0
75
(S=1/2)
5cm

図21　土器・土製品（４）

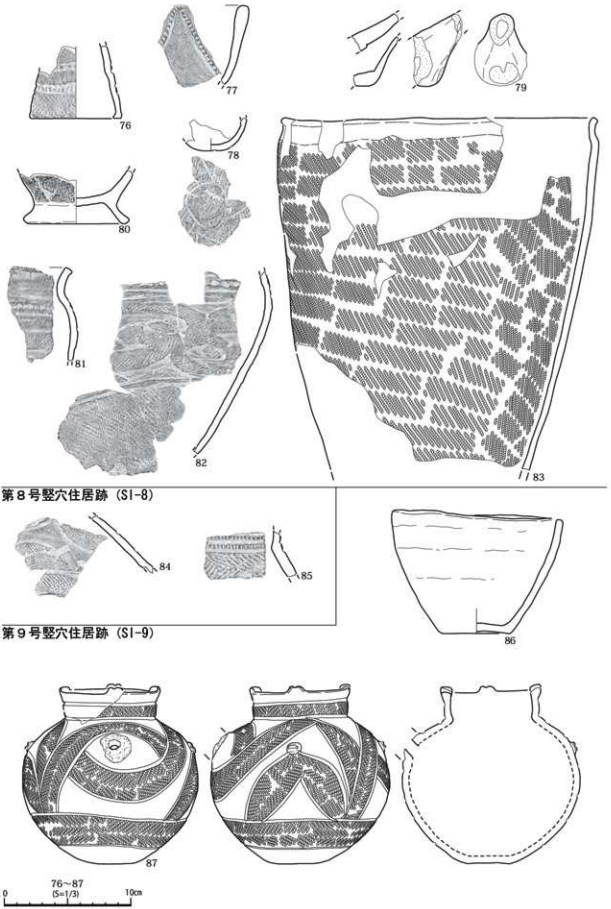

76
77
78
79
80
81
82
83
第８号竪穴住居跡（SI-8）
84
85
86
第９号竪穴住居跡（SI-9）
87
76～87
(S=1/3)
0
10cm

図22　土器・土製品（５）

**第７号竪穴住居跡（SI-7）**

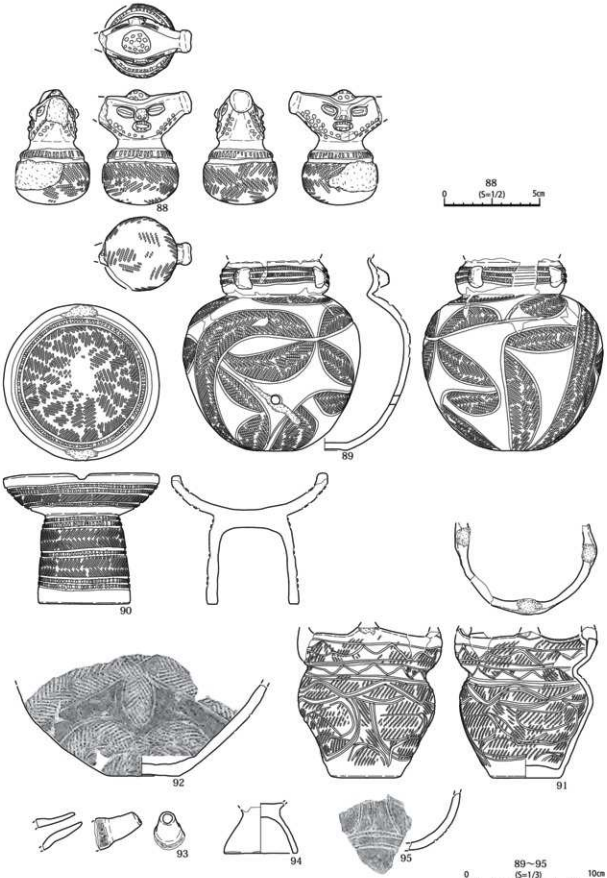



図23　土器・土製品（６）

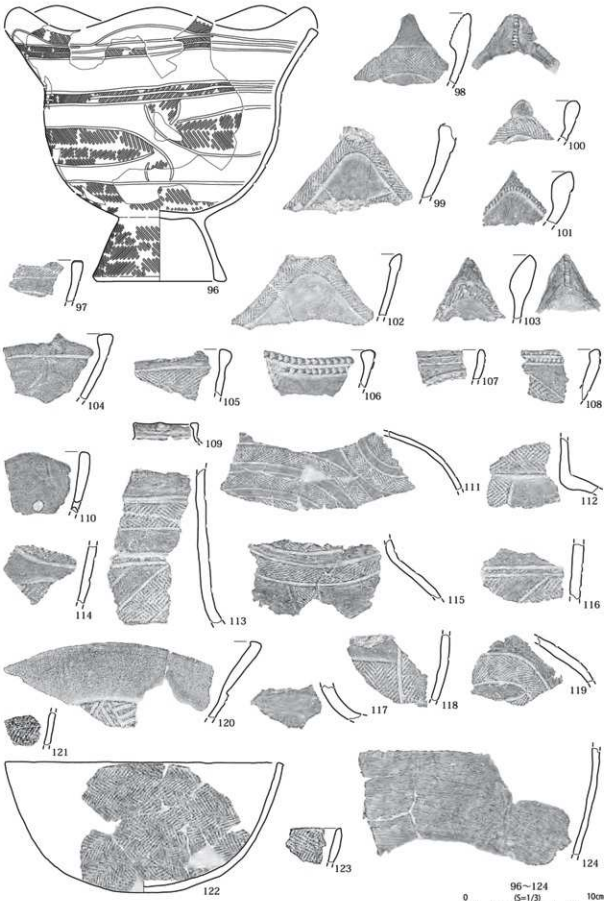

96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
96～124
(S=1/3)
0
10cm

図24　土器・土製品（7）

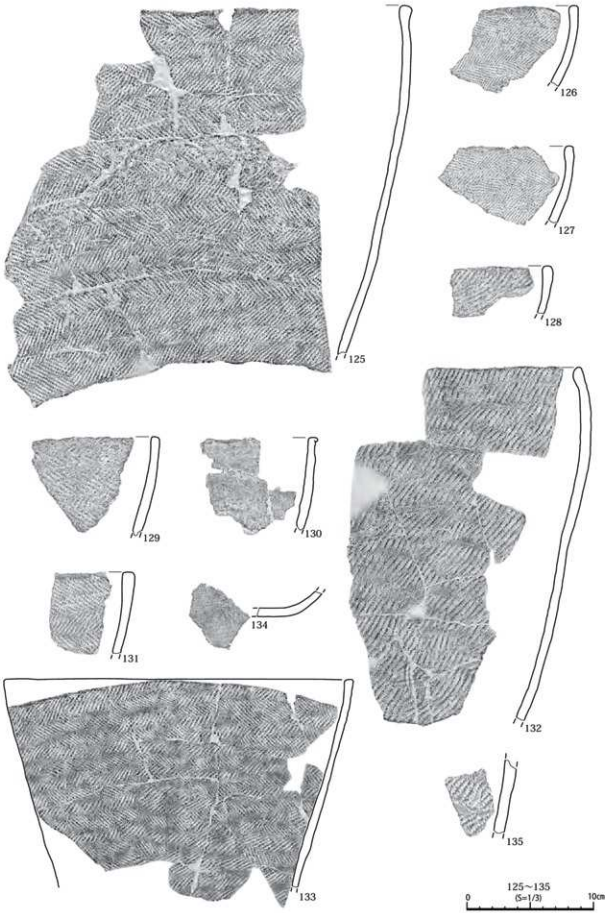



図25　土器・土製品（８）

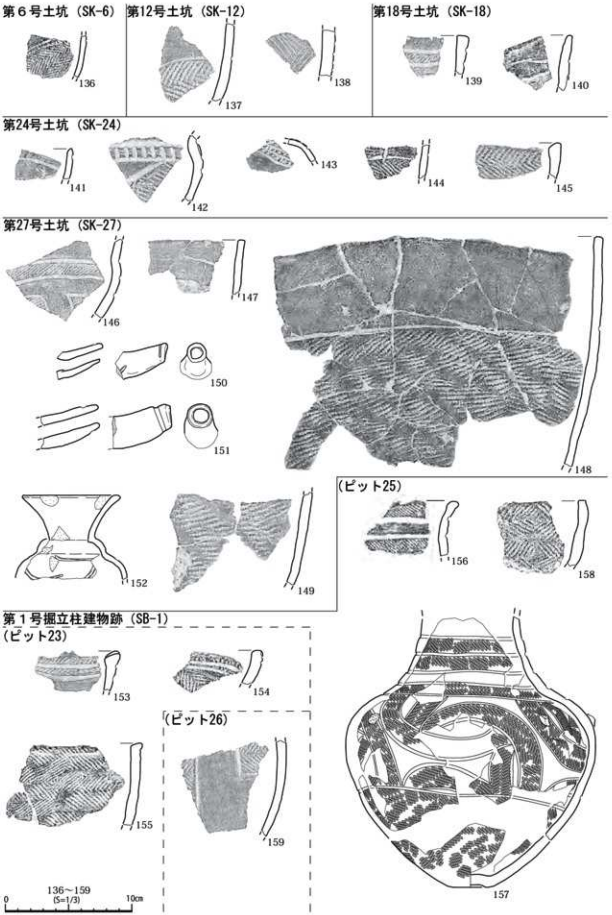

第６号土坑（SK-6）
第12号土坑（SK-12）
第18号土坑（SK-18）
第24号土坑（SK-24）
第27号土坑（SK-27）
(ピット25)
第１号掘立柱建物跡（SB-1）
(ピット23)
(ピット26)
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
136～159
(S=1/3)
0
10cm

図26　土器・土製品（９）

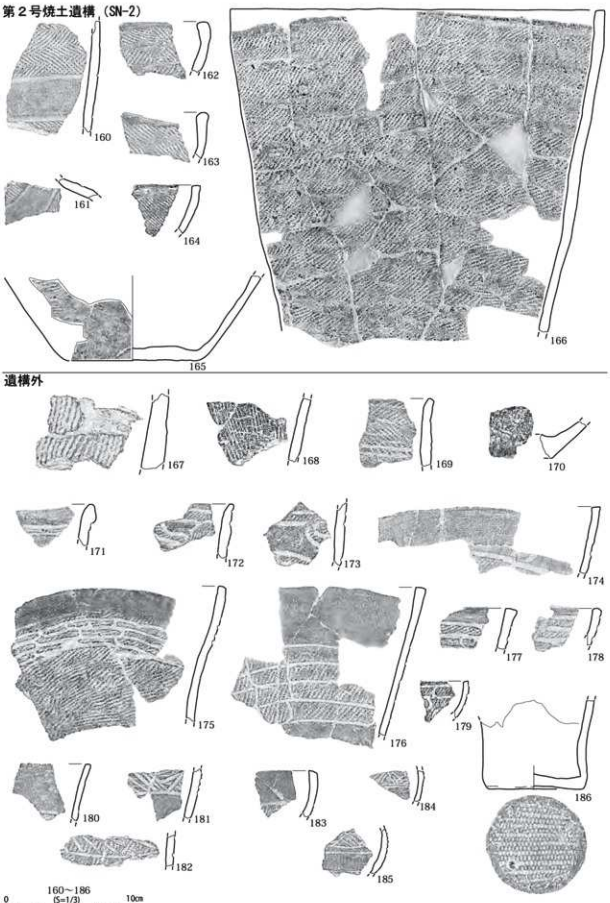

第２号焼土遺構（SN-2）
160
161
162
163
164
165
166
遺構外
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
160～186
(S=1/3)
0
10cm

図27　土器・土製品（10）

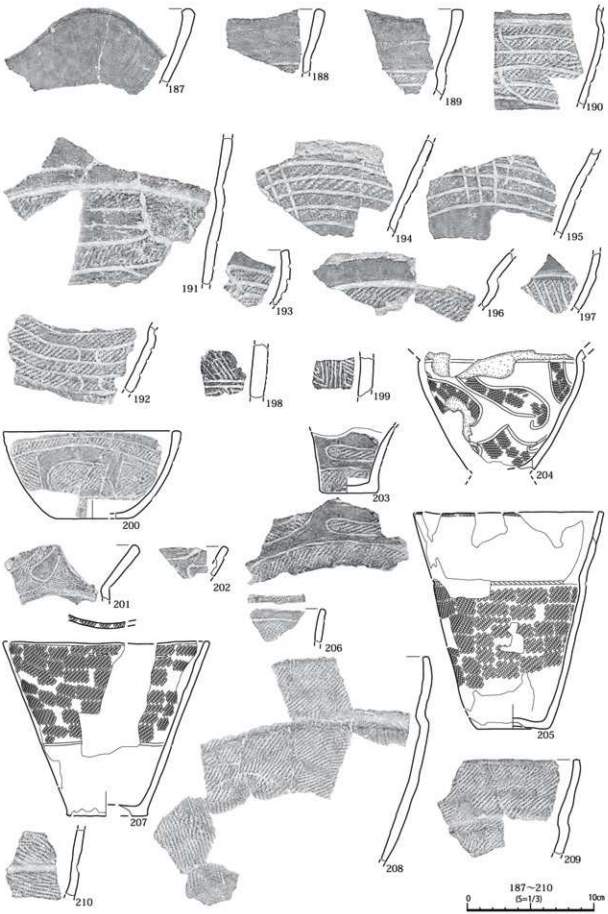

187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
187~210
(S=1/3)
0
10cm

図28　土器・土製品（11）

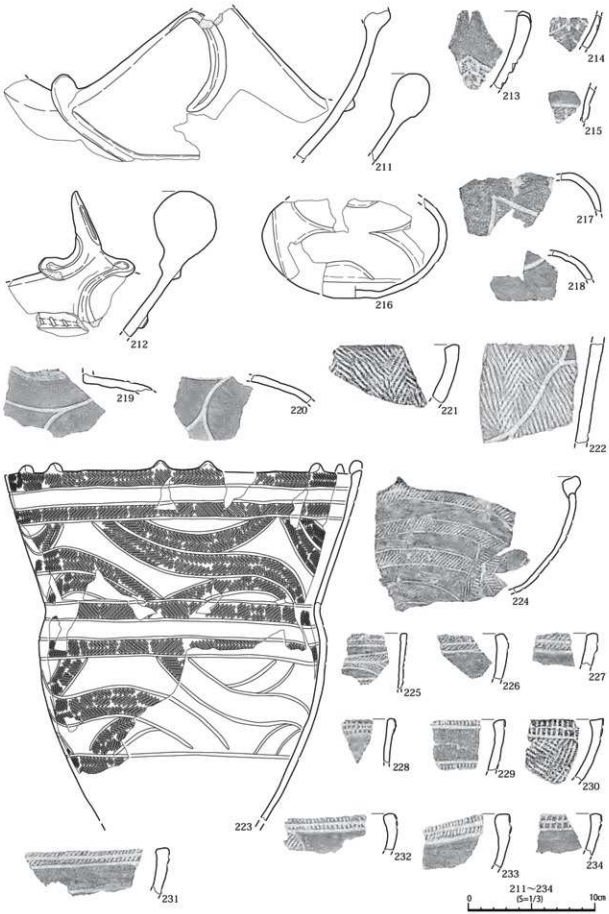

211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
211～234
(S=1/3)
0
10cm

図29　土器・土製品（12）

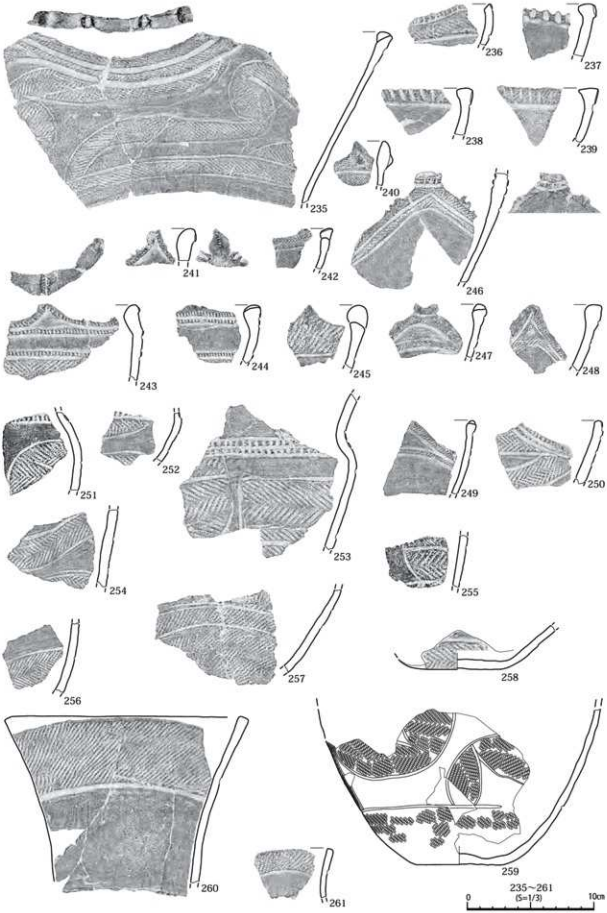

235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
235~261
(S=1/3)
0
10cm

図30　土器・土製品（13）

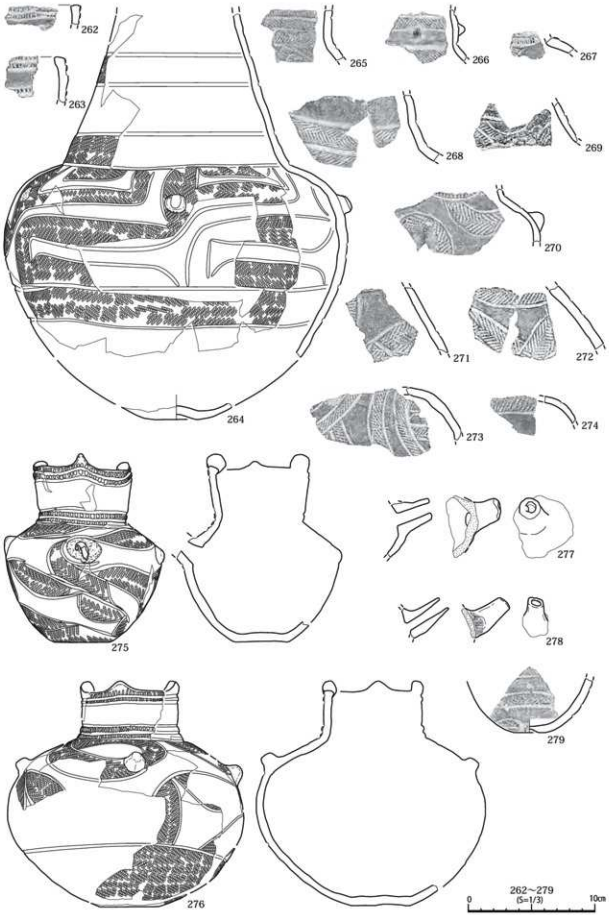

262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
262~279
(S=1/3)
0
10cm

図31　土器・土製品（14）

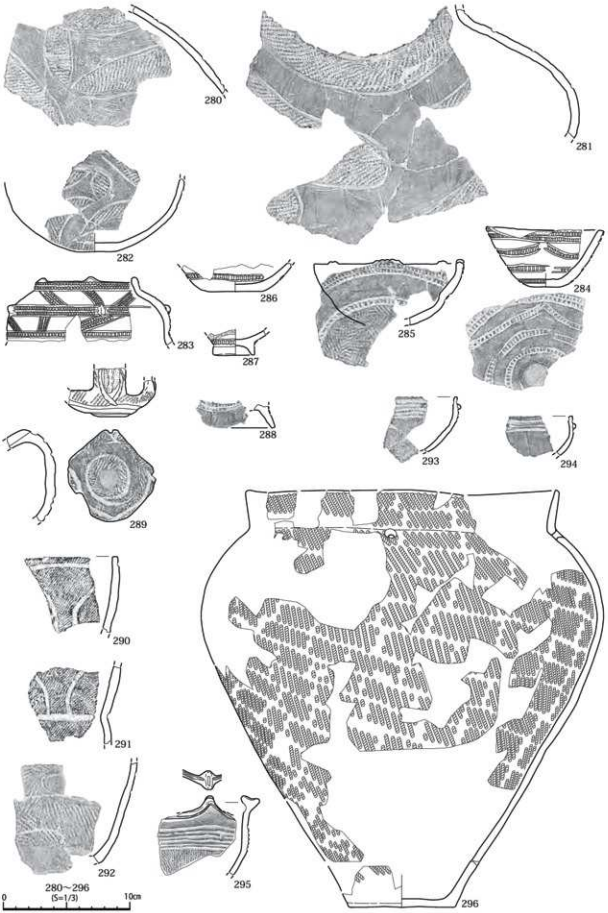

280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
280～296
(S=1/3)
0
10cm

図32　土器・土製品（15）

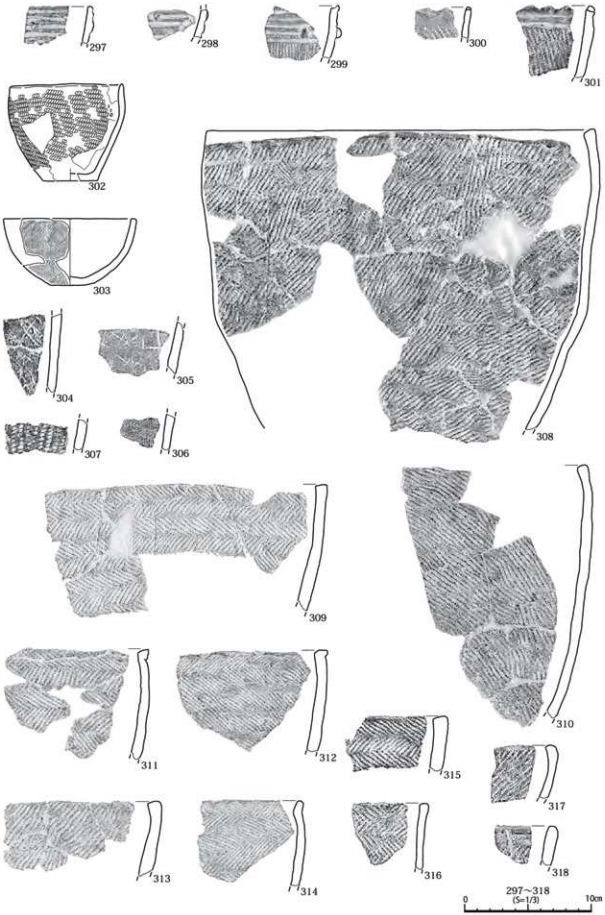

297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
297~318
(S=1/3)
0
10cm

図33　土器・土製品（16）

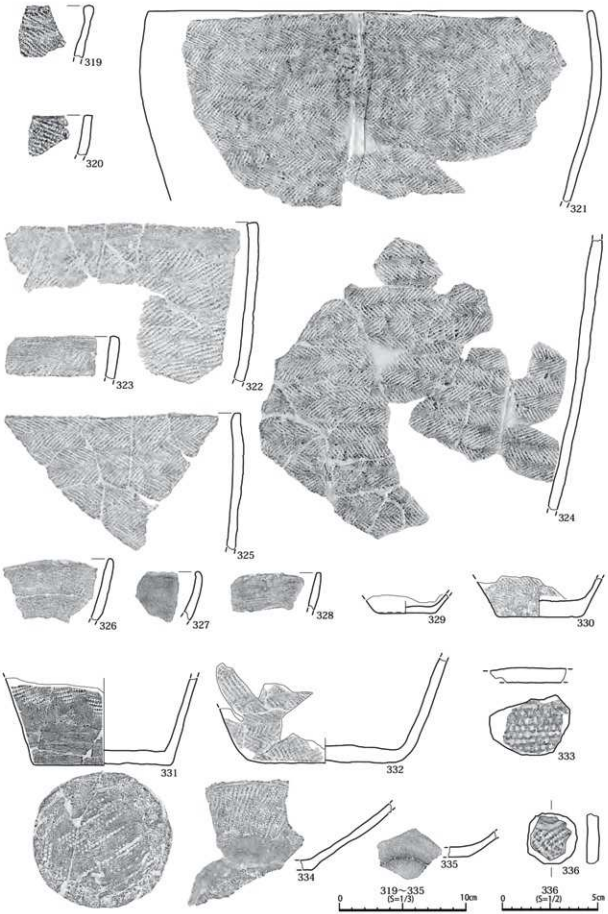

319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
319～335
(S=1/3)
0
10cm
336
(S=1/2)
0
5cm

図34　土器・土製品（17）

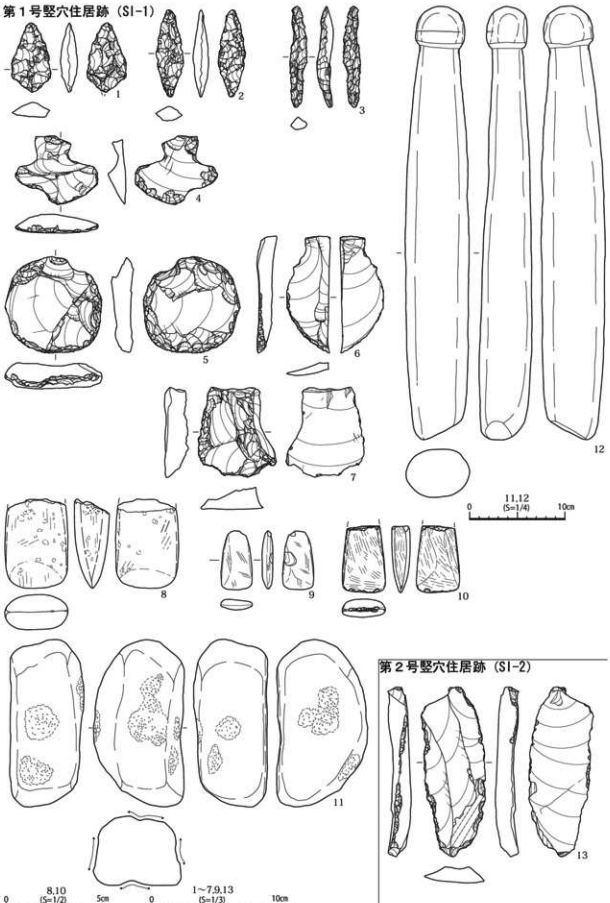

第１号竪穴住居跡（SI-1）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
11,12
(S=1/4)
0
10cm
8,10
(S=1/2)
0
5cm
1～7,9,13
(S=1/3)
0
10cm
第２号竪穴住居跡（SI-2）
13

図35　石器・石製品（１）

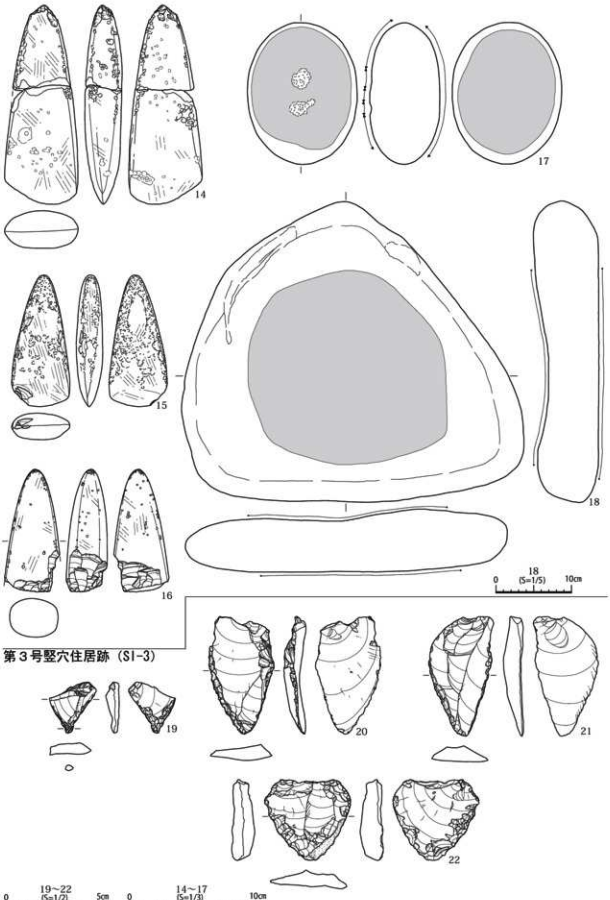

14
17
15
18
16
18
0
(S=1/5)
10cm
第３号竪穴住居跡（SI-3）
19
20
21
22
19~22
(S=1/2)
5cm
14~17
(S=1/3)
10cm

図36　石器・石製品（２）

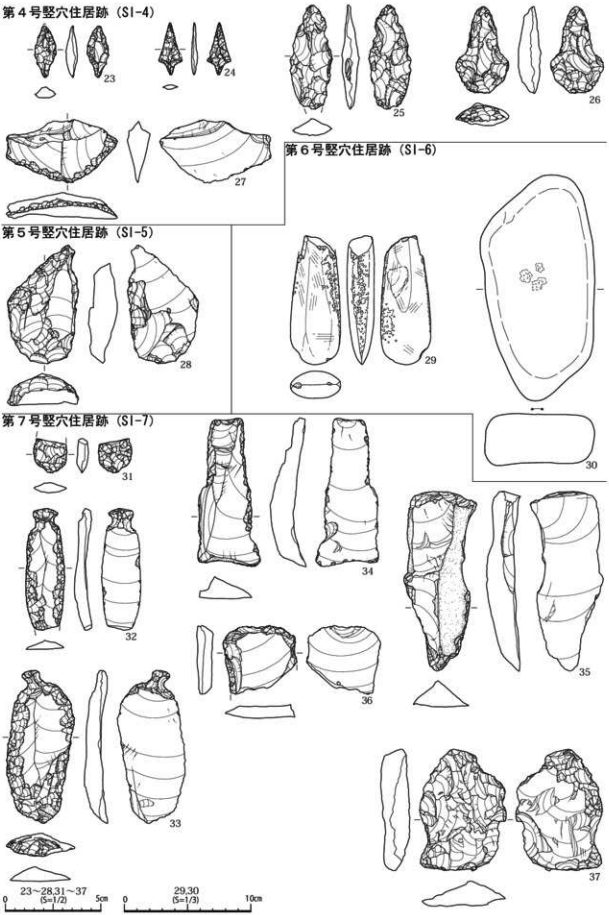

第４号竪穴住居跡（SI-4）
第５号竪穴住居跡（SI-5）
第６号竪穴住居跡（SI-6）
第７号竪穴住居跡（SI-7）
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
23～28,31～37
(S=1/2)
0
5cm
29,30
(S=1/3)
0
10cm

図37　石器・石製品（３）

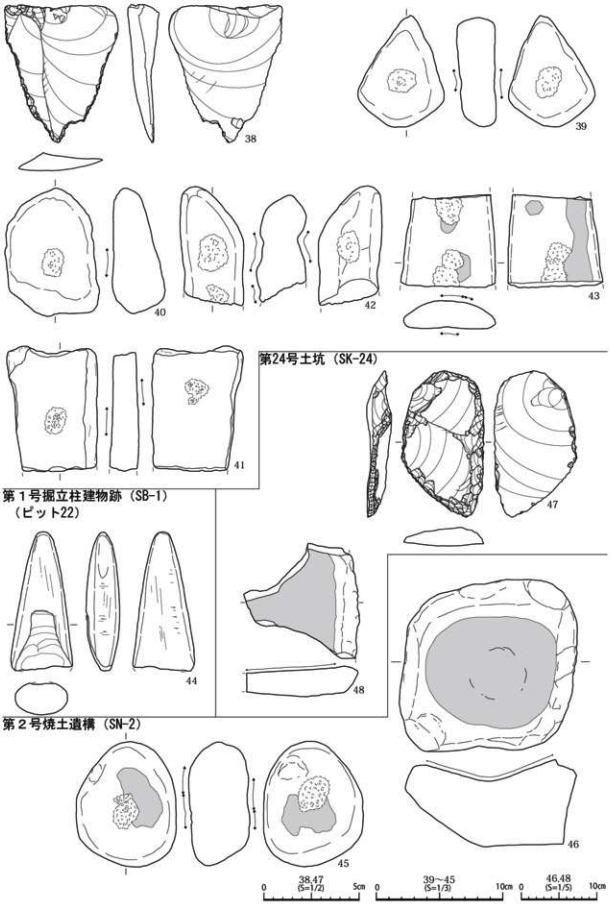

38
39
40
42
43
41
第24号土坑（SK-24）
47
第１号掘立柱建物跡（SB-1）
（ピット22）
44
48
第２号焼土遺構（SN-2）
46
45
38,47
(S=1/2)
5cm
39~45
(S=1/3)
10cm
46,48
(S=1/5)
10cm

図38　石器・石製品（４）

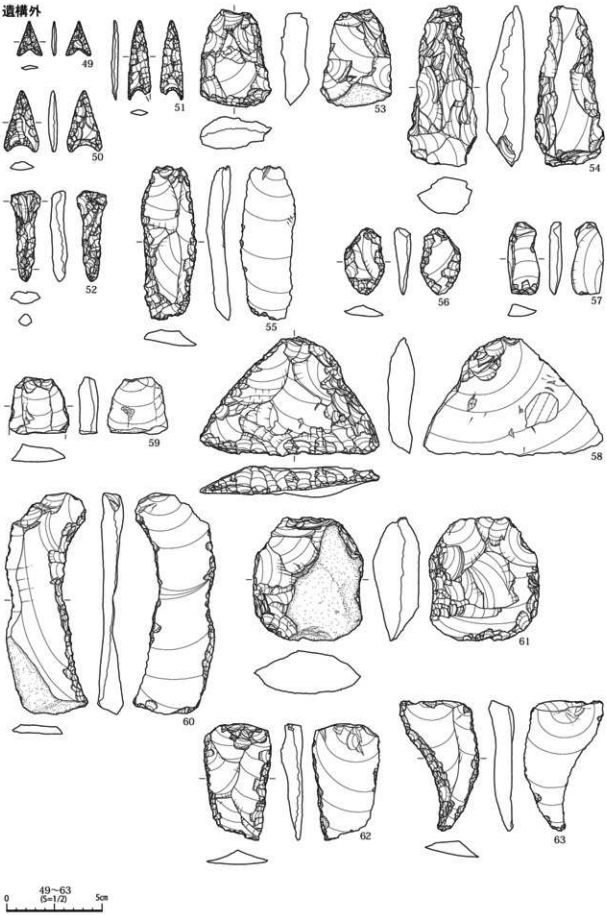



図39　石器・石製品（５）

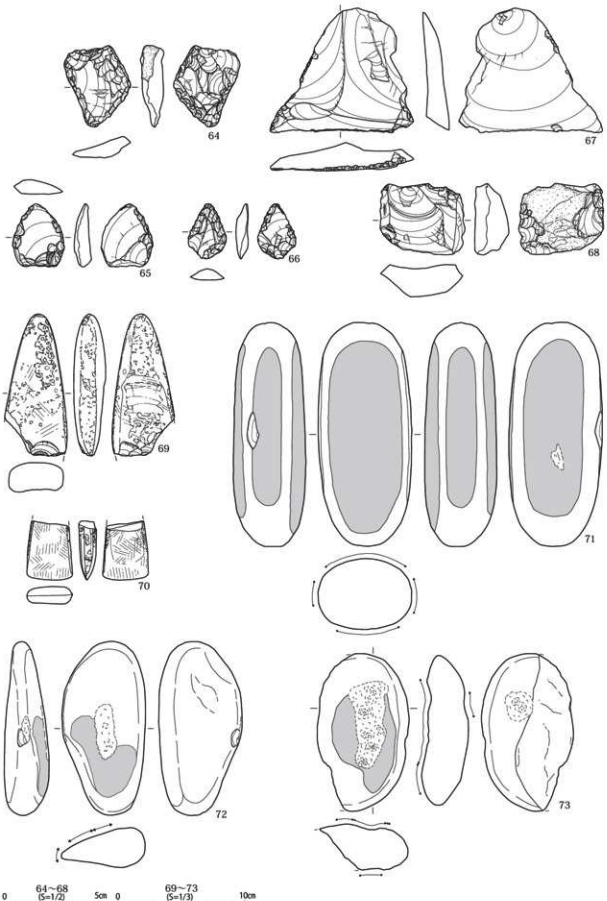



図40　石器・石製品（6）

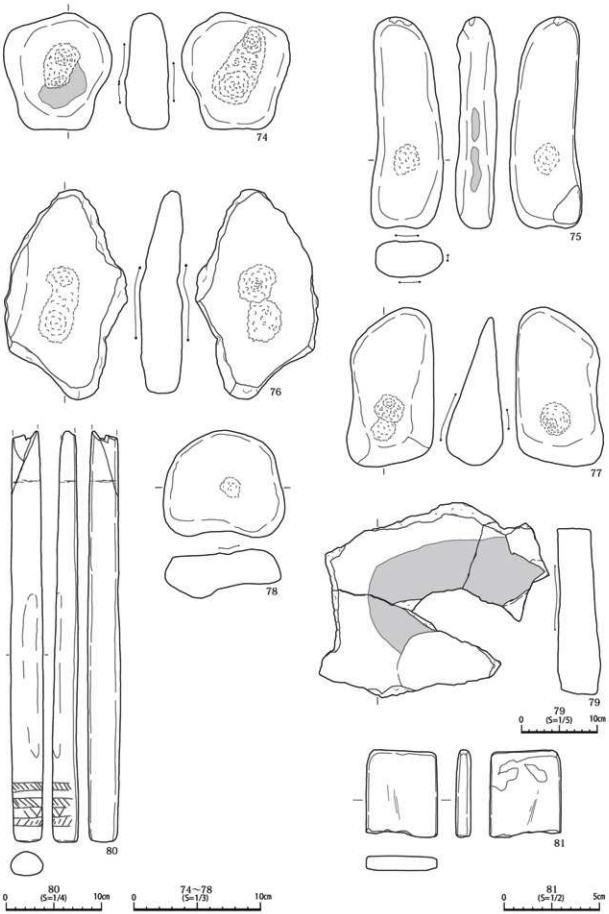



図41　石器・石製品（７）

# 第４章　自然科学分析

## 第１節　樹種同定

株式会社　パレオ・ラボ

### １　はじめに

駒木沢(2)遺跡は、阿蘇ヶ岳南斜面の丘陵端部に位置する遺跡である。ここでは、竪穴住居跡から出土した炭化材の樹種同定を行なった。

### ２　試料と方法

試料は、竪穴住居跡であるSI-6の13層中から出土した、垂木３点と梁桁２点の、計５点の炭化した建築材である。遺構の時期は、出土遺物から縄文時代後期中葉～後葉であると考えられている。いずれの試料も、同一個体と考えられる炭化材数破片で構成されており、実体顕微鏡下で同一個体かどうかの確認を行なった。また、確認ができる試料については、同定前に木取りと残存半径、残存年輪数の記録を行なった。残存半径は試料で残存している半径を直接計測し、残存年輪数は残存半径内の年輪数を計測した。

炭化材の樹種同定は、試料をまず乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（VE-9800）で検鏡および写真撮影を行なった。なお、同定試料の残りは青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

### ３　結果

同定の結果、広葉樹のエノキ属とニレ属、カエデ属の３分類群が産出した。カエデ属が３点みられ、エノキ属とニレ属は各１点の産出であった。なお、各試料で同一個体と考えられていた炭化材は、実体顕微鏡による観察の結果、いずれも同一樹種であり、同一個体であった可能性が高いと判断された。年輪の計測ができたのは試料No. ４のエノキ属のみで、残存半径0.9cm内に４年輪がみられた。同定結果一覧を表１に示す。

表1　駒木沢(2)遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧　※現場取り上げ時の所見である。

| 試料No. | 遺物No. | 遺構 | 層位 | 可能性のある部材名※ | 樹　種 | 木取り | 残存半径(cm) | 残　存年輪数 | 備　　考 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 炭化材サンプル1 | SI-6 | 13層 | 垂木 | カエデ属 | 板目? | － | － | 劣化激しい | 縄文時代後期中葉～後葉 |
| 2 | 炭化材サンプル2 | | | 垂木 | カエデ属 | 板目? | － | － | 劣化激しい | |
| 3 | 炭化材サンプル3 | | | 梁桁 | カエデ属 | 板目? | － | － | 劣化激しい | |
| 4 | 炭化材サンプル4 | | | 梁桁 | エノキ属 | 芯持丸木 | 0.9 | 4 | 劣化激しい | |
| 5 | 炭化材サンプル5 | | | 垂木 | ニレ属 | 板目? | － | － | 劣化激しい<br>虫食い多い | |

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1)エノキ属　Celtis　ニレ科　図版１　１a－１c (No. 4)

年輪のはじめに大型の道管が１～２列並び、晩材部では径を徐々に減じた道管が数個複合して斜め方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端１～３列が方形となる異性で、１～６列となる。放射組織は不完全な鞘細胞を有する。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬いが、現在ではまとまって生育することはなく、薪炭材などに利用される程度である。

(2)ニレ属　Ulmus　ニレ科　図版１　２a－２c (No. 5)

年輪のはじめに大型の道管が１～３列並び、晩材部では径を急に減じた道管が多数複合して斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、１～６列となる。

ニレ属にはハルニレやオヒョウなどがあり、温帯に分布する落葉高木の広葉樹である。ハルニレの材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

(3)カエデ属　Acer　カエデ科　図版１　３a－３c (No. 1)

中型の道管が単独ないし２～３個複合してやや密に散在する散孔材である。木部繊維の壁の厚さの違いで雲紋状の文様が木口面にみられる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅１～２列のものと幅５～８列程度のものがみられる。

カエデ属は10列以上の放射組織を持つチドリノキ以外は種までの同定が出来ない。したがって、本試料はチドリノキ以外のカエデ属と考えられる。カエデ属にはイタヤカエデやウリハダカエデなどがあり、代表的なイタヤカエデは各地に普通にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

## 4　考察

縄文時代後期中葉～後葉の竪穴住居跡であるSI-6では、カエデ属が3点、エノキ属とニレ属が各1点産出した。SI-6は焼失住居跡で、出土炭化材はいずれも焼けた建築材と考えられている。今回産出したエノキ属とニレ属、カエデ属はいずれも重硬な材質を持ち、建築材に適した樹種である (伊東ほか, 2011)。

出土状況より、試料No. １と２，５は垂木、試料No. ３と４は梁桁と考えられているが、垂木はいずれも炭化材の一部を除いて劣化により形状を留めておらず、板目状にしか残存していなかった。また梁桁では、試料No. ３のカエデ属は板目状にしか残存していなかったが、試料No. ４のエノキ属は直径２cm未満の芯持丸木状であった。しかしこのエノキ属も劣化が激しく、最終形成年輪は確認できなかった。このエノキ属の材の直径は、２cm以上であった可能性が高い。

大鰐町の上牡丹森遺跡では、縄文時代後期の住居跡でクリ４点と、リョウブとカエデ属、トネリコ属が各３点みられ、晩期の住居跡でカエデ属２点とトネリコ属１点がみられている（山田，1993)。今回の駒木沢(2)遺跡ではクリは検出されなかったが、両遺跡共にカエデ属がみられ、上牡丹森遺跡で産出したクリとリョウブ、トネリコ属も重硬な樹種であり（伊東ほか，2011)、重硬な材質の木材

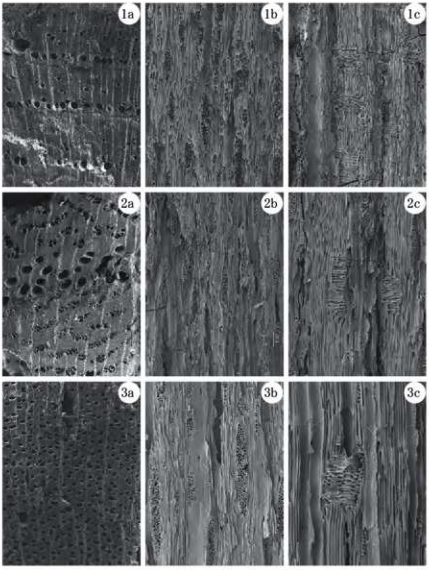
が利用されていた点で、類似する傾向がみられた。青森平野では、縄文時代前期から後期の集落において人為的な植生改変が行われ、クリ林が管理されていたと想定されているが（Noshiro and Suzuki, 2006）、今回の試料にはクリはなかった。駒木沢(2)遺跡周辺ではクリが多く生育していなかった可能性や、建築材としてクリを選択していなかった可能性などが考えられるが、詳細は不明であった。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，青海社.

Noshiro, S., Suzuki, M.(2006)Utilization of forest resources in the early Jomon period at and around the Sannai-maruyama site in Aomori Prefecture, northern Japan. 辻 誠一郎・能城修一編「植生史研究 特別第2号」:83-100,日本植生史学会.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 - 用材から見た人間・植物関係史. 242p，植生史研究 特別第１号.




図版1 駒木沢(2)遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. エノキ属(No. 4)、2a-2c. ニレ属(No. 5)、3a-3c. カエデ属(No. 1)
a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

# 第5章　まとめ

調査成果とそれにより得られた課題を示してまとめとする。

遺跡は大鰐町の東部を西に流れる駒木沢の右岸、標高180～190mの丘陵端部に位置する縄文時代後期の集落である。調査範囲は地形の変換点で、これより南側、駒木沢への落ち際までは傾斜が緩やかな平坦面が広がっている。集落は、この平坦面を選地し、営まれたものと考えられる。

遺物は縄文時代前期、晩期のものも出土しているが、その主体は後期にある。なかでも、土器については、これまで主に十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群とされていたものの内、関根達人氏によって「十腰内Ⅳ群段階」とこれに後続する「馬場瀬段階」と位置付けられたもの（関根2005）が主体となって出土した。構築される遺構の時期も、断定できるものはいずれも両段階のものである。

遺構は竪穴住居跡９棟、掘立柱建物跡１棟、土坑22基、焼土遺構２基、溝状土坑１基、ピット６基と盛土範囲を３カ所で確認した。

竪穴住居跡は「出入口施設」（永嶋2000）と壁柱穴を有するもので、炉は地床炉となるものを確認した。この出入口施設は、いずれも斜面の下側に構築されていた。これは、竪穴住居跡は斜面に構築されるため、斜面上側の壁は高く、斜面下側ではこれより低くなる。そのため、必然的に出入りの容易な斜面下側に出入り口を設けた結果と理解することができる。

遺構からの土器の出土状況については、第４号及び第７号竪穴住居跡の床面において、良好な状態を捉えられた。第４号竪穴住居跡の床面からは、壺もしくは注口の頭部を意図的に打ち割ったと考えられるものが、正位で直立した状態で出土した。このような状態での出土は、蓬田村滝沢遺跡（青森県教委2009）でも後期中葉の事例が知られている。時期の近い事例で、本遺跡との共通点も多い。一方で、設置される竪穴住居の構造や設置の状況・位置には違いもみられ、両事例の関連性とその性格についてはさらなる検討が必要であり、今後の課題としたい。第７号竪穴住居跡の床面からは、「馬場瀬段階」の単孔土器とこれに併行する「堂林式古段階」の深鉢が出土した。両者とも残存率が高く、意図的に床面に置かれたものと考えた。加えて、近接して人面が表現されたスタンプ形土製品が、同じく床面から出土した。表現される人面は、同時期の土偶と共通の手法で表現されており、関連がうかがえる。一方で、スタンプ形土製品への人面表現は類例に乏しく、県内では今のところ皆無である。これを県外に求めても、管見に触れた限りであるが、福島県いわき市寺脇貝塚から出土した「こけし形土偶」（茨城県立歴史館1994）とされているものが形態、大きさの面で近似している。しかし、時期は晩期とされており、本遺跡例とは時間的隔たりが大きい。そのため、さらなる検討には、類例検索の継続と共に、同時期において盛行（小林1999）するという、土器に人面が表現されたものとの比較が必要と考えられる。これも、あわせて今後の課題としたい。

# 引用・参考文献


阿部　明義　2003　「３．キウス４遺跡における縄文時代後期後半の土器」
『千歳市　キウス４遺跡(10)』　財団法人北海道埋蔵文化財センター

榎本　剛治　2008　「十腰内Ⅰ式土器」　『総覧　縄文土器』　株式会社アム・プロモーション

菅野　和郎　2008　「ミニチュア土器」　『総覧　縄文土器』　株式会社アム・プロモーション

小林圭一　1999　「東北地方　後期（瘤付土器）」　『縄文時代10』　縄文時代文化研究会

鈴木　克彦　2001　「（８）十腰内２式土器」　『北日本の縄文後期土器編年の研究』
雄山閣出版株式会社

鈴木　克彦　2004　「華燭土器」　『縄文時代15』　縄文時代文化研究会

鈴木　克彦　2006　「宝ヶ峯型注口土器とその広域分布」　『月刊　考古学ジャーナル11月号』
ニューサイエンス社

関根　達人　2005　「十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群土器」に関する今日的理解」
『葛西勵先生還暦記念論文集　北奥の考古学』葛西勵先生還暦記念論文集刊行会

永嶋　豊　1998　「第３章　まとめ　第１節　検出遺構」　『山下遺跡Ⅱ・米山(2)遺跡』
青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第274集

茨城県立歴史館　1994　『特別展東国の土偶』　茨城県立歴史館

青森県教育委員会　1980　『大平遺跡』　青森県埋蔵文化財調査報告書第52集

青森県教育委員会　1980　『砂沢平遺跡』　青森県埋蔵文化財調査報告書第53集

青森県教育委員会　2009　『滝沢遺跡・坂元(3)遺跡』　青森県埋蔵文化財調査報告書第467集

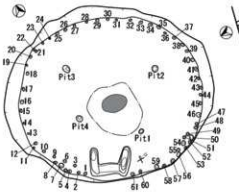
青森県教育委員会　2012　『砂子瀬遺跡Ⅲ』　青森県埋蔵文化財調査報告書第513集

大鰐町教育委員会　1986　『唐牛城(1)遺跡』　大鰐町文化財調査報告書第２集

大鰐町教育委員会　1997　『前田ノ沢(4)遺跡・前田ノ沢(5)遺跡・駒木沢遺跡』
大鰐町文化財調査報告書第３集

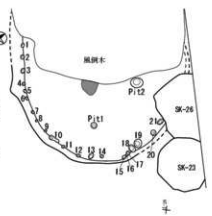
大鰐町教育委員会　2003　『砂沢平遺跡』　大鰐町文化財調査報告書第４集

## 第１号竪穴住居跡

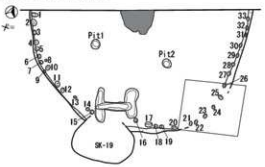



## 第２号竪穴住居跡

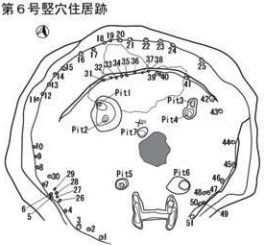
## 第３号竪穴住居跡



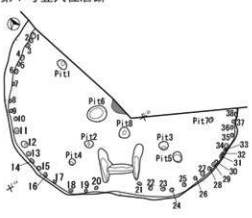

## 第４号竪穴住居跡




## 第６号竪穴住居跡




## 第７号竪穴住居跡




第１号竪穴住居跡計測表

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 深さ(cm) | 6.4 | 4.5 | 4.1 | 4.1 | 6.5 | 6.8 | 9.3 | 14.7 | 5.7 | 3.2 | 6.3 | 7.9 | 10.0 | 9.1 | 4.9 | 6.5 | 12.0 |
| 番号 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 |
| 深さ(cm) | 7.5 | 16.5 | 13.8 | 6.8 | 11.4 | 10.3 | 5.6 | 11.4 | 10.4 | 14.1 | 16.6 | 6.2 | 9.4 | 5.1 | 14.6 | 15.7 | 18.1 |
| 番号 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 |
| 深さ(cm) | 13.6 | 10.6 | 16.9 | 15.5 | 15.8 | 15.6 | 14.9 | 14.0 | 15.3 | 7.0 | 15.3 | 21.4 | 19.4 | 12.1 | 6.0 | 8.5 | 7.4 |
| 番号 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | P31 | P32 | P33 | P34 | | | |
| 深さ(cm) | 7.1 | 6.1 | 5.6 | 5.0 | 22.7 | 10.3 | 6.7 | 10.9 | 10.9 | 14.5 | 44.7 | 26.9 | 55.4 | 51.6 | | | |

第２号竪穴住居跡計測表

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 深さ(cm) | 4.4 | 11.6 | 6.3 | 10.2 | 7.2 | 6.4 | 34.1 | 4.8 | 4.0 | 3.9 | 4.5 | 9.9 | 6.6 | 7.9 | 7.6 | 8.0 | 5.5 |
| 番号 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | P33 | |
| 深さ(cm) | 6.9 | 18.4 | 6.8 | 5.4 | 7.6 | 5.5 | 16.9 | 12.5 | 7.6 | 16.5 | 16.9 | 13.6 | 17.2 | 12.6 | 28.9 | 41.1 | |

第３号竪穴住居跡計測表

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 深さ(cm) | 17.5 | 13.5 | 11.1 | 9.2 | 6.3 | 6.5 | 6.5 | 12.7 | 9.1 | 36.8 | 15.2 | 16.5 |
| 番号 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | P141 | P142 | |
| 深さ(cm) | 8.5 | 8.4 | 10.4 | 7.8 | 9.8 | 10.4 | 18.1 | 11.7 | 8.5 | 65.6 | 36.6 | |

第４号竪穴住居跡計測表

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 深さ(cm) | 14.5 | 13.0 | 11.7 | 17.6 | 13.7 | 13.7 | 9.2 | 10.5 | 6.9 | 8.2 | 11.3 | 12.6 |
| 番号 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 深さ(cm) | 10.0 | 14.9 | 10.4 | 9.1 | 15.5 | 16.1 | 9.1 | 8.6 | 13.4 | 7.9 | 2.6 | 4.3 |
| 番号 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | P141 | P142 | |
| 深さ(cm) | 15.4 | 18.6 | 14.3 | 8.9 | 13.4 | 8.6 | 15.5 | 8.9 | 4.8 | 49.6 | 44.8 | |

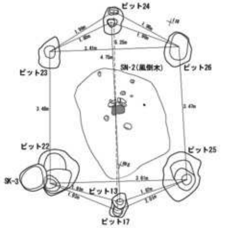
第６号竪穴住居跡計測表

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 深さ(cm) | 1.6 | 1.4 | 0.6 | 2.5 | 2.4 | 2.3 | 3.9 | 1.2 | 3.6 | 6.6 | 12.3 | 2.8 | 6.0 | 2.3 | 8.8 |
| 番号 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 深さ(cm) | 3.9 | 3.5 | 11.5 | 9.4 | 12.6 | 7.9 | 8.1 | 6.9 | 4.2 | 8.2 | 5.1 | 3.4 | 4.5 | 6.2 | 5.5 |
| 番号 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 |
| 深さ(cm) | 9.1 | 2.2 | 1.5 | 2.6 | 14.3 | 9.6 | 5.6 | 12.3 | 3.3 | 5.4 | 15.9 | 24.3 | 6.9 | 1.5 | 1.7 |
| 番号 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | P141 | P142 | P143 | P144 | P145 | P146 | P147 | | |
| 深さ(cm) | 6.1 | 2.4 | 3.4 | 6.7 | 2.5 | 3.3 | 66.7 | 77.5 | 55.7 | 68.4 | 19.6 | 22.3 | 9.7 | | |

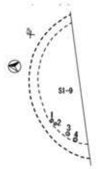
第７号竪穴住居跡計測表

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 深さ(cm) | 17.2 | 10.2 | 9.8 | 7.6 | 11.5 | 12.8 | 15.9 | 8.7 | 7.5 | 8.2 | 10.6 | 21.6 | 18.9 | 17.8 | 12.4 | 13.8 |
| 番号 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 |
| 深さ(cm) | 6.7 | 9.1 | 5.1 | 11.0 | 10.4 | 9.4 | 8.0 | 16.7 | 10.7 | 13.8 | 16.7 | 6.9 | 9.7 | 6.9 | 9.7 | 9.3 |
| 番号 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | P141 | P142 | P143 | P144 | P145 | P146 | P147 | P148 | | |
| 深さ(cm) | 4.1 | 15.5 | 9.0 | 8.8 | 7.7 | 10.6 | 40.6 | 9.7 | 44.2 | 13.3 | 11.4 | 21.1 | 6.8 | 31.3 | | |

## 第１号掘立柱建物跡




## 第９号竪穴住居跡




第９号竪穴住居跡計測表

| 番号 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| 深さ(cm) | 8.4 | 5.1 | 10.6 | 11.5 |

第１号掘立柱建物跡計測表

| ピット番号 | ピット13 | ピット17 | ピット22 | ピット23 | ピット24 | ピット25 | ピット26 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長軸(cm) | 41.0 | 44.0 | 122.6 | 84.2 | 71.2 | 130.7 | 91.2 |
| 短軸(cm) | 36.9 | 47.9 | 107.6 | 56.6 | 52.7 | 95.1 | 70.4 |
| 深さ(cm) | 72.0 | 72.5 | 80.9 | 98.4 | 91.9 | 105.7 | 105.4 |

## 種別変更遺構一覧

| 調査時の遺構種別 | 報告時の遺構種別 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 第20号土坑(SK-20) | 第８号竪穴住居跡(SI-8) | |
| 第11号土坑(SK-11) | 第９号竪穴住居跡(SI-9) | |
| 第４号土坑(SK-4) | ピット22 | SB-1を構成するピット |
| 大形ピット1 | ピット23 | SB-1を構成するピット |
| 大形ピット2 | ピット24 | SB-1を構成するピット |
| 大形ピット3 | ピット25 | SB-1を構成するピット |
| 大形ピット4 | ピット26 | SB-1を構成するピット |
| 第10号・13号・21号土坑<br>(SK-10・13・21) | 欠番 | 撹乱もしくは風倒木と判断した |
| ピット1～11・14・15<br>(SP1～11・14・15) | 欠番 | 撹乱もしくは風倒木と判断した |

## 土坑(SK)計測表

※(　)は残存値である。

| 遺構番号 | 図番号 | 位置 | 平面形 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 土器重量(g) | 剥片重量(g) | 出 土 遺 物 | 時　　期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-1 | 図15 | G-17 | 円形 | 93 | 92 | 29 | — | — | | | |
| SK-2 | 図15 | G-17・18 | 円形 | 90 | 81 | 12 | — | — | | | |
| SK-3 | 図14 | G-17 | 円形 | 76 | 71 | 28 | — | — | | | |
| SK-5 | 図15 | G-21 | 円形 | 106 | (95) | 27 | — | — | | | |
| SK-6・7 | 図15 | H-23 | 不整形 | 87 | 87 | 21 | 7.5<br>(SK-6) | 4.2<br>(SK-6) | 土器 | 十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階 | 重複し、SK-6が新しい。 |
| SK-8 | 図15 | H-21・22 | 円形 | 91 | 75 | 39 | — | — | | | SI-5石囲炉と重複し、古い。 |
| SK-9 | 図15 | H-22・23 | 不整形 | 89 | 72 | 53 | — | — | | | |
| SK-12 | 図15 | I-10・11 | 円形 | 93 | 86 | 24 | 41.3 | — | 土器 | | |
| SK-14 | 図15 | J-10 | 不整形 | 121 | 109 | 22 | — | — | | | |
| SK-15 | 図15 | I-10 | 円形 | 131 | 116 | 55 | — | — | | | |
| SK-16 | 図15 | G-14・15<br>H-14・15 | 楕円形 | 236 | 105 | 31 | — | — | | | |
| SK-17 | 図15 | H-14 | 楕円形 | 267 | 154 | 44 | 8.9 | — | 土器 | | 盛土範囲3の下で確認。 |
| SK-18 | 図16 | H-13・14 | 楕円形? | (185) | 163 | 41 | 118.7 | — | 土器 | | 盛土範囲2の下で確認。<br>風倒木により西側を欠く。 |
| SK-19 | 図16 | I-22・23 | 不整形 | 165 | 144 | 48 | — | — | | | SI-4と重複し、新しい。 |
| SK-22 | 図16 | L-29 | 不整形 | 122 | 118 | 46 | — | — | | | |
| SK-23 | 図8 | H・I-26 | 円形 | 143 | 122 | 93 | — | — | | 十腰内Ⅳ群段階 | SI-9とSK-26と重複し、SI-9より古く、SK-26より新しい。 |
| SK-24 | 図16 | H-23<br>I-23 | 方形 | 305 | (226) | 59 | 1115.7 | 11.5 | 土器、石器(スクレイパー1、二次加工剥片1、石皿・台石類1) | 十腰内Ⅳ群段階から馬場瀬段階 | 盛土範囲1の下で確認。<br>風倒木により南東側を欠く。 |
| SK-25 | 図16 | G・H-20 | 楕円形 | 161 | 100 | 37 | — | — | | | |
| SK-26 | 図8 | H・I-26 | 不整形? | (169) | (109) | 98 | — | — | | 十腰内Ⅳ群段階 | SI-3とSK-23と重複し、SI-3より新しく、SK-23より古い。 |
| SK-27 | 図16 | I-13 | 円形 | 119 | 102 | 34 | 665.8 | 8.0 | 土器、石器(二次加工剥片1) | 十腰内2式の可能性あり | |
| SK-28 | 図16 | I・J-13 | 円形 | 143 | 134 | 50 | — | — | | | |

## 土器観察表

※出土グリッドの（ ）は遺構内でのグリッド位置である。
※備考の計測値の単位はcmである。口：口径、器：は器高、底：は底径で、（ ）は残存値、〈 〉は推定値である。

| 番号 | 出土遺構 | 出土グリッド | 出土層位 | 分類 | 器種 | 部位 | 文様等の属性 | 縄文 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | S1-1 | J-12、I-12 | 3・5層／Ⅱ～Ⅲ・Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 注口（台付き） | 口縁部～底部 | 口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 口：22.6、器：24.9、底：〈5.6〉 |
| 2 | S1-1 | | 5層 | Ⅱ群e類 | 注口 | 略完形 | 口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 注口部欠損、口：4.7、器：9.6、底：2.9 |
| 3 | S1-1 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 口縁突起、刻目、沈線、縄文？ | 不明 | 10と同一個体か。 |
| 4 | S1-1 | | 5層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 5 | S1-1 | （J-12） | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 6 | S1-1 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口？ | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 7 | S1-1 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 胴部 | 沈線、縄文 | 不明 | |
| 8 | S1-1 | （J-12） | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 鉢 | 口縁部～底部 | 沈線 | — | 口：〈13.4〉、器：〈4.2〉、底：〈3.2〉 |
| 9 | S1-1 | | 5層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 10 | S1-1 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 刻目、沈線、縄文 | 0段多条 | 3と同一個体か。 |
| 11 | S1-1 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節？ | |
| 12 | S1-1 | I-12、J-10付近 | 床面・覆土／Ⅱ～Ⅲ・Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 壺もしくは注口 | 口縁部～底部 | 赤色顔料わずかに付着 | — | 口：9.7、器：14.4、底：3.4 |
| 13 | S1-1 | | 覆土 | Ⅲ群 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線 | — | 大洞BC式？ |
| 14 | S1-1 | | 5層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文 | 単節？ | |
| 15 | S1-1 | | 5層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 単節？ | |
| 16 | S1-1 | | 床面・覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 単節？ | 17と同一個体か。 |
| 17 | S1-1 | | 3・5層／Ⅱ～Ⅲ・Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 胴部～底部 | 羽状縄文 | 0段多条 | 16と同一個体か。 |
| 18 | S1-1 | I-12付近、J-12 | 5層・覆土／Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 穿孔、縄文 | 単節？ | |
| 19 | S1-1 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 0段多条 | |
| 20 | S1-1 | | 5層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | | — | 底：6.2 |
| 21 | S1-1 | | 5層・覆土／Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 単節？ | |
| 22 | S1-2 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口？ | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条？ | |
| 23 | S1-2 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | | — | |
| 24 | S1-2 | | 1層 | Ⅱ群c・d類 | 台付鉢 | 胴部～台部 | 刻目、沈線 | — | ミニチュア土器か。底：3.6 |
| 25 | S1-3 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 26 | S1-3 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口？ | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 27 | S1-3 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口？ | 胴部 | 刻目、沈線 | — | |
| 28 | S1-3 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 29 | S1-3 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 不明 | 底部 | | — | |
| 30 | S1-4 | | 床面（10層） | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 口縁部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 口：13.0 |
| 31 | S1-4 | | 床面（9層） | Ⅱ群d類 | 台付鉢 | 略完形 | 口縁突起、刻目、沈線、異原羽状縄文（一部）、器面に炭化物付着 | 0段多条 | 口：11.7、器：9.7、底：6.5 |
| 32 | S1-4 | | 床面（5層） | Ⅱ群c・d類 | 壺 | 口縁部 | 貼瘤、刻目、沈線、縄文 | 0段多条 | 口：11.4 |
| 33 | S1-4 | | 10層 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部～底部 | 貼瘤、刻目、沈線 | — | 底：3.8 |
| 34 | S1-4 | | 7層・覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 口縁部～胴部 | 口縁突起、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 35 | S1-4 | | 5層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 36 | S1-4 | | 5層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 37 | S1-4 | | 5層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 縄文 | 不明 | 底：7.8 |
| 38 | S1-4 | | 5層 | Ⅱ群c・d類 | 台付鉢 | 胴部～台部 | 沈線 | — | |
| 39 | S1-4 | | 3層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 縄文 | 0段多条 | 底：10.2 |
| 40 | S1-4 | | 3層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 41 | S1-4 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 42 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線 | — | |
| 43 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 44 | S1-4 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 45 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 46 | S1-4 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 47 | S1-4 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 48 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 49 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 50 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 51 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 52 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 53 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 54 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 55 | S1-4 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢？ | 口縁部 | 沈線、羽状縄文 | 0段多条 | |
| 56 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文 | 0段多条 | |
| 57 | S1-4 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 香炉形 | — | 貼瘤、沈線 | — | |
| 58 | S1-4 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 口縁部 | | — | |
| 59 | S1-4 | | 覆土（黒色土） | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | | — | |
| 60 | S1-4 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 胴部 | 刻目、沈線、縄文 | 0段多条 | |

| 番号 | 出土遺構 | 出土グリッド | 出土層位 | 分　類 | 器種 | 部　位 | 文様等の属性 | 縄　文 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | SI-4 | | 覆土 | Ⅱ群 | 不明 | 胴部 | 浮線、貼瘤 | ― | |
| 62 | SI-4 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | | ― | ミニチュア土器か。底：2.8 |
| 63 | SI-4 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 縄文 | 不明 | ミニチュア土器か。底：3.0 |
| 64 | SI-5／SK-24 | H-24 | 覆土／2層／Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部～底部 | 刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 口：<33.2>、器：(30.2)、底：<9.9> |
| 65 | SI-5 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | ― | |
| 66 | SI-5 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 不明 | |
| 67 | SI-5 | | 覆土 | Ⅲ群? | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 68 | SI-5 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 注口部 | | ― | |
| 69 | SI-5 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条? | |
| 70 | SI-5／SI-6 | | 覆土／覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条? | |
| 71 | SI-3／SI-6 | | 覆土／16・20層 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部～底部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 底：3.5 |
| 72 | SI-6 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 73 | SI-6 | | 20層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 74 | SI-6 | | 4層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段多条? | |
| 75 | SI-6 | | 4層 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 口縁部～底部 | 沈線、縄文 | 0段多条? | 注口部欠損。ミニチュア土器。口：1.9、器：4.3、底：1.5 |
| 76 | SI-6 | | 22層 | Ⅱ群c・d類 | 台付鉢? | 台部 | 刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 底：7.2 |
| 77 | SI-6 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | ― | |
| 78 | SI-6 | | 7層 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 底部 | 沈線、縄文 | 不明 | ミニチュア土器か。底：1.6 |
| 79 | SI-6 | | 4層 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 注口部 | 器面の一部剥落 | | |
| 80 | SI-6 | | 覆土 | Ⅲ群 | 台付鉢 | 胴部～台部 | 縄文 | 単節 | 大洞C2式。80～82は同一個体か。底：7.8 |
| 81 | SI-6 | | 覆土 | Ⅲ群 | 台付鉢? | 口縁部 | 口縁押圧、沈線、刺突、縄文 | 単節 | 大洞C2式。80～82は同一個体か。 |
| 82 | SI-5／SI-6 | | 覆土／覆土 | Ⅲ群 | 台付鉢? | 胴部 | 沈線、刺突、雲形文、縄文 | 単節 | 大洞C2式。80～82は同一個体か。 |
| 83 | SI-6 | J-25 | 1層／Ⅲ層 | Ⅲ群 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文、器面に炭化物付着 | 単節 | |
| 84 | SI-8 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 85 | SI-8 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 86 | SI-9 | | 床面 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 略完形 | 無文 | ― | 口：13.8、器：9.8、底：5.6 |
| 87 | SI-9 | | 床面 | Ⅱ群e類 | 注口 | 口縁部～底部 | 口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 単節? | 注口部欠損。口：8.1、器：14.4、底：3.8 |
| 89 | SI-7 | | 床面 | Ⅱ群d1類 | 単孔土器 | 胴部～底部 | 穿孔、貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 器：<15.2>、底：3.8 |
| 90 | SI-7 | | 床面 | Ⅱ群c・d類 | 台付鉢 | 略完形 | 刻目、沈線、異原羽状縄文、器面に炭化物付着 | 0段多条 | |
| 91 | SI-7 | | 床面 | Ⅱ群d2類 | 深鉢 | 口縁部～底部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 無節L | 口：11.4、器：12.0、底：5.4 |
| 92 | SI-7 | | 床面 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部～底部 | 沈線、異原羽状縄文 | 単節? | 底：5.8 |
| 93 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 注口部 | 縄文 | 不明 | |
| 94 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 台付き土器 | 台部 | | ― | 底：5.8 |
| 95 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類? | 鉢? | 胴部～底部 | 沈線 | ― | |
| 96 | SI-7／SK-24／ピット12 | H-22（風倒木）、H-23（風倒木） | 覆土／2層／覆土 | Ⅱ群c・d類 | 台付深鉢 | 口縁部～底部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条? | 口：25.1、器：<21.3>、底：10.2 |
| 97 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 単節? | |
| 98 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、異原羽状縄文、口縁部直下に縦に刻目列 | 0段多条 | |
| 99 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 100 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、縄文 | 0段多条 | |
| 101 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目 | ― | |
| 102 | SI-7 | | 覆土(黒色土) | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 103 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文、口縁頂部から縦に刻目列 | 0段多条? | |
| 104 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 不明 | |
| 105 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条? | |
| 106 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | ― | |
| 107 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 108 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 109 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 口縁部 | 口縁突起、沈線 | ― | |
| 110 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群b類? | 深鉢 | 口縁部 | 穿孔 | | |
| 111 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 112 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 113 | SI-7 | | 覆土(黒色土) | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部 | 沈線、羽状縄文 | 0段多条? | |
| 114 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、縄文 | 不明 | |
| 115 | SI-7 | | 覆土(黒色土) | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条? | |
| 116 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 不明 | |

| 番号 | 出土遺構 | 出土グリッド | 出土層位 | 分　類 | 器種 | 部　位 | 文様等の属性 | 縄　文 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 117 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部 | | ― | |
| 118 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 羽状縄文 | 0段条 | |
| 119 | SI-7 | | 覆土(黒色土) | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段条? | |
| 120 | SI-7 | I-13 | 覆土／Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線 | ― | |
| 121 | SI-7 | | 覆土 | Ⅲ群? | 深鉢 | 胴部 | 縄文 | 単節 | |
| 122 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 鉢 | 口縁部～底部 | 異原羽状縄文 | 0段条条? | 口:22.3、器:10.5、底:1.8 |
| 123 | SI-7 | | 覆土(黒色土) | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段条条? | |
| 124 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 胴部 | | ― | |
| 125 | SI-7 | I-15 | 覆土(黒色土)／Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 異原羽状縄文 | 0段条条 | |
| 126 | SI-7 | | 覆土(黒色土) | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段条条 | |
| 127 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段条条 | |
| 128 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文 | 0段条条 | |
| 129 | SI-7 | | 覆土(黒色土) | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 異原羽状縄文 | 単節? | |
| 130 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁部折り返して成形 | ― | |
| 131 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文? | 単節? | |
| 132 | SI-7 | G-16 | 覆土(黒色土)／Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 0段条条 | 同一個体片に径5mmの穿孔あり。 |
| 133 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 0段条条 | 口:(28.6) |
| 134 | SI-7 | | 覆土 | 不明 | 不明 | 底部 | 縄文、裏面に黒色の付着物 | 単節 | |
| 135 | SI-7 | | 覆土 | Ⅱ群e類? | 深鉢 | 胴部 | 縄文 | 単節? | |
| 136 | SK-6 | | 1層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、羽状縄文 | 0段条条 | |
| 137 | SK-12 | (I-10) | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段条条 | |
| 138 | SK-12 | (I-10) | 2～3層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線 | ― | |
| 139 | SK-18 | | 覆土 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節? | |
| 140 | SK-18 | | 覆土 | Ⅱ群a類? | 深鉢 | 口縁部 | 沈線 | ― | |
| 141 | SK-24 | | 2層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段条条? | |
| 142 | SK-24 | | 2層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 刻目、沈線、縄文 | 0段条条 | |
| 143 | SK-24 | | 2層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 刻目、沈線 | ― | |
| 144 | SK-24 | | 2層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段条条? | |
| 145 | SK-24 | | 2層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 単節? | |
| 146 | SK-27 | | 覆土 | Ⅱ群b類? | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 147 | SK-27 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | | ― | |
| 148 | SK-27 | I-13 | 覆土／Ⅱ層 | Ⅱ群b類? | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 149 | SK-27 | | 覆土 | Ⅱ群a類 | 深鉢 | 胴部 | 縄文 | | |
| 150 | SK-27 | | 覆土 | Ⅱ群b類 | 注口 | 注口部 | 沈線 | ― | |
| 151 | SK-27 | | 覆土 | Ⅱ群b類 | 注口 | 注口部 | 沈線 | ― | |
| 152 | SK-27 | | 覆土 | Ⅱ群b類 | 注口 | 口縁部～胴部 | 沈線、内外面に赤色顔料残存 | ― | 口:7.3 |
| 153 | SB-ピット25 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 0段条条 | |
| 154 | SB-ピット25 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段条条 | |
| 155 | SB-ピット25 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段条条 | |
| 156 | SB-ピット25 | H-18 | 覆土／Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 注口 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段条条 | |
| 157 | SB-ピット25 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 注口 | 胴部～底部 | 貼壁、沈線、異原羽状縄文 | 0段条条 | 器:(21.6)、底:2.8 |
| 158 | SB-ピット25 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段条条 | |
| 159 | SB-ピット36 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段条条 | |
| 160 | SN-2 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段条条 | |
| 161 | SN-2 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 縄文 | 0段条条 | |
| 162 | SN-2 | | 覆土 | Ⅱ群a類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段条条 | |
| 163 | SN-2 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文 | 0段条条? | |
| 164 | SN-2 | | 覆土 | Ⅱ群c・d類 | 鉢? | 口縁部 | 縄文 | 0段条条? | |
| 165 | SN-2 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 縄文 | 単節 | 底:10.7 |
| 166 | SN-2 | | 覆土 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 単節 | 口:(30.0) |
| 167 | 遺構外 | H-25 | Ⅲ層 | Ⅰ群 | 深鉢 | 胴部 | 縄文 | 単軸絡条体1類 | |
| 168 | 遺構外 | J-25 | Ⅲ層 | Ⅰ群 | 深鉢 | 胴部 | 縄文、胎土に繊維混入 | 単軸絡条体1類 | |
| 169 | 遺構外 | J-9 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅰ群 | 深鉢 | 口縁部 | LR押圧施文、羽状縄文(結束第1種)、胎土に繊維混入 | 単節 | |
| 170 | 遺構外 | E-20 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅰ群 | 深鉢 | 底部 | 縄文、胎土に繊維混入 | 単節 | |
| 171 | 遺構外 | G-16 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群a類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線 | ― | |
| 172 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群a類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 173 | 遺構外 | H-19 | Ⅱ層 | Ⅱ群a類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 174 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群a類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 不明 | |
| 175 | 遺構外 | I-13、I-14 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 176 | 遺構外 | H-13、I-12、I-13 | Ⅱ層、Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 177 | 遺構外 | I-14 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 178 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 無節? | |
| 179 | 遺構外 | H-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 180 | 遺構外 | I-12 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文、沈線? | 単節 | |
| 181 | 遺構外 | H-13、I-13 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線 | 単節 | |
| 182 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |

| 番号 | 出土遺構 | 出土グリッド | 出土層位 | 分　類 | 器種 | 部　位 | 文様等の属性 | 縄　文 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 183 | 遺構外 | J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 鉢? | 口縁部 | 沈線、縄文 | 不明 | |
| 184 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、内面に黒色の付着物 | — | |
| 185 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、内面に黒色の付着物 | — | |
| 186 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 底部 | 底面網代痕 | — | 底：7.6 |
| 187 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | | — | |
| 188 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文、沈線? | 不明 | |
| 189 | 遺構外 | I-13 | Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 190 | 遺構外 | H-12 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 191 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節? | |
| 192 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 193 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節? | |
| 194 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 195 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 196 | 遺構外 | H-13、I-13 | Ⅱ層、Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 197 | 遺構外 | 表採 | | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節? | |
| 198 | 遺構外 | I-10 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線 | 単節 | |
| 199 | 遺構外 | I-11 | Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線 | — | |
| 200 | 遺構外 | H-13、J-10、J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 鉢 | 口縁部～底部 | 沈線、縄文 | 単節 | 底：6.8 |
| 201 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 202 | 遺構外 | H-13 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 203 | 遺構外 | H-12 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部～底部 | 沈線、縄文<br>内面に黒色の付着物 | 単節 | 底：4.5 |
| 204 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 205 | 遺構外 | H-13、H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部～底部 | 口唇部縄文、LR押圧施文、縄文 | 単節 | 口：15.4、器：17.4、底：5.7 |
| 206 | 遺構外 | H-12 | Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 口唇部縄文、沈線、縄文 | 単節 | |
| 207 | 遺構外 | H-13 | Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部～底部 | 口唇部縄文、沈線、縄文 | 単節 | 口：16.7、器：13.9、底：6.4 |
| 208 | 遺構外 | H-14、H-15 | Ⅱ層、Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 単節 | |
| 209 | 遺構外 | I-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 単節 | |
| 210 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 211 | 遺構外 | H-10付近、H-13、H-14、I-12、I-13 | Ⅱ層、Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、隆帯、刻目、沈線 | — | |
| 212 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、隆帯、刻目、沈線 | — | |
| 213 | 遺構外 | H-13 | Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、刺突 | — | |
| 214 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、刺突、縄文 | 不明 | |
| 215 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、刺突、縄文 | 不明 | |
| 216 | 遺構外 | H-14、H-14付近、I-12、I-13 | Ⅱ層、Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 注口 | 胴部～底部 | 沈線、<br>外面にわずかに赤色顔料残存 | — | 底：3.4 |
| 217 | 遺構外 | I-14 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 注口 | 胴部 | 沈線 | — | |
| 218 | 遺構外 | G-17、H-13 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 注口 | 胴部 | 沈線 | — | |
| 219 | 遺構外 | H-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群b類 | 注口 | 胴部 | 沈線 | — | |
| 220 | 遺構外 | H-14 | Ⅲ層 | Ⅱ群b類 | 注口 | 胴部 | 沈線 | — | |
| 221 | 遺構外 | G-16 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群? | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段多条? | |
| 222 | 遺構外 | G-17 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群? | 深鉢 | 胴部 | 沈線、羽状縄文 | 0段多条? | |
| 223 | 遺構外 | I-15、I-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群c類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 口縁突起、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 口：(28.6) |
| 224 | 遺構外 | F-19 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類? | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 無節L | |
| 225 | 遺構外 | F-20 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 226 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 227 | 遺構外 | I-12 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 228 | 遺構外 | G-22 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 229 | 遺構外 | H-13、I-13 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 230 | 遺構外 | H-14 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線、羽状縄文 | 0段多条 | |
| 231 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 232 | 遺構外 | J-7付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 233 | 遺構外 | H-26 | 耀土 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 234 | 遺構外 | G-16 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 235 | 遺構外 | H-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群d1類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 貼瘤、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条? | |
| 236 | 遺構外 | J-9、J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線、縄文 | 0段多条? | |
| 237 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目 | — | |
| 238 | 遺構外 | G-16 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 239 | 遺構外 | I-14 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 240 | 遺構外 | G-16付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、貼瘤、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 241 | 遺構外 | 不明 | | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、刻目、沈線、<br>口縁頂部から最に刻目列 | — | |
| 242 | 遺構外 | I-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 243 | 遺構外 | H-14 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 244 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、刻目、沈線 | — | |
| 245 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条? | |

| 番号 | 出土遺構 | 出土グリッド | 出土層位 | 分　類 | 器種 | 部　位 | 文様等の属性 | 縄　文 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 246 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、刻目、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 247 | 遺構外 | H-13 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 248 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁突起、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 249 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 250 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 口縁部 | 刻目、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 251 | 遺構外 | H-13 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 252 | 遺構外 | J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 253 | 遺構外 | J-7付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部 | 刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条? | |
| 254 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 255 | 遺構外 | J-7付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、縄文 | 不明 | |
| 256 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 257 | 遺構外 | F-19 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類? | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 258 | 遺構外 | H-13 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 底部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 底：6.7 |
| 259 | 遺構外 | I-23 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 深鉢 | 胴部～底部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条? | 底：6.9 |
| 260 | 遺構外 | I-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | 口：19.6 |
| 261 | 遺構外 | I-12 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 単節 | |
| 262 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 263 | 遺構外 | H-14 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 口縁部 | 刻目、沈線 | — | |
| 264 | 遺構外 | E-19、E-20、F-20、G-21 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群d1類 | 注口 | 胴部、底部 | 貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 265 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 266 | 遺構外 | H-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部 | 貼瘤、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 267 | 遺構外 | H-13 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 刻目、沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 268 | 遺構外 | J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 269 | 遺構外 | I-12 | Ⅱ層、Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条? | |
| 270 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 胴部 | 貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 271 | 遺構外 | G-16 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 272 | 遺構外 | G-16 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 273 | 遺構外 | F-20 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 274 | 遺構外 | I-12 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条? | |
| 275 | 遺構外 | H-14 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群d1類 | 注口 | 胴部 | 口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 口：7.8、器：15.2、底：4.4 |
| 276 | 遺構外 | J-8、J-8(風倒木) | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 注口 | 胴部 | 口縁突起、貼瘤、刻目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 口：8.0、器：18.1、底：4.8 |
| 277 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 注口部 | — | — | |
| 278 | 遺構外 | 不明 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口 | 注口部 | 縄文 | 0段多条 | |
| 279 | 遺構外 | H-13、H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群d1類? | 壺もしくは注口 | 胴部～底部 | 沈線、縄文 | 0段多条? | |
| 280 | 遺構外 | H-26、I-27 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 281 | 遺構外 | H-13、I-12、I-13 | Ⅱ層、Ⅲ層 | Ⅱ群d1類? | 注口 | 胴部 | 沈線、縄文 | 単節? | |
| 282 | 遺構外 | H-12、H-13 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 壺もしくは注口 | 胴部～底部 | 沈線、縄文 | 0段多条 | |
| 283 | 遺構外 | H-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 注口? | 口縁部 | 口縁突起、貼瘤、刻目、沈線 | — | 口：8.3 |
| 284 | 遺構外 | H-12 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 鉢 | 口縁部～底部 | 刻目、沈線 | — | 口：9.5、器：4.8、底：2.5 |
| 285 | 遺構外 | G-16、H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 鉢 | 口縁部～底部 | 口縁突起、刻目、沈線、羽状縄文 | 0段多条 | 口：12.0 |
| 286 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 鉢? | 底部 | 刻目、沈線、内面に黒色の付着物 | — | 底：4.4 |
| 287 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群c・d類 | 台付き土器 | 台部 | 刻目、沈線 | — | ミニチュア土器か、底：3.3 |
| 288 | 遺構外 | H-13 | Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 台付き土器 | 台部 | 刻目、沈線 | — | ミニチュア土器か、 |
| 289 | 遺構外 | H-12 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群c・d類 | 香炉形 | 底部 | 沈線、縄文 | 無節L | 底：2.3 |
| 290 | 遺構外 | H-14 | Ⅲ層 | Ⅱ群? | 深鉢 | 口縁部 | 沈線、縄文 | 0段多条? | |
| 291 | 遺構外 | I-14 | Ⅱ層 | Ⅱ群? | 深鉢 | 胴部 | 沈線、縄文 | 0段多条? | |
| 292 | 遺構外 | I-10、J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群 | 深鉢 | 胴部 | 沈線、羽状縄文 | 0段多条? | |
| 293 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | Ⅲ群 | 鉢 | 口縁部 | 平行沈線、粘土瘤、口縁内側横走沈線 | — | 大洞A式 |
| 294 | 遺構外 | G-16 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅲ群 | 鉢 | 口縁部 | 平行沈線、粘土瘤、口縁内側横走沈線 | — | 大洞A式 |
| 295 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | Ⅲ群 | 鉢形? | 口縁部～胴部 | 口縁部突起、工字文、縄文、口縁内側横走沈線 | 単節 | 大洞A式 |
| 296 | 遺構外 | H-18 | Ⅱ層 | Ⅲ群 | 広口壺 | 口縁部～底部 | 穿孔、縄文、外面に炭化物付着 | 単節 | 晩期、口：〈25.2〉、器：〈33.5〉、底：〈8.6〉 |
| 297 | 遺構外 | E-20 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅲ群 | 深鉢? | 口縁部 | 平行沈線、粘土瘤、縄文 | 単節? | 大洞A式 |
| 298 | 遺構外 | F-19 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅲ群 | 深鉢? | 胴部 | 平行沈線、粘土瘤 | — | 大洞A式 |

| 番号 | 出土遺構 | 出土グリッド | 出土層位 | 分　類 | 器種 | 部　位 | 文様等の属性 | 縄　文 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 299 | 遺構外 | I-12付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅲ群 | 深鉢? | 口縁部 | 平行沈線、粘土帯、縄文 | 単節 | 大洞A式 |
| 300 | 遺構外 | 表採 | Ⅲ群 | Ⅲ群 | 深鉢 | 口縁部 | 波状口縁、縄文 | 単節 | 晩期 |
| 301 | 遺構外 | G-17付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅲ群 | 深鉢? | 口縁部 | 波状口縁、縄文 | 単節 | 晩期 |
| 302 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 鉢 | 口縁部～底部 | 縄文 | 単節? | 口：9.2、器：7.8、底：4.4 |
| 303 | 遺構外 | I-10、I-10付近、J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 鉢 | 口縁部～底部 | 縄文 | 0段多条? | 口：〈12.7〉、器：〈5.4〉、底：〈2.8〉 |
| 304 | 遺構外 | G-16、G-17 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 胴部 | 縄文 | 単軸絡条体5類 | |
| 305 | 遺構外 | H-16付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 胴部 | 縄文 | 単軸絡条体5類 | |
| 306 | 遺構外 | E-19 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 胴部 | 条痕文 | — | |
| 307 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 胴部 | 縄文 | 単節? | |
| 308 | 遺構外 | G-16、G-17 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 0段多条 | 口：〈31.2〉 |
| 309 | 遺構外 | H-15、H-16、I-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 310 | 遺構外 | G-15、G-16付近、H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層、Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 0段多条 | |
| 311 | 遺構外 | I-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 異原羽状縄文、外面に炭化物付着 | 0段多条 | |
| 312 | 遺構外 | G-17 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段多条 | |
| 313 | 遺構外 | G-16、G-17 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文 | 0段多条? | |
| 314 | 遺構外 | H-14 | Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 羽状縄文 | 0段多条 | |
| 315 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 異原羽状縄文 | 0段多条? | |
| 316 | 遺構外 | H-16 | Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 317 | 遺構外 | H-13 | Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文 | 単節? | |
| 318 | 遺構外 | J-7付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文 | 単節? | |
| 319 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文、内面に炭化物付着 | 0段多条 | |
| 320 | 遺構外 | H-14付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢? | 口縁部 | 縄文 | 単節? | |
| 321 | 遺構外 | I-15 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 縄文 | 0段多条 | 口：〈35.6〉 |
| 322 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 異原羽状縄文、外面に炭化物付着 | 単節 | |
| 323 | 遺構外 | H-12 | Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | 縄文 | 不明 | |
| 324 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 胴部 | 異原羽状縄文 | 0段多条 | |
| 325 | 遺構外 | I-14 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 異原羽状縄文、外面に炭化物付着 | 0段多条 | |
| 326 | 遺構外 | H-14 | Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 口縁部 | | — | |
| 327 | 遺構外 | F-20 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢? | 口縁部 | | — | |
| 328 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢? | 口縁部 | | — | |
| 329 | 遺構外 | J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 内外面にわずかに赤色顔料残存 | — | 底：4.6 |
| 330 | 遺構外 | J-10付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 縄文 | 単節 | 底：6.5 |
| 331 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 縄文、底面網代痕 | 0段多条 | 底：10.9 |
| 332 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 異原羽状縄文 | 0段多条 | 底：10.7 |
| 333 | 遺構外 | J-26 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 深鉢 | 底部 | 底面網代痕 | — | |
| 334 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 鉢? | 胴部～底部 | 沈線、縄文 | 単節? | |
| 335 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | Ⅱ群e類 | 注口? | 底部 | | — | |

## 土製品観察表

※(　)は残存値である。

| 番号 | 出土遺構 | 出土グリッド | 出土層位 | 器種 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 部位 | 文様等の属性 | 縄文 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 88 | SI-7 | | 床面 | スタンプ形土製品 | 62 | (49) | 40 | 85.5 | — | 貼付、刺突、刺目、沈線、異原羽状縄文 | 0段多条 | 人面部分一部欠損 |
| 336 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | 円盤状土製品 | 27 | 26 | 7 | 5.7 | — | 沈線、羽状縄文 | 0段多条 | |

## 剥片石器観察表

| 番号 | 出土位置 | グリッド | 層位 | 器種 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | SI-1 | | 3層 | 石鏃(無茎石鏃・尖基) | 36.7 | 20.9 | 9.1 | 5.6 | 鉄石英 | 基部欠損か |
| 2 | SI-1 | | 覆土 | 石鏃(無茎石鏃・尖基) | 46.0 | 14.5 | 8.3 | 4.0 | 珪質頁岩 | |
| 3 | SI-1 | I-11 | 覆土上層 | 石錐(棒状) | 53.5 | 9.3 | 8.9 | 3.2 | 珪質頁岩 | |
| 4 | SI-1 | | 覆土 | 石匙(横長身部) | 36.4 | 43.8 | 10.0 | 9.0 | 珪質頁岩 | |
| 5 | SI-1 | | 覆土 | スクレイパー(急角度刃部・掻器) | 51.2 | 51.3 | 13.9 | 39.6 | 珪質頁岩 | |
| 6 | SI-1 | | 5層 | スクレイパー(削器) | 62.0 | 23.3 | 10.6 | 9.7 | 珪質頁岩 | |
| 7 | SI-1 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 47.7 | 41.4 | 12.8 | 24.7 | 玉髄 | |
| 13 | SI-2 | | 1層 | スクレイパー(削器) | 89.8 | 34.4 | 12.6 | 33.7 | 珪質頁岩 | 破線は節理面 |
| 19 | SI-3 | | 覆土 | 石錐(つまみ部呼称) | 27.1 | 24.8 | 7.1 | 3.4 | 玉髄 | |
| 20 | SI-3 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 62.5 | 34.6 | 11.7 | 36.6 | 珪質頁岩 | |
| 21 | SI-3 | I-26 | 覆土 | スクレイパー(削器) | 63.4 | 34.5 | 10.7 | 18.4 | 珪質頁岩 | |
| 22 | SI-3 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 42.8 | 45.7 | 12.3 | 18.3 | 黒曜石 | |
| 23 | SI-4 | | 覆土 | 石鏃(有茎石鏃) | 27.4 | 11.6 | 6.2 | 1.4 | 珪質頁岩 | |
| 24 | SI-4 | | 覆土 | 石鏃(有茎石鏃) | 27.7 | 12.4 | 3.3 | 0.6 | 珪質頁岩 | |
| 25 | SI-4 | | 覆土 | 石錐(5cm以上) | 55.2 | 22.4 | 9.3 | 9.1 | 珪質頁岩 | 基部欠損 |
| 26 | SI-4 | | 覆土 | 石匙(大石平型石匙) | 45.9 | 28.1 | 12.0 | 11.3 | 珪質頁岩 | |
| 27 | SI-4 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 33.6 | 58.9 | 13.9 | 18.8 | 珪質頁岩 | |
| 28 | SI-5 | | 覆土 | スクレイパー(急角度刃部・掻器) | 62.9 | 37.8 | 17.1 | 33.9 | 珪質頁岩 | |
| 31 | SI-7 | | 覆土 | 石鏃(無茎石鏃・円基) | 18.2 | 17.9 | 6.4 | 2.1 | 玉髄 | 基部残存 |
| 32 | SI-7 | | 覆土 | 石匙(縦長身部) | 64.5 | 20.9 | 9.2 | 9.9 | 珪質頁岩 | |
| 33 | SI-7 | | 覆土 | 石匙(縦長身部) | 81.0 | 36.4 | 12.4 | 26.5 | 珪質頁岩 | |
| 34 | SI-7 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 76.6 | 33.4 | 19.1 | 23.0 | 珪質頁岩 | |
| 35 | SI-7 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 95.0 | 38.5 | 18.1 | 46.9 | 珪質頁岩 | |
| 36 | SI-7 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 36.4 | 39.3 | 8.8 | 14.2 | 珪質頁岩 | 下半欠損 |
| 37 | SI-7 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 64.4 | 45.9 | 15.5 | 47.5 | 玉髄 | |
| 38 | SI-7 | | 覆土 | スクレイパー(削器) | 73.0 | 66.2 | 16.6 | 42.0 | 珪質頁岩 | |
| 47 | SK-24 | | 2層 | スクレイパー(急角度刃部・掻器) | 77.5 | 44.0 | 13.3 | 41.0 | 珪質頁岩 | |
| 49 | 遺構外 | H-17 | Ⅱ層 | 石鏃(無茎石鏃・凹基) | 18.4 | 13.2 | 2.5 | 0.4 | 玉髄 | |
| 50 | 遺構外 | G-15 | Ⅱ～Ⅲ | 石鏃(無茎石鏃・凹基) | 32.7 | 18.5 | 5.0 | 2.1 | 珪質頁岩 | |
| 51 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | 石鏃(無茎石鏃・凹基) | 42.2 | 12.1 | 3.8 | 1.4 | 珪質頁岩 | |
| 52 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | 石錐(棒状) | 48.0 | 15.9 | 9.1 | 5.2 | 珪質頁岩 | |
| 53 | 遺構外 | I-23(撹乱) | 撹乱 | 石匙(楕円) | 51.7 | 37.7 | 17.1 | 31.2 | 珪質頁岩 | |
| 54 | 遺構外 | K-6(風倒木) | 覆土 | 石匙(楕円) | 85.1 | 36.7 | 20.3 | 58.4 | 珪質頁岩 | |
| 55 | 遺構外 | 表採 | — | スクレイパー(削器) | 81.6 | 29.3 | 12.9 | 23.8 | 珪質頁岩 | |
| 56 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | スクレイパー(削器) | 35.3 | 21.3 | 9.0 | 5.4 | 珪質頁岩 | |
| 57 | 遺構外 | H-26 | 覆土 | スクレイパー(削器) | 38.5 | 17.0 | 6.7 | 4.6 | 玉髄 | |
| 58 | 遺構外 | I-23(撹乱) | 撹乱 | スクレイパー(急角度刃部・掻器) | 63.6 | 94.9 | 16.5 | 82.3 | 珪質頁岩 | 破線は節理面 |
| 59 | 遺構外 | I-12 | Ⅱ～Ⅲ | スクレイパー(削器) | 30.3 | 31.9 | 10.3 | 10.6 | 玉髄 | 下半欠損 |
| 60 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | スクレイパー(削器) | 117.2 | 43.7 | 13.9 | 44.7 | 珪質頁岩 | |
| 61 | 遺構外 | H-16 | Ⅱ層 | スクレイパー(削器) | 65.4 | 58.3 | 24.8 | 87.9 | 珪質頁岩 | |
| 62 | 遺構外 | H-22(風倒木)、H-23(風倒木) | | スクレイパー(削器) | 61.7 | 35.6 | 11.6 | 21.5 | 珪質頁岩 | 白抜きはガジリ |
| 63 | 遺構外 | I-13 | Ⅱ層 | スクレイパー(削器) | 69.0 | 42.2 | 13.6 | 23.2 | 珪質頁岩 | |
| 64 | 遺構外 | J-9 | Ⅱ～Ⅲ | 二次加工剥片 | 43.2 | 35.3 | 12.6 | 15.1 | 玉髄 | |
| 65 | 遺構外 | I-12 | Ⅱ～Ⅲ | 二次加工剥片(石鏃未成品) | 33.5 | 27.6 | 9.2 | 7.7 | 珪質頁岩 | |
| 66 | 遺構外 | H-13 | Ⅱ～Ⅲ | 二次加工剥片(石鏃未成品) | 29.2 | 30.2 | 6.5 | 3.1 | 鉄石英 | |
| 67 | 遺構外 | J-10 | Ⅲ | 微細剥離痕のある剥片 | 66.2 | 36.1 | 15.2 | 49.0 | 珪質頁岩 | |
| 68 | 遺構外 | I-13 | Ⅲ | 石核 | 38.0 | 45.2 | 18.2 | 34.0 | 珪質頁岩 | |

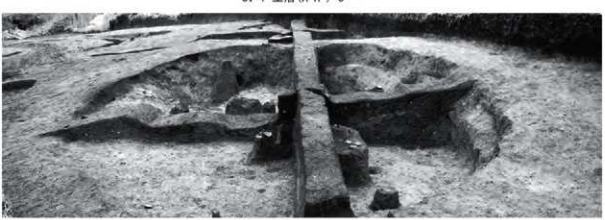
## 礫石器観察表

| 番号 | 出土位置 | グリッド | 層位 | 器種 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | SI-1 | | 床面 | 磨製石斧 | 72 | 51 | 28 | 161.5 | 安山岩 | 刃部残存。整形時の敲打痕残る。 |
| 9 | SI-1 | I-12 | 覆土上層 | 磨製石斧 | 32 | 17 | 6 | 4.6 | 粘板岩 | 基部～刃部残存。 |
| 10 | SI-1 | | 5層 | 磨製石斧 | 54 | 35 | 15 | 48.4 | 緑色片岩 | 刃部残存。欠損部に敲打痕。二次利用? |
| 11 | SI-1 | | 5層 | 石皿・台石類 | 180 | 97 | 79 | 1740.9 | 安山岩 | 表裏両面・両側面に凹み。 |
| 14 | SI-2 | J-12 | 1層・覆土上層 | 磨製石斧 | 160 | 59 | 30 | 706.3 | 粗粒玄武岩 | 基部～刃部残存。左右非対称の刃部。側縁に敲打痕。基部側先端欠損。 |
| 15 | SI-2 | | 1層 | 磨製石斧 | 106 | 47 | 21 | 149.7 | 粗粒玄武岩 | 刃部の一部欠損。整形時の敲打痕残る。 |
| 16 | SI-2 | | 1層 | 磨製石斧 | 99 | 44 | 33 | 198.3 | 粗粒玄武岩 | 基部残存。欠損部縁辺に敲打痕。二次利用? |
| 17 | SI-2 | | 1層 | 敲磨石類 | 114 | 88 | 56 | 823.0 | 花崗閃緑岩 | 表裏両面に磨り。表面に凹み。 |
| 18 | SI-2 | | 床面直上 | 石皿・台石類 | 403 | 460 | 91 | 25240.0 | 安山岩 | 石臼。表裏両面に磨り。使用部分以外は自然面。 |
| 29 | SI-6 | | 4層 | 磨製石斧 | 103 | 40 | 22 | 151.9 | 安山岩 | 刃部残存。側縁に敲打痕。 |
| 30 | SI-6 | | 2層 | 敲磨石類 | 182 | 92 | 42 | 1156.4 | 安山岩 | 表面に凹み。表面にわずかに磨り痕か? |
| 39 | SI-7 | | 覆土 | 敲磨石類 | 90 | 69 | 32 | 254.6 | 安山岩 | 表裏両面に凹み。 |
| 40 | SI-7 | I-14 | 覆土 | 敲磨石類 | 103 | 76 | 43 | 464.7 | 安山岩 | 表面に凹み。 |
| 41 | SI-7 | | 覆土 | 敲磨石類 | 101 | 73 | 24 | 329.1 | 安山岩 | 下半は欠損か。表裏両面に凹み。 |
| 42 | SI-7 | | 覆土 | 敲磨石類 | 96 | 51 | 40 | 241.3 | 安山岩 | 使用により欠損。表裏両面に凹み。 |
| 43 | SI-7 | | 覆土 | 敲磨石類 | 75 | 76 | 23 | 214.0 | 緑色凝灰岩 | 表裏両面に凹みと磨り。 |
| 44 | SB-1 ピット22 | G-17 | II層(確認面) | 磨製石斧 | 112 | 50 | 27 | 192.1 | 安山岩 | 基部残存。 |
| 45 | SN-2 | | 覆土 | 敲磨石類 | 101 | 80 | 50 | 551.8 | 安山岩 | 表裏両面に凹みと磨り。 |
| 46 | SN-2 | | 覆土 | 石皿・台石類 | 230 | 239 | 117 | 8200.0 | 安山岩 | 表面に磨りだが形成弱い。 |
| 48 | SK-24 | | 2層 | 石皿・台石類 | 154 | 155 | 42 | 900.9 | 頁岩 | 石臼。表面に磨り。側縁は打ち欠いて整形か。表面黒く変色。 |
| 69 | 遺構外 | H-22 (風倒木) | | 磨製石斧 | 114 | 50 | 26 | 207.6 | 安山岩 | 基部残存。欠損後、剥離部分を含め再研磨して使用するも再度欠損。 |
| 70 | 遺構外 | I-15 | II層 | 磨製石斧 | 47 | 37 | 14 | 44.0 | 緑色片岩 | 刃部残存。 |
| 71 | 遺構外 | 表採 | | 敲磨石類 | 180 | 75 | 57 | 1230.5 | 安山岩 | 表裏両面・両側面に磨り。裏面に凹み。上下両端にもわずかに敲打痕か? |
| 72 | 遺構外 | H-15 | II層 | 敲磨石類 | 140 | 67 | 36 | 402.1 | 緑色凝灰岩 | 表面に凹みと磨り。左側面に敲打痕。 |
| 73 | 遺構外 | I-10 | II～III層 | 敲磨石類 | 127 | 74 | 37 | 366.8 | 緑色凝灰岩 | 使用により欠損後も使用。表裏両面に凹み。表面磨り。 |
| 74 | 遺構外 | H-17 | II層 | 敲磨石類 | 94 | 86 | 36 | 499.5 | 安山岩 | 表裏両面に凹み。表面磨り。 |
| 75 | 遺構外 | H-15 | II層 | 敲磨石類 | 109 | 98 | 35 | 756.4 | 安山岩 | 表裏両面に凹み。右側面に磨り。 |
| 76 | 遺構外 | 表採 | | 敲磨石類 | 170 | 58 | 33 | 474.2 | 緑色凝灰岩 | 表裏両面に凹み。 |
| 77 | 遺構外 | H-17 | II層 | 敲磨石類 | 128 | 80 | 46 | 462.3 | 安山岩 | 表裏両面に凹み。 |
| 78 | 遺構外 | I-14 | II層 | 敲磨石類 | 86 | 93 | 40 | 439.1 | 安山岩 | 表面に凹み。 |
| 79 | 遺構外 | H-14、I-14 | II層、II～III層 | 石皿・台石類 | 262 | 308 | 58 | 5364.1 | 安山岩 | 石臼。使用部分以外は自然面。 |

## 石製品観察表

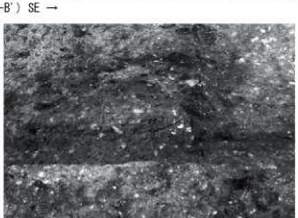
| 番号 | 出土位置 | グリッド | 層位 | 器種 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | SI-1 | I-11 | 覆土上層 | 石棒 | 464 | 69 | 52 | 2767.5 | 粘板岩 | |
| 80 | 遺構外 | H-11 | II～III層 | 石刀 | 439 | 35 | 28 | 688.8 | 粘板岩 | 上半欠損 |
| 81 | 遺構外 | I-13 | II～III層 | 石製品 | 47 | 38 | 8 | 20.1 | 細粒凝灰岩 | 下半欠損 |

SI-1 土層(A-A′) S →



SI-1 土層(B-B′) SE →

SI-1 遺物出土状況 S →



SI-1 炉 土層 S →

写真1 第1号竪穴住居跡

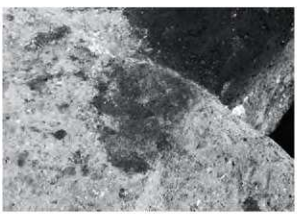
S1-2 遺物出土状況 S →

S1-2 土層(A-A'・B-B') S →

写真２　第２号竪穴住居跡

SI-3 完掘 S →

SI-3 土層(B-B′) W →



SI-3 炉 検出 S →

SI-3 土層(C-C′ 西側) S →

SI-9 土層(A-A′) NE →

SI-9 遺物出土状況 N →

SK-23 土層 N →

SK-23 完掘 S →

写真3 第3・9号竪穴住居跡/第23号土坑

SI-4 完掘 S →

SI-4 土層(B-B') W →

SI-4 遺物出土状況 S →

SI-4 炉 検出 S →

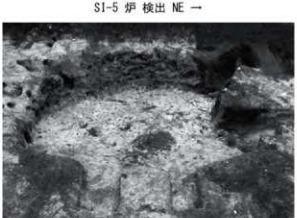
写真4　第4号竪穴住居跡

SI-5 完掘 S →

SI-5 土層(A-A') SE →

SI-5 炉 検出 NE →

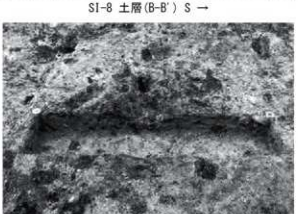
SI-5 炉 土層 NE →



SI-8 完掘 S →

SI-8 土層(B-B') S →

SI-8 土層(A-A') W →



SI-8 炉 土層 S →

写真５　第５・８号竪穴住居跡

SI-6 炭化材出土状況 S →

SI-6 新段階完掘 S →

SI-6 土層(B-B' 東側) N →

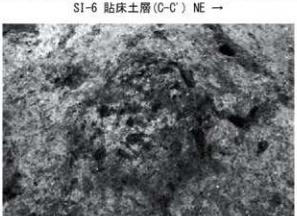
SI-6 土層(A-A' 北側) W →

写真6　第6号竪穴住居跡（1）

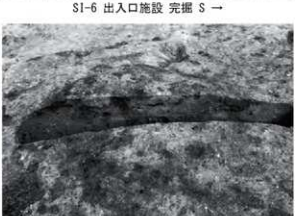
SI-6 旧段階完掘 S →

SI-6 貼床土層(C-C') NE →

SI-6 出入口施設 完掘 S →



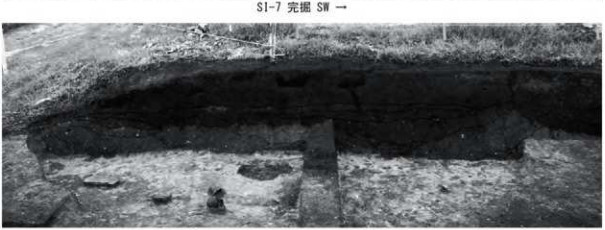
SI-6 炉 検出 S →



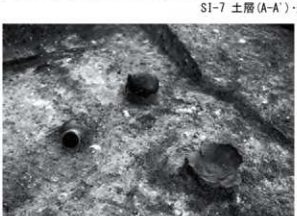
SI-6 炉 土層 W →

写真7 第6号竪穴住居跡（2）

SI-7 完掘 SW →



SI-7 土層(A-A')・遺物出土状況 SE →



SI-7 遺物出土状況 N →

SI-7 炉 土層 W →

写真8　第7号竪穴住居跡

SB-1 配石遺構検出 SW →

SB-1 完掘 SE →

ピット17(左)・ピット13(右) 完掘 E →

SK-3・ピット22 土層 SE →

ピット25 完掘 S →

ピット26 完掘 S →

SN-2 検出 S →

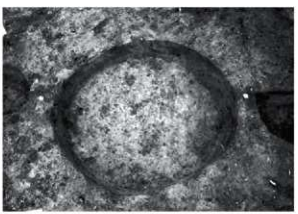
SN-2 土層 E →

写真９　第１号掘立柱建物跡/第３号土坑/第２号焼土遺構

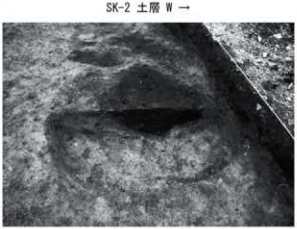
SK-1 土層 S →

SK-1 完掘 S →

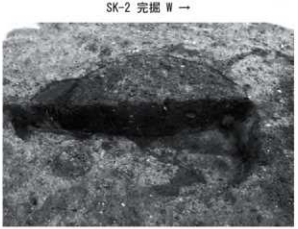
SK-2 土層 W →



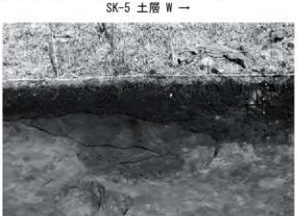
SK-2 完掘 W →



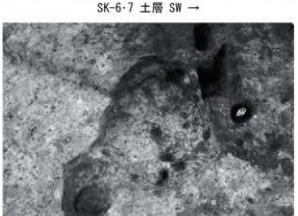
SK-5 土層 W →



SK-6·7 土層 SW →



SK-8 土層 SE →



SK-8 完掘 SE →

写真10　土坑（1）

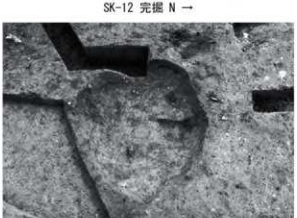
SK-9 土層 SE →

SK-9 完掘 S →

SK-12 土層 NW →

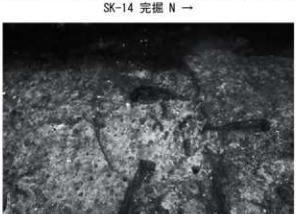
SK-12 完掘 N →

SK-14 土層 N →



SK-14 完掘 N →

SK-17・ピット12 土層(A-A') E →



SK-17・ピット12 完掘 S →

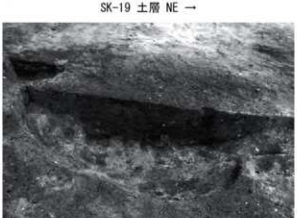
写真11　土坑（2）

SK-18 土層 SW →

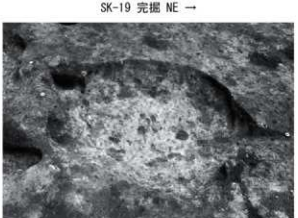
SK-18 完掘 SW →

SK-19 土層 NE →

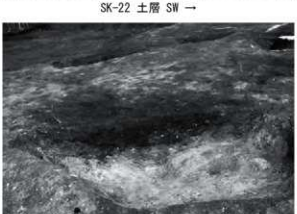
SK-19 完掘 NE →



SK-22 土層 SW →



SK-22 完掘 SW →



SK-25 土層 SE →

SK-25 完掘 SE →

写真12　土坑（3）

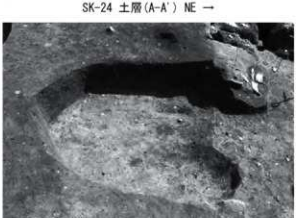
SK-24 完掘 S →

作業風景 E →

SK-24 土層(B-B') W →

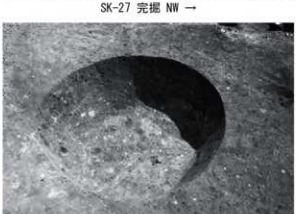
SK-24 土層(A-A') NE →

SK-27 土層 NW →



SK-27 完掘 NW →

SK-28 土層 W →



SK-28 完掘 W →

写真13　土坑（4）

SN-1 検出 S →

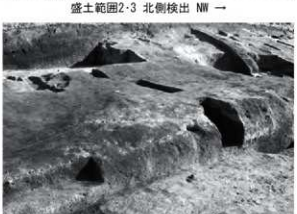
SN-1 土層 S →

SV-1 土層・完掘 SW →

盛土範囲2・3 南側検出 E →

盛土範囲2・3 北側検出 NW →

遺跡遠景(駒木沢対岸より遺跡を望む) SE →



盛土範囲1 検出 SW →

写真14　第１号焼土遺構/第１号溝状土坑/盛土範囲

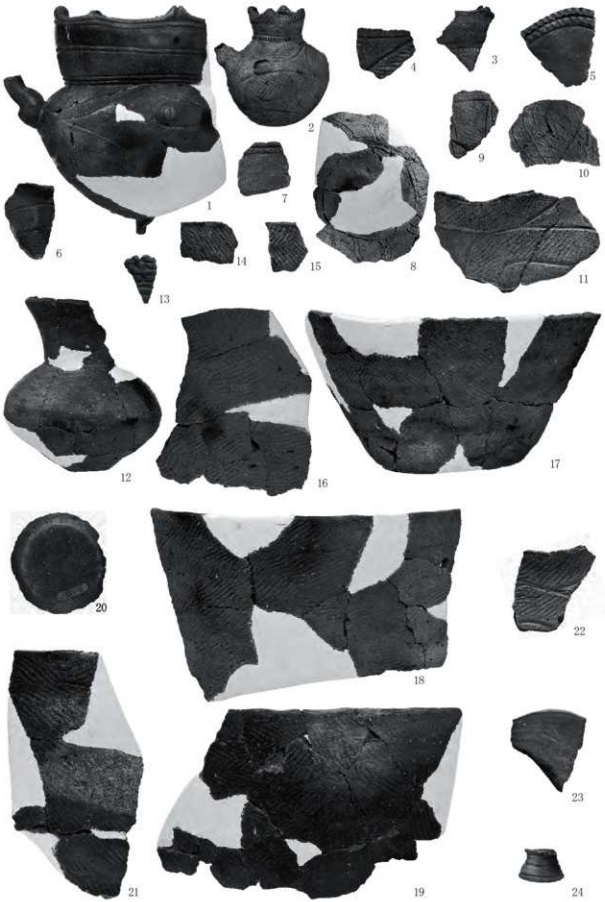



写真15　土器・土製品（1）

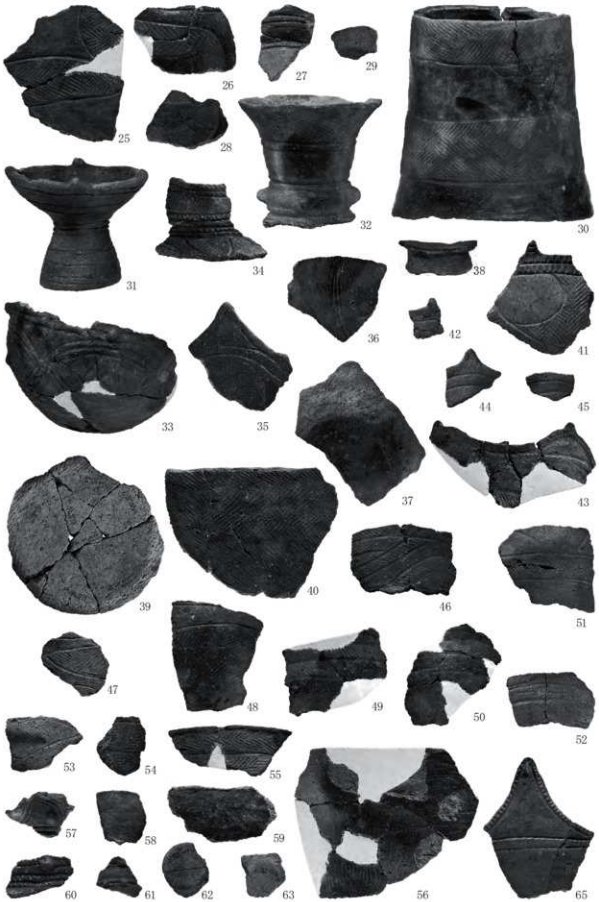

25
26
27
29
28
32
30
31
34
38
36
42
41
33
35
44
45
37
43
39
40
46
51
47
48
49
50
52
53
54
55
57
58
59
60
61
62
63
56
65

写真16　土器・土製品（2）

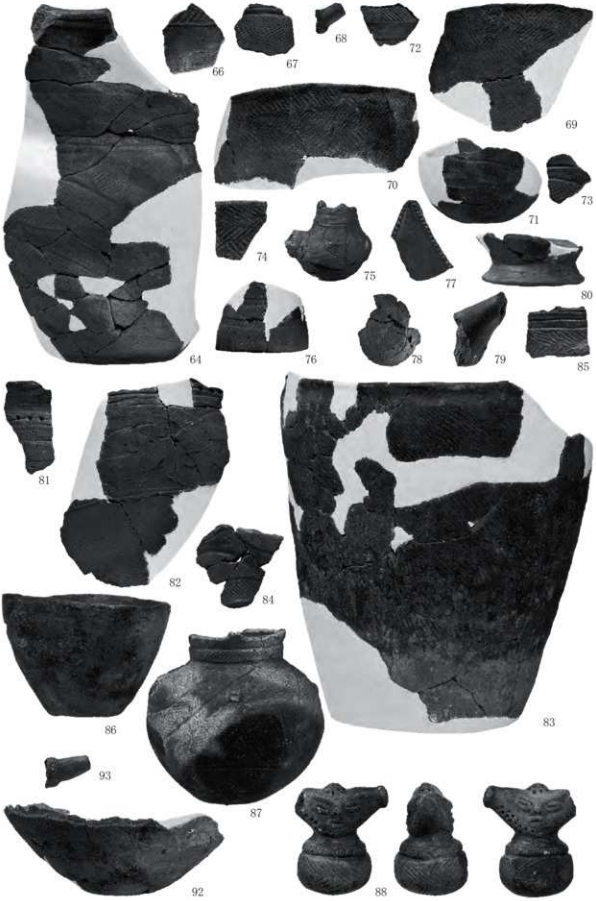

66
67
68
72
69
70
71
73
74
75
77
80
64
76
78
79
85
81
82
84
83
86
93
87
92
88

写真17　土器・土製品（3）

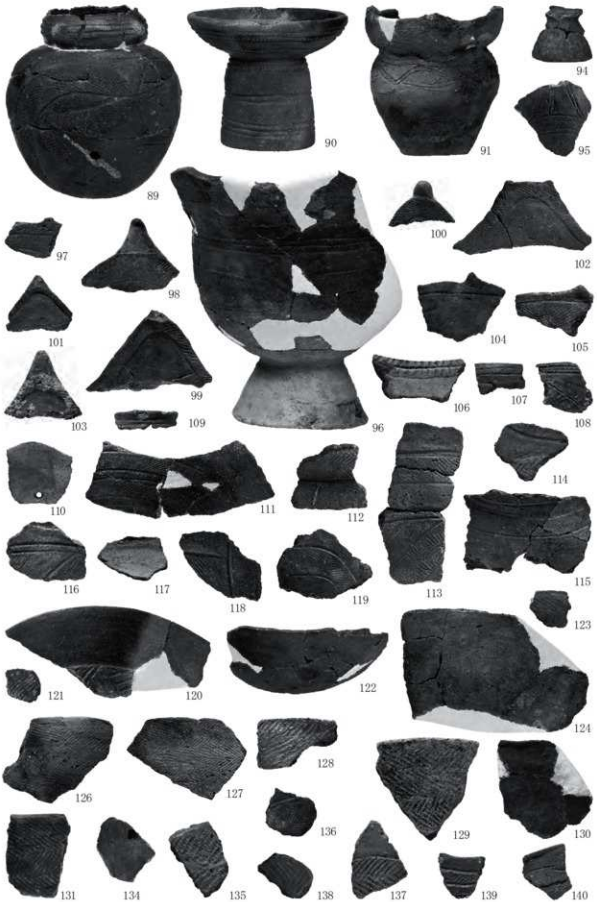

89
90
91
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
126
127
128
129
130
131
134
135
136
137
138
139
140

写真18　土器・土製品（4）

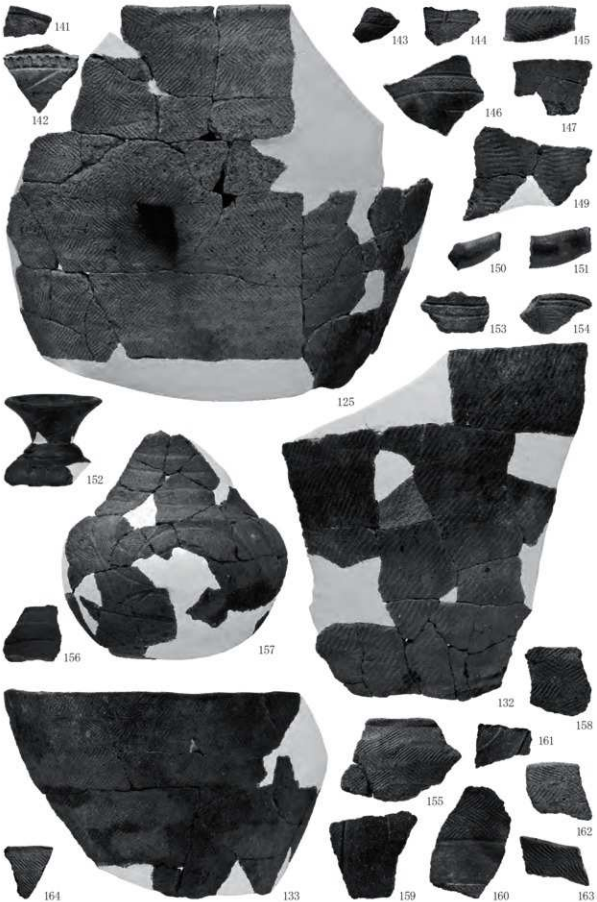

141
142
143
144
145
146
147
149
150
151
153
154
125
152
157
156
132
158
161
155
162
164
133
159
160
163

写真19　土器・土製品（5）

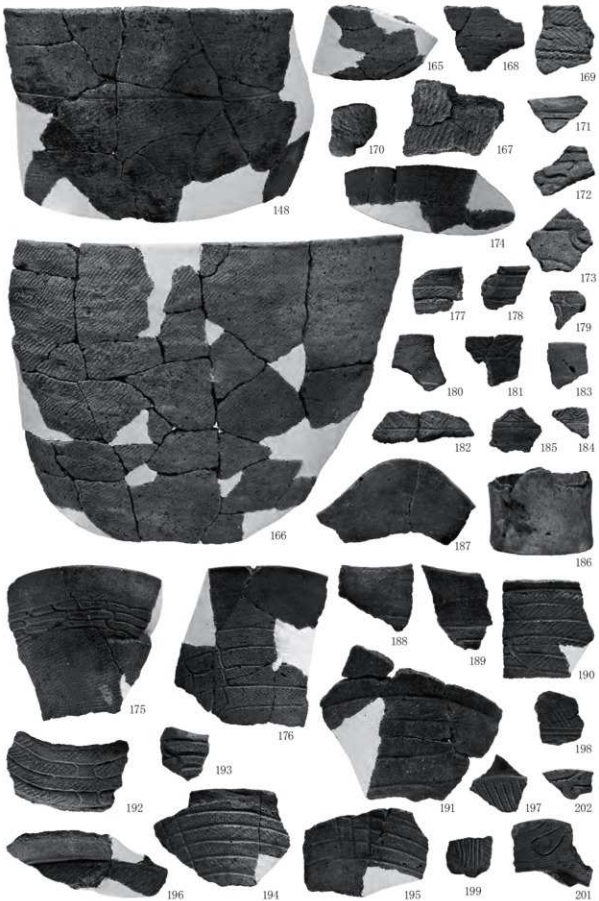

148
165
168
169
170
167
171
172
174
173
166
177
178
179
180
181
183
182
185
184
187
186
188
189
190
175
176
198
193
192
191
197
202
196
194
195
199
201

写真20　土器・土製品（6）

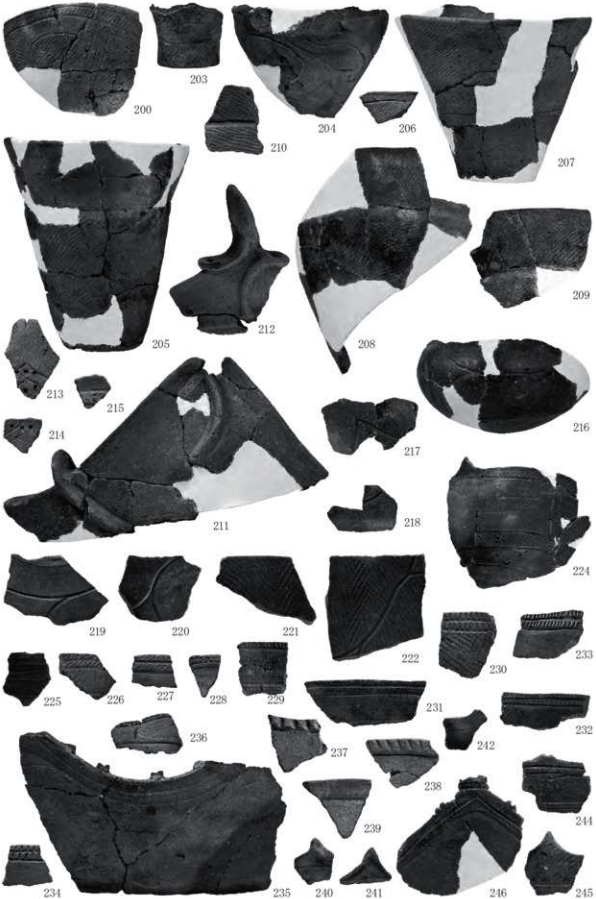

200
203
204
206
207
210
205
212
208
209
213
215
214
216
217
211
218
224
219
220
221
222
230
233
225
226
227
228
229
231
232
236
237
242
238
244
239
234
235
240
241
246
245

写真21　土器・土製品（7）

248
247
249
250
251
252
223
255
253
256
254
257
274
262
261
265
263
258
267
266
264
268
259
269
271
272
260
270
273
278
277
279
283
284

写真22　土器・土製品（8）

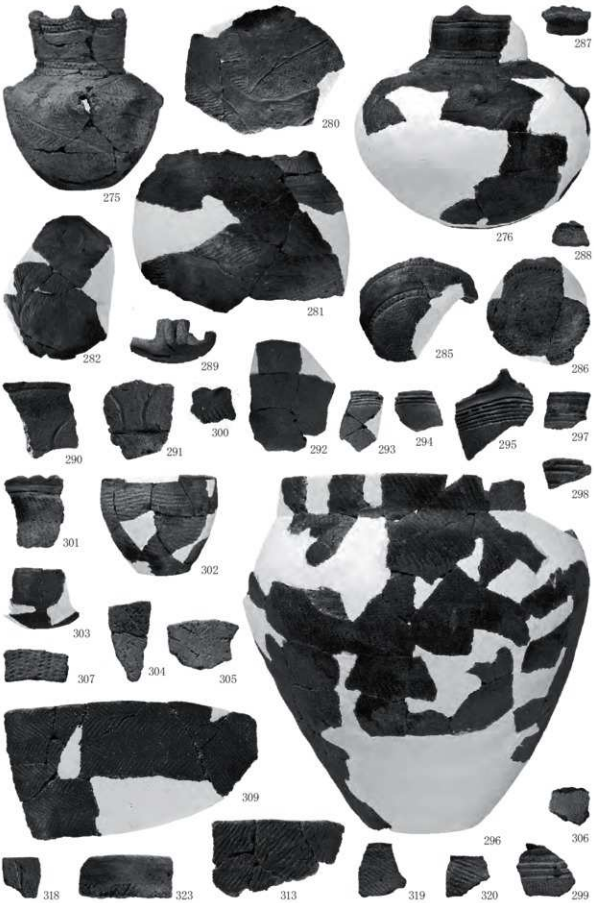

275
280
287
276
288
281
282
289
285
286
290
291
300
292
293
294
295
297
298
301
302
303
304
305
307
309
296
306
318
323
313
319
320
299

写真23　土器・土製品（9）

写真24　土器・土製品（10）/ 石器・石製品（1）

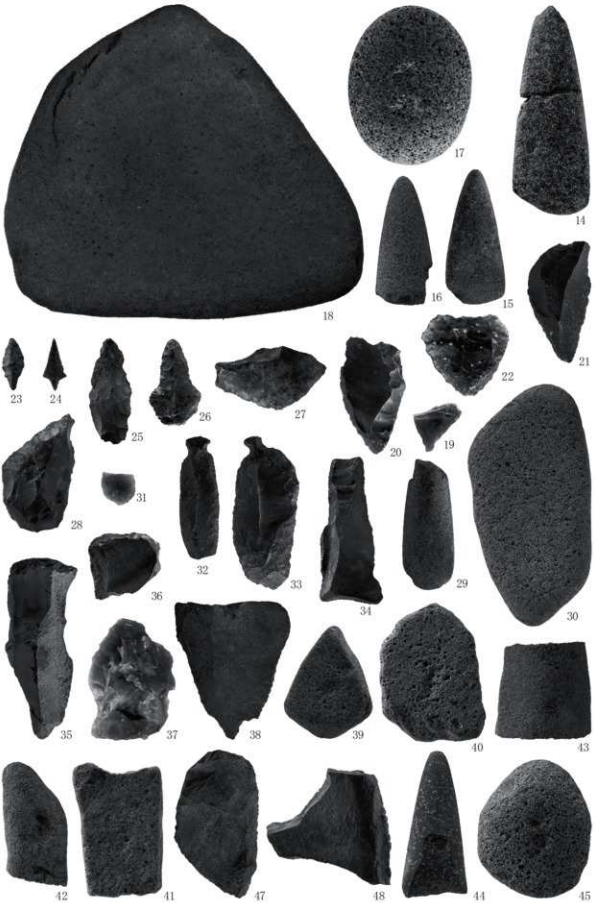

17
14
18
16
15
21
23
24
25
26
27
22
20
19
28
31
32
33
34
29
30
36
35
37
38
39
40
43
42
41
47
48
44
45

写真25　石器・石製品（2）

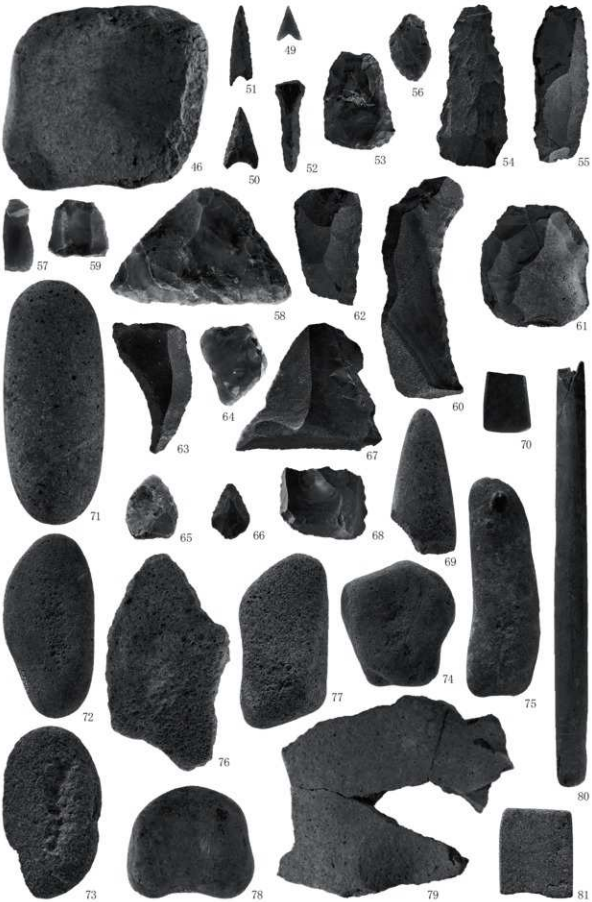

46
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81

写真26　石器・石製品（3）

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | こまきざわかっこにいせき |
| 書　　名 | 駒木沢(2)遺跡 |
| 副 書 名 | 県営一般農道整備事業（過疎基幹）に伴う遺跡発掘調査報告 |
| シリーズ名 | 青森県埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第532集 |
| 編 著 者 名 | 中嶋 友文・大平 哲世・荒谷 伸郎・成田 滋彦 |
| 編 集 機 関 | 青森県埋蔵文化財調査センター |
| 所　在　地 | 〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15　TEL 017-788-5701 |
| 発 行 機 関 | 青森県教育委員会 |
| 発 行 年 月 日 | 2013年3月27日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 世界測地系(JGD 2000)<br>北緯 | 世界測地系(JGD 2000)<br>東経 | 調査期間 | 調査面積(㎡) | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| こまきざわかっこにいせき<br>駒木沢(2)遺跡 | あおもりけんあおもりしかもだまちおおあざ<br>青森県南津軽郡大鰐町<br>はせがだけあざこまきざわかっこにいせきち<br>大字長峰字駒木沢地内 | 02362 | 362045 | 40°<br>31′<br>24″ | 140°<br>37′<br>30″ | 20101004<br>～<br>20101029<br>20110809<br>～<br>20111007 | 1,400 | 記録保存調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 駒木沢(2)遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 竪穴住居跡　9<br>掘立柱建物跡　1<br>土坑　22<br>焼土遺構　2<br>溝状土坑　1<br>ピット　6 | 縄文土器(前期・後期・晩期)・石器・土製品・石製品 | |

| | |
|---|---|
| 要　　約 | 大鰐町の長峰地区を西流する駒木沢の右岸に位置する縄文時代後期中葉～後葉の集落遺跡である。遺構は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、焼土遺構、溝状土坑、ピットを確認した。竪穴住居跡には出入口施設を有するものがある。遺物は縄文土器、石器、土製品、石製品があり、なかでも人面が表現されたスタンプ形土製品の出土が特筆される。 |

青森県埋蔵文化財調査報告書　第532集

# 駒 木 沢 (2) 遺 跡

－県営一般農道整備事業（過疎基幹）に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日　2013年３月27日

発　　行　青森県教育委員会

編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒030-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701　FAX 017-788-5702

印 刷 所　有限会社　アート印刷
〒037-0011 青森県五所川原市金山字亀ヶ岡46-7
TEL 0173-34-4487　FAX 0173-34-4459